令和元年度

AP 採択事業報告書

2020 年 3 月

岡山大学高大接続・学生支援センター

大学改革推進事業「大学教育再生加速プログラム（入試改革）」の推進について

高大接続・学生支援センター長
門田充司

岡山大学は，平成24年度から全国の国立大学に先駆け，IB Diploma取得者を対象としてIB入試を導入し，平成25年10月からマッチングプログラムコースにおいて秋入学を開始しました。さらに，平成27年度からは，全学部において若干人を対象に書類審査（一部面接を含む）のみのIB入試を導入しました。これらの実績が評価されて採択に至った本事業「大学教育再生加速プログラム（AP）テーマIII：入試改革」が6年間の最終年度となります。そこで総括として，本学が構築してきたIB入試・教育のモデルをテーマに，シンポジウム「IB教育に向き合った「岡山大学モデル」」を開催いたしました。まずは，本学におけるIB入試・教育を立ち上げられ，本事業にも当初から関わってこられた前アドミッションセンター長から，入試の設計から入学後のサポートに至る岡山大学モデルの紹介がありました。また，鹿児島大学からは，IB入試導入の背景やIB教育の実施体制などに関する報告がありました。引き続き，IB 校の立場として，立命館宇治中学校・高等学校ならびにカナディアンアカデミーから，IB 教育の現状や大学選択行動に関する報告があり，最後には，約60名の参加者を含めたパネルディスカッションを行いました。IB校側からは，生徒を積極的に受け入れたい大学かどうかは，合格基準や入試システムの明確さ，そして面接の内容や面接官の対応などに表れているとの意見があり，大学にとって，入試も広報の重要な要素の一部であることがあらためて確認されました。

学内の教育に関しては，教養教育においてTOK（Theory of Knowledge）やCAS（Creativity, Action, Service）などのIBの教育手法を取り入れた新たな科目を今年度から開設しました。また，IB 校出身者を新たに受け入れた教育学部では，高校生が英語を学ぶ機会の拡充に係る地方公共団体事業への連携を開始しました。IB 校出身者の受け入れ実績のある医学部医学科では，課題解決型学習などのアクティブラーニングの牽引役になることを期待して，様々な学習の導入を推進しています。また，IB 校出身者と理事，アドミッション関連の教職員を交えて開催した懇談会では，日本の教育制度や大学生活に関する率直な思いを語ってもらうことで，学生への理解を深めました。今後はIB校出身者がまだいない学部の教職員にも参加してもらい，本学のIB入試をさらに推進する予定です。

IB教育の調査・研究に関する報告に関しては，国際バカロレア教育学会，日本医学教育学会などで報告するとともに，岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要に研究論文を投稿しました。また，専任教員が本事業での成果をアメリカのIGI Global社から出版予定のEducational Reform and International Baccalaureate in the Asia-Pacificにも執筆しています。

以上のように，今年度ならびに6年間の本学の活動は，我が国におけるIB教育の普及と海外IB校への情報伝達に貢献できたものと考えております。

目　次

■　岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会設置要項 1

■　令和元年度岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会委員名簿 3

■　国際バカロレア（IB）の手法を用いた教育について 4

■　国際バカロレア（IB）に関する研究報告等

●　AP 事業テーマ III「入試改革・高大接続」採択校合同シンポジウム 19
「国際バカロレア教育への理解を深め，国際バカロレア入試の拡大を図る」

●　第 9 回アドミッションセミナー
「国際バカロレア入試の現在」 29

●　論文投稿

・Backgrounds and Characteristics of IB Students Enrolled at Okayama University: A 7-year Experience 34

・Interpretation of IB learner profile characteristics among students in Japanese Super Global High Schools 41

●　研究発表

・A 7 year reflection on IB enrollment at a Japanese National University 42

・The Impact of IB education in Higher Education 43

●　IB 修了生へのフォローアップ調査 44

■　勉強会・講演会の開催

●　教育学部での講演会 46

■　シンポジウムの開催
『IB 教育に向き合った「岡山大学モデル」』 53

■　令和元年度 IB 入試広報活動実績

●　カレッジフェア参加 91

■　国際バカロレア（IB）生の活動

●　オープンキャンパス 92

●　高校訪問 93

●　地域貢献活動 94

■　IB 生懇談会 95

■　他大学との意見交換 97

■　岡山大学　大学教育再生加速プログラム(入試改革)運営委員会設置要項

岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会設置要項

（平成２７年１月２８日
学　長　裁　定）

一部改正　平成３１年４月２６日

（設置）

第１条　岡山大学（以下「本学」という。）が実施する文部科学省事業「大学教育再生加速プログラム（入試改革）」（以下「AP 事業」という。）の円滑な実施及び運営のため，本学に，岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会（以下「AP 運営委員会」という。）を置く。

（業務）

第２条　ＡＰ運営委員会は，国内における国際バカロレア（以下「ＩＢ」という。）教育への理解を促進し，ＩＢ入試を普及させ，及び本学がＩＢ入試実施大学の拠点としての役割を果たすため，次の各号に掲げる業務を行う。

一　国内外のＩＢ校に対する広報活動

二　ＩＢ教育に関する調査研究及び関係機関への情報提供

三　国内におけるＩＢ入試の普及活動

四　本学における入試改善のための提言

五　その他ＡＰ事業の実施に関し必要な事項

（組織）

第３条　AP 運営委員会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。

一　教学担当理事

二　高大接続・学生支援センター長

三　副センター長のうち教学担当理事が指名する者

四　高大接続・学生支援センターアドミッション部門の教員

五　本学の教員のうちから教学担当理事が推薦する者　若干人

六　その他教学担当理事が必要と認めた者

２　前項第５号の委員の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，欠員を生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第４条　互選により，委員会に委員長を置く。

２　委員長は，AP 運営委員会を招集し，その議長となる。

３　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（議事）

第５条　AP 運営委員会は，委員の半数以上の出席がなければ，議事を開き，議決することはできない。

２　AP 運営委員会の協議事項は，出席委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

（委員以外の者の出席）

第６条　AP 運営委員会は，必要があるときは，委員以外の者の出席を求め，その意見を聴くことができる。

（事務）

第７条　AP 運営委員会の事務は，学務部入試課において処理する。

（雑則）

第８条　この要項に定めるもののほか，AP 運営委員会に関し，必要な事項は，別に定める。

附　則

１　この要項は，平成２７年　１月２８日から施行し，平成２６年１２月１日から適用する。

２　この要項の施行後最初に任命される第３条第５号の委員の任期は，同条第２項の規定にかかわらず，平成２７年３月３１日までとする。

附　則

１　この要項は，平成３１年４月２７日から施行する。

■　令和元年度岡山大学　大学教育再生加速プログラム(入試改革)運営委員委員名簿

令和元年度岡山大学 大学教育再生加速プログラム（入試改革）運営委員会委員名簿

所　属　等	職　名	氏　　名	期間	備　　考
	教学担当 理事	サ ノ ヒロシ 佐 野　寛	H29.4.3～R2.3.31	第3条第1項1号
高大接続・ 学生支援ｾﾝﾀｰ長	入試改革 副学長	モン タ ミツ ジ 門 田 充 司	R1.6.3～2.3.31	第3条第1項2号
高大接続・ 学生支援ｾﾝﾀｰ 副ｾﾝﾀｰ長	教授	デン ノ サトシ 田 野　哲	R1.6.3～2.3.31	第3条第1項3号
〃	教授	ハラ ダ カズ ユキ 原 田 和 往	R1.6.3～2.3.31	〃
高大接続・ 学生支援ｾﾝﾀｰ ｱﾄﾞﾐｯｼｮﾝ部門	教授	タ ナカ カツ ミ 田 中 克 己	H26.12.1～R2.3.31	第3条第1項4号
〃	准教授	ウエ ダ イチ ロウ 上 田 一 郎	H26.12.1～R2.3.31	〃
教育学部	教授	クワ バラ トシ ノリ 桑 原 敏 典	H30.6.7～R2.3.31	第3条第1項5号
理学部	教授	ウエ ダ ヒトシ 上 田　均	R1.6.3～2.3.31	第3条第1項5号
医学部保健学科	教授	モリ モト ミ チ コ 森 本 美 智 子	R1.6.3～2.3.31	第3条第1項5号
高等教育開発推進 ｾﾝﾀｰ	教授	イイ ヅカ マサ ヤ 飯 塚 誠 也	R1.6.3～2.3.31	第3条第1項5号
高大接続・ 学生支援ｾﾝﾀｰ 学生支援部門	准教授	マ ハ ム ド サ ビ ナ MAHMOOD SABINA	R1.6.3～2.3.31	第3条第1項5号
全学教育・ 学生支援機構	UAA	イシ イ イチ ロウ 石 井 一 郎	H29.6.9～R2.3.31	第3条第1項5号

（全12名）

■ 国際バカロレア(IB)の手法を用いた教育について

ウェルネス入門

授業基本情報

講義番号	912509
授業科目	ウェルネス入門
担当教員（所属）	宇塚　万里子 (91：教養教育)，ＭＡＨＭＯＯＤ　ＳＡＢＩＮＡ (91：教養教育)
学期	2019年度　Q：4学期
曜日・時限	月曜7，月曜8
単位数	1
教室	一般教育棟Ｃ３１教室
ナンバリングコード	KCIZ5LAFZ2001N
印刷用ページ	https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&nendo=2019&shozoku=91&jikanwari=2509&sylocale=ja_JP
科目区分	2019年度入学者：教養教育科目/汎用的技能と健康（キャリア教育） 2018年度入学者：教養教育科目/汎用的技能と健康（キャリア教育） 2017年度入学者：教養教育科目/汎用的技能と健康（キャリア教育） 2018年度以前入学者は，講義番号が異なる場合がありますので，以下のHPをご確認ください。 （http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/timetableindex.html）
対象学生	2019年度入学者：全 2018年度入学者：全 2017年度入学者：全 2018年度以前入学者は，講義番号が異なる場合がありますので，以下のHPをご確認ください。 （http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/timetableindex.html）
必修・選択の別	選択
他学部学生の履修の可否	対象学生の項目を参照
連絡先	Mahmood Sabina: sabina@okayama-u.ac.jp ; Uzuka Mariko: muzuka@okayama-u.ac.jp
オフィスアワー	Tuesday; Wednesday; Thursday　11:00-13:00 ; 16:00-18:00
学部・研究科独自の項目	関連しない
使用言語	英語
授業の概要	People living in the modern era including students, experience a huge amount of daily stress, which is inevitable. However, we need to find ways to adjust to a changing environment and cope with stress on a daily basis. Therefore, it is very essential to find different ways of relieving and lowering our stress levels. In this course, through hands on experience and active engagement, students will be able to explore the amazing power of their 5 senses, and effectively use them to relieve stress. この授業は英語で行われます。
学習目的	This course will provide opportunities for students to experience various approaches to relaxation and mindfulness and ways to strengthen their wellness. With the newly acquired knowledge of how the five senses can influence their behavioral changes, students are expected to apply them to calm their mind and body and lead a healthier student life at Okayama University.
到達目標	By the end of this course, students should be able to: Understand the importance of maintaining wellness and learn the various ways to attain it, through a series of lectures and hands on experience. Share their experiences and opinions in class effectively. Apply the knowledge and skills gained during this course to their everyday student lives, and find their own approached in managing stress and gaining overall wellness.
授業計画	①Introduction to "Holistic Wellness", course content and getting to know each other. ②The healing power of spices: Spice is not only for curry. Tasting Masala (spicy) Tea. ③Color Psychology: How colors and fashion influence the mind. Usage of color in the fashion world has a long history, strong values and cultural backgrounds. Through learning and experience, you might encounter a new culture and re-discover yourself! ④ The joy and satisfaction of making something from scratch and creating something original: Beads workshop (1,000 yen required for material costs) ⑤The role of Music in health and wellness: Music connects people: Let's try out a musical instrument and make music from the heart! ⑥ Joys of food: How food brings people and cultures together. Curry has a history of over 4,000 years, including geographical and socio-cultural values, in addition to nutritional benefits. A taste of authentic Indian food while listening to the history of spice. (approximately 1,000 yen required for dinner).

	⑦ -⑧Wrap up discussions on how to release stress and gain overall wellness including presentations.
授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)	Short writing assignments and final presentation
(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合	40% ： 60%
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)	やや多い
(3)授業形態-実践型科目タイプ	ＧＢタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するＢタイプ）
(4)授業形態-履修者への連絡事項	特別な配慮を必要とする場合は，事前にご相談ください。 Interactive lectures followed by small group discussions, report writing and presentations (individual or as a group). Students will be strongly encouraged to express and share their opinions proactively. If you have any concerns and questions and/or special arrangement needed, please contact instructors in advance. この授業は英語で行われます。英語試験の点数は不要ですが、授業内での留学生との英語ディスカッションやプレゼンテーションに積極的に参加する姿勢が必要です。
使用メディア・機器・人的支援の活用-視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)	多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-学習管理システム(Moodleなど)	少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)	少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-履修者への連絡事項	特別な配慮を必要とする場合は，事前にご相談ください。
教科書	なし
参考書等	Handouts will be provided as per relevance
成績評価	Assignment 40% , Participation 20%, Presentation 40%
担当教員の研究活動との関連	
受講要件	Does not require a given level of prior knowledge but students are expected to actively involved in class discussions and experience new culture in diversified class. 英語力要件：外部試験の点数は不要ですが、授業内のディスカッション、プレゼンテーション、課題は英語です。
教職課程該当科目	この項目は当該科目に該当しない。
JABEEとの関連	JABEE（ｆ）（ｇ）(i)
主なSDGs関連項目1	3 すべての人に健康と福祉を
主なSDGs関連項目2	17 パートナーシップで目標を達成しよう
主なSDGs関連項目3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目	
備考/履修上の注意/実務経験の内容	本科目は、抽選対象科目です。 抽選で当選した学生あるいは，Ｗｅｂ追加募集で当選した学生以外履修できません。 所属学部の掲示板及び岡山大学公式HPを確認のうえ，指定された期間内に抽選登録してください。 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/kyomu1_5.html

Material fee approximately 1,000yen (craft) & restaurant food fee approximately (1,000 yen) is necessary for this class. Please come with open hearts and big smiles. Both Japanese and International students are welcome. この授業では、材料費1,000円とレストラン実習費 (約1,000円)がかかります。

コンピテンシー

【 教 養 】人間性・倫理観	5%
【 教 養 】創造力・想像力	0%
【 教 養 】論理的思考・判断力	24%
【 教 養 】幅広い分野に対する関心	16%
【 教 養 】幅広い分野に関する基礎力	0%
【 専門性 】特定分野に関する基礎力	0%
【 情報力 】情報収集力	0%
【 情報力 】情報活用力	0%
【 情報力 】情報発信力	0%
【 行動力 】課題を発見・解決する力	16%
【 行動力 】コミュニケーション能力	26%
【 行動力 】言語理解力	5%
【 行動力 】言語運用力	0%
【自己実現力】セルフマネジメント力	3%
【自己実現力】日常的な自己研鑽力	0%
【自己実現力】未来を設計する力	5%
関連割合の合計	100%

Copyright(c) 2001- NS Solutions Corporation All rights reserved.

コミュニティ・サービス入門

授業基本情報

講義番号	912510
授業科目	コミュニティ・サービス入門
担当教員（所属）	宇塚　万里子 (91：教養教育)，ＭＡＨＭＯＯＤ　ＳＡＢＩＮＡ (91：教養教育)
学期	2019年度　Ｑ：2学期
曜日・時限	火曜7，火曜8
単位数	1
教室	一般教育棟Ｃ３１教室
ナンバリングコード	ULAZ5LAFZ2001N
印刷用ページ	https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&nendo=2019&shozoku=91&jikanwari=2510&sylocale=ja_JP
科目区分	2019年度入学者：教養教育科目/汎用的技能と健康（キャリア教育） 2018年度入学者：教養教育科目/汎用的技能と健康（キャリア教育） 2017年度入学者：教養教育科目/汎用的技能と健康（キャリア教育） 2018年度以前入学者は，講義番号が異なる場合がありますので，以下のHPをご確認ください。 （http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/timetableindex.html）
対象学生	2019年度入学者：全 2018年度入学者：全 2017年度入学者：全 2018年度以前入学者は，講義番号が異なる場合がありますので，以下のHPをご確認ください。 （http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/timetableindex.html）
必修・選択の別	選択
他学部学生の履修の可否	対象学生の項目を参照
連絡先	Mahmood Sabina: sabina@okayama-u.ac.jp ; Uzuka Mariko: muzuka@okayama-u.ac.jp
オフィスアワー	Tuesday; Wednesday; Thursday　11:00-13:00 ; 16:00-18:00
学部・研究科独自の項目	関連しない
使用言語	英語
授業の概要	This course involves a series of interactive lectures to introduce the student to the world of community service (elderly care in particular) while engaging students in active conversation from prior experiences or future insights. Two visits to a local nursing home is also scheduled, so that students can experience doing volunteer work by communicating with local people. Student feedback and reflection will be done through writing assignments and sharing student views through presentations. この授業は英語で行われます。（施設訪問の際は、英語・日本語）
学習目的	This course will help students understand their important role as an accountable member of a large aging society, and hopefully arouse awareness for further community involvement in their future.
到達目標	By the end of this course, students should be able to: Understand the meaning of community service through lectures and on site experience. Share their experience and opinion regarding community service. Apply knowledge and skills gained during this course and find their own unique style of community involvement, in the future.
授業計画	①Introduction to community service, course content and getting to know each other ②Caring for the elderly: An essential part of community service in a rapidly aging society ③Introduction to visiting Nursing homes in Japan: Differences with Nursing homes abroad ④1st. visit to a nursing home in downtown Okayama City: Hands on experience ⑤Discussing and reporting personal and shared experiences while visiting a Nursing home for the first time ⑥2nd. visit to a nursing home in downtown Okayama City: Meeting and interacting with the elderly ⑦Discussing and reporting personal and shared experiences while interacting with the elderly ⑧Feedbacks and reflections about the course and wrap up discussions on newer approaches towards elderly care
授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)	There will be 2 writing assignments based on the lessons and visits to the nursing home and preparation for the final presentation

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合	40% ： 60%
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)	多い
(3)授業形態-実践型科目タイプ	ＧＢタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するＢタイプ）
(4)授業形態-履修者への連絡事項	特別な配慮を必要とする場合は，事前にご相談ください。 Interactive lectures followed by small group discussions, report writing and presentations (individual or as a group). Students will be strongly encouraged to express and share their opinions proactively. If you have any concerns, questions and/or require special arrangements, please contact the instructors in advance. この授業は実習をのぞいて英語で行われます。英語試験の点数は不要ですが、授業内での留学生との英語ディスカッションやプレゼンテーションに積極的に参加する姿勢が必要です。
使用メディア・機器・人的支援の活用-視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)	多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-学習管理システム(Moodleなど)	少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)	少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-履修者への連絡事項	特別な配慮を必要とする場合は，事前にご相談ください。
教科書	なし
参考書等	Handouts will be provided as per relevance
成績評価	Assignment and Discussion 60%.　Participation in Nursing Home Visits 20%, Overall Participation 20% Students will be asked to write 2 assignments based on the relevant information provided during the course and through their first-hand experiences. Assessments will be based on student efforts to utilize the resources in order to explore the course topic, and the overall participation and zest of students in class. 課題、プレゼンテーション、ディスカッションは英語です。
担当教員の研究活動との関連	
受講要件	Does not require a given level of prior knowledge. However, students are expected to learn through brainstorming, discussions and on site experiences that will encourage them to participate in future community service projects.
教職課程該当科目	この項目は当該科目に該当しない。
JABEEとの関連	JABEE（ｆ）（ｇ）(i)
主なSDGs関連項目1	3 すべての人に健康と福祉を
主なSDGs関連項目2	17 パートナーシップで目標を達成しよう
主なSDGs関連項目3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目	
備考/履修上の注意/実務経験の内容	本科目は、抽選対象科目です。 抽選で当選した学生あるいは，Ｗｅｂ追加募集で当選した学生以外履修できません。 所属学部の掲示板及び岡山大学公式HPを確認のうえ，指定された期間内に抽選登録してください。 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/kyomu1_5.html It is important to attend 2 visits to the Nursing home near Okayama Castle and write 2

assignments for assessment and reflection.

コンピテンシー

【　教　養　】人間性・倫理観	7%
【　教　養　】創造力・想像力	0%
【　教　養　】論理的思考・判断力	23%
【　教　養　】幅広い分野に対する関心	8%
【　教　養　】幅広い分野に関する基礎力	0%
【　専門性　】特定分野に関する基礎力	0%
【　情報力　】情報収集力	5%
【　情報力　】情報活用力	0%
【　情報力　】情報発信力	0%
【　行動力　】課題を発見・解決する力	14%
【　行動力　】コミュニケーション能力	25%
【　行動力　】言語理解力	2%
【　行動力　】言語運用力	0%
【自己実現力】セルフマネジメント力	8%
【自己実現力】日常的な自己研鑽力	0%
【自己実現力】未来を設計する力	8%
関連割合の合計	100%

Copyright(c) 2001- NS Solutions Corporation All rights reserved.

Self exploration through Creativity

授業基本情報

講義番号	912519
授業科目	Self exploration through Creativity
担当教員（所属）	ＭＡＨＭＯＯＤ　ＳＡＢＩＮＡ (91：教養教育)
学期	2020年度　Q：3学期
曜日・時限	月曜3，月曜4
単位数	1
教室	一般教育棟Ｄ４１教室
ナンバリングコード	
印刷用ページ	https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&nendo=2020&shozoku=91&jikanwari=2519&sylocale=ja_JP
科目区分	2020年度入学者：汎用的技能と健康（キャリア教育） 2019年度入学者：汎用的技能と健康（キャリア教育） 2018年度入学者：汎用的技能と健康（キャリア教育）
対象学生	2020年度入学者：全 2019年度入学者：全 2018年度入学者：全
必修・選択の別	選択
他学部学生の履修の可否	対象学生の項目を参照
連絡先	Mahmood Sabina: sabina@okayama-u.ac.jp ;
オフィスアワー	Tuesday; Wednesday; Thursday　10:00-13:00 ; 15:00-18:00 Monday and Friday　15:00-18:00
学部・研究科独自の項目	関連しない
使用言語	英語
授業の概要	Self exploration means “getting to know yourself”. It is a way of taking a look at your own thoughts, feelings, behaviors and motivations and to have deeper understanding of who you really are. In this course, students will be asked to take up a new challenge, group or solo, and track its progress during the course. Through periodic class discussions, students will have an opportunity to reflect upon the simple but important details of their project and give each other constructive feedback. This in turn will help them to know the struggles and success routes of others and grow together, through observations and reflections. この授業は英語で行われます。
学習目的	This course will provide opportunities to students to understand why they do what they do, leading to improvement in self-esteem, communication and relationship skills.
到達目標	By the end of this course, students are expected to: a) Demonstrate how to take up a new challenge and initiate a plan; b) try to develop a new skill; c) identify their own strengths and develop areas of personal growth; d) show commitment and perseverance; e) Recognize the benefits of feedbacks, reflections and collaborative work.
授業計画	Week 1: Introduction to course content and getting to know each other. Week 2: Introduction to “Benefits of Self Exploration”. Students choose and plan a self-exploration project (group or solo) from the following: a) Learn something new; b) Take up a physical challenge; c) Plan a community service activity Week 3: Reporting the first week progress of the project (group or solo): Reflections on: a) How it is progressing; b) What are the hurdles; c) What can be improved. Students share with the whole class and give each other feedbacks through discussions. Week 4: Reporting the second week progress of the project (group or solo): Reflections on: a) How it is progressing; b) Did the new changes work; c) Should they take a new challenge. Students share with the whole class and give each other feedbacks through discussions. Week 5: Learning about the self-exploration journey of famous people: What their journey of success and failure can teach us. Week 6: Reporting the progress of the project (original or new project): Reflections on: a) Final changes to be made; b) Carrying on the present progress. Students share with the whole class and give each other feedbacks through discussions. Week 7: Students summarize their final progress and give each other feedback a final feedback. Week 8: Wrap up discussions and final presentations. Mini tea party.
	Preparation for short writing assignments and final presentation

授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)	
(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合	40% ： 60%
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)	多い
(3)授業形態-実践型科目タイプ	ＧＢタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するＢタイプ）
(4)授業形態-履修者への連絡事項	特別な配慮を必要とする場合は，事前にご相談ください。 Interactive lectures followed by small group discussions, report writing and presentations (individual or as a group). Students will be strongly encouraged to express and share their opinions proactively. If you have any concerns, questions and/or require special arrangements, please contact the instructors in advance. この授業は実習をのぞいて英語で行われます。英語試験の点数は不要ですが、授業内での留学生との英語ディスカッションやプレゼンテーションに積極的に参加する姿勢が必要です。
使用メディア・機器・人的支援の活用-視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)	多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-学習管理システム(Moodleなど)	少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)	少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-履修者への連絡事項	特別な配慮を必要とする場合は，事前にご相談ください。
教科書	なし
参考書等	Handouts will be provided as per relevance
成績評価	Assignment 40%, Participation 20%, Presentation 40% 課題、プレゼンテーション、ディスカッションは英語です。英語で難しいプレゼンテーションやディスカッションは日本語でも大丈夫です。
担当教員の研究活動との関連	
受講要件	Does not require a given level of prior knowledge. However, students are expected to learn through discussions and feedbacks. 英語で難しい説明は日本語でも大丈夫です。
教職課程該当科目	この項目は当該科目に該当しない。
JABEEとの関連	JABEE（ｆ）（ｇ）(i)
主なSDGs関連項目1	3 すべての人に健康と福祉を
主なSDGs関連項目2	17 パートナーシップで目標を達成しよう
主なSDGs関連項目3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目	
備考/履修上の注意/実務経験の内容	本科目は、抽選対象科目です。 抽選で当選した学生あるいは，Ｗｅｂ追加募集で当選した学生以外履修できません。 所属学部の掲示板及び岡山大学公式HPを確認のうえ，指定された期間内に抽選登録してください。 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/kyomu1_5.html

コンピテンシー

【　教　養　】人間性・倫理観	5%
【　教　養　】創造力・想像力	16%
【　教　養　】論理的思考・判断力	24%
【　教　養　】幅広い分野に対する関心	0%
【　教　養　】幅広い分野に関する基礎力	0%
【　専門性　】特定分野に関する基礎力	0%
【　情報力　】情報収集力	0%
【　情報力　】情報活用力	0%
【　情報力　】情報発信力	0%
【　行動力　】課題を発見・解決する力	16%
【　行動力　】コミュニケーション能力	26%
【　行動力　】言語理解力	5%
【　行動力　】言語運用力	0%
【自己実現力】セルフマネジメント力	5%
【自己実現力】日常的な自己研鑽力	0%
【自己実現力】未来を設計する力	3%
関連割合の合計	100%

Copyright(c) 2001- NS Solutions Corporation All rights reserved.

ウェルネス入門　1

授業基本情報

講義番号	912501
授業科目	ウェルネス入門　1
担当教員（所属）	ＭＡＨＭＯＯＤ　ＳＡＢＩＮＡ (91：教養教育)
学期	2020年度　Ｑ：4学期
曜日・時限	火曜7，火曜8
単位数	1
教室	一般教育棟Ｃ２２教室
ナンバリングコード	
印刷用ページ	https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&nendo=2020&shozoku=91&jikanwari=2501&sylocale=ja_JP
科目区分	2020年度入学者：汎用的技能と健康（キャリア教育） 2019年度入学者：汎用的技能と健康（キャリア教育） 2018年度入学者：汎用的技能と健康（キャリア教育）
対象学生	2020年度入学者：全 2019年度入学者：全 2018年度入学者：全
必修・選択の別	選択
他学部学生の履修の可否	対象学生の項目を参照
連絡先	Mahmood Sabina: sabina@okayama-u.ac.jp ;
オフィスアワー	Tuesday; Wednesday; Thursday　10:00-13:00 ; 15:00-18:00 Monday and Friday 15:00-18:00
学部・研究科独自の項目	関連しない
使用言語	英語
授業の概要	People living in the modern era including students, experience a huge amount of daily stress, which is inevitable. However, we need to find ways to adjust to a changing environment and cope with stress on a daily basis. Therefore, it is very essential to find different ways of relieving and lowering our stress levels. In this course, through hands on experience and active engagement, students will be able to explore the amazing power of their 5 senses, and effectively use them to relieve stress. この授業は英語で行われます。
学習目的	This course will provide opportunities for students to experience various approaches to relaxation and mindfulness and ways to strengthen their wellness. With the newly acquired knowledge of how the five senses can influence their behavioral changes, students are expected to apply them to calm their mind and body and lead a healthier student life at Okayama University.
到達目標	By the end of this course, students should be able to: Understand the importance of maintaining wellness and learn the various ways to attain it, through a series of lectures and hands on experience. Share their experiences and opinions in class effectively. Apply the knowledge and skills gained during this course to their everyday student lives, and find their own approached in managing stress and gaining overall wellness.
授業計画	①Introduction to “The 8 Dimensions of Wellness”, course content and getting to know each other. ②Herbs, Spices and Wellness: Learn about the different herbs and spices and their connection to wellness. Touch and smell real spices! ③Fashion and Wellness: Learn how fashion influences the mind and how strong values and cultural backgrounds influence fashion trends. Try on Ethnic clothes! ④ Discussion and Presentation about the role of Spices and Fashion in Wellness. ⑤Crafts and Wellness: The joy and satisfaction of making something from scratch and creating something original: Beads workshop (1,000 yen required for material costs) ⑥ Music and Wellness: Learn how music connects people and calms the heart. Let’s try out a musical instrument in class! ⑦ Discussion and Presentation about the role of Crafts and Music on Wellness. ⑧Wrap up discussion and presentation about the whole course. Let's taste authentic Indian food! (approximately 1,000 yen required for dinner).
授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)	Short writing assignments and final presentation
	40%　：　60%

(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合	
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-協働的活動(ペア・グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)	やや多い
(3)授業形態-実践型科目タイプ	ＧＢタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するＢタイプ）
(4)授業形態-履修者への連絡事項	特別な配慮を必要とする場合は，事前にご相談ください。 Interactive lectures followed by small group discussions, report writing and presentations (individual or as a group). Students will be strongly encouraged to express and share their opinions proactively. If you have any concerns and questions and/or special arrangement needed, please contact instructors in advance. この授業は英語で行われます。英語試験の点数は不要ですが、授業内での留学生との英語ディスカッションやプレゼンテーションに積極的に参加する姿勢が必要です。
使用メディア・機器・人的支援の活用-視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)	多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-学習管理システム(Moodleなど)	少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)	少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-履修者への連絡事項	特別な配慮を必要とする場合は，事前にご相談ください。
教科書	なし
参考書等	Handouts will be provided as per relevance
成績評価	Assignment 40% , Participation 20%, Presentation 40%
担当教員の研究活動との関連	
受講要件	Does not require a given level of prior knowledge but students are expected to actively involved in class discussions and experience new culture in diversified class. 英語力要件：外部試験の点数は不要ですが、授業内のディスカッション、プレゼンテーション、課題は英語です。
教職課程該当科目	この項目は当該科目に該当しない。
JABEEとの関連	JABEE（ｆ）（ｇ）(i)
主なSDGs関連項目1	3 すべての人に健康と福祉を
主なSDGs関連項目2	17 パートナーシップで目標を達成しよう
主なSDGs関連項目3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目	
備考/履修上の注意/実務経験の内容	本科目は、抽選対象科目です。 抽選で当選した学生あるいは，Ｗｅｂ追加募集で当選した学生以外履修できません。 所属学部の掲示板及び岡山大学公式HPを確認のうえ，指定された期間内に抽選登録してください。 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/kyomu1_5.html Material fee approximately 1,000yen (craft) & restaurant food fee approximately (1,000 yen) is necessary for this class. Please come with open hearts and big smiles. Both Japanese and International students are welcome. この授業では、材料費1,000円とレストラン実習費 (約1,000円)がかかります。

コンピテンシー

【　教　養　】人間性・倫理観	5%
【　教　養　】創造力・想像力	0%
【　教　養　】論理的思考・判断力	24%
【　教　養　】幅広い分野に対する関心	16%
【　教　養　】幅広い分野に関する基礎力	0%
【　専門性　】特定分野に関する基礎力	0%
【　情報力　】情報収集力	0%
【　情報力　】情報活用力	0%
【　情報力　】情報発信力	0%
【　行動力　】課題を発見・解決する力	16%
【　行動力　】コミュニケーション能力	26%
【　行動力　】言語理解力	5%
【　行動力　】言語運用力	0%
【自己実現力】セルフマネジメント力	3%
【自己実現力】日常的な自己研鑽力	0%
【自己実現力】未来を設計する力	5%
関連割合の合計	100%

Copyright(c) 2001- NS Solutions Corporation All rights reserved.

コミュニティ・サービス入門　1

授業基本情報

講義番号	912503
授業科目	コミュニティ・サービス入門１
担当教員（所属）	ＭＡＨＭＯＯＤ　ＳＡＢＩＮＡ (91：教養教育)
学期	2020年度　Ｑ：2学期
曜日・時限	火曜7，火曜8
単位数	1
教室	一般教育棟Ｂ２３教室
ナンバリングコード	
印刷用ページ	https://gs.okayama-u.ac.jp/campusweb/campussquare.do?_flowId=SYW4101101-flow&nendo=2020&shozoku=91&jikanwari=2503&sylocale=ja_JP
科目区分	2020年度入学者：汎用的技能と健康（キャリア教育） 2019年度入学者：汎用的技能と健康（キャリア教育） 2018年度入学者：汎用的技能と健康（キャリア教育）
対象学生	2020年度入学者：全 2019年度入学者：全 2018年度入学者：全
必修・選択の別	選択
他学部学生の履修の可否	対象学生の項目を参照
連絡先	Mahmood Sabina: sabina@okayama-u.ac.jp ;
オフィスアワー	Tuesday; Wednesday; Thursday　10:00-13:00 ; 15:00-18:00 Monday, Friday: 15:00-18:00
学部・研究科独自の項目	関連しない
使用言語	英語
授業の概要	This course involves a series of interactive lectures to introduce the student to the world of community service (elderly care in particular) while engaging students in active conversation from prior experiences or future insights. Two visits to a local nursing home is also scheduled, so that students can experience doing volunteer work by communicating with local people. Student feedback and reflection will be done through writing assignments and sharing student views through presentations. この授業は英語で行われます。（施設訪問の際は、英語・日本語）
学習目的	This course will help students understand their important role as an accountable member of a large aging society, and hopefully arouse awareness for further community involvement in their future.
到達目標	By the end of this course, students should be able to: Understand the meaning of community service through lectures and on site experience. Share their experience and opinion regarding community service. Apply knowledge and skills gained during this course and find their own unique style of community involvement, in the future.
授業計画	①Introduction to community service, course content and getting to know each other ②Caring for the elderly: An essential part of community service in a rapidly aging society ③Introduction to visiting Nursing homes in Japan: Differences with Nursing homes abroad ④1st. visit to a nursing home in downtown Okayama City: Hands on experience ⑤Discussing and reporting personal and shared experiences while visiting a Nursing home for the first time ⑥2nd. visit to a nursing home in downtown Okayama City: Meeting and interacting with the elderly ⑦Discussing and reporting personal and shared experiences while interacting with the elderly ⑧Feedbacks and reflections about the course and wrap up discussions on newer approaches towards elderly care
授業時間外の学習(予習・復習)方法(成績評価への反映についても含む)	There will be 2 writing assignments based on the lessons and visits to the nursing home and preparation for the final presentation
(1)授業形態-全授業時間に対する[講義形式]:[講義形式以外]の実施割合	40%　：　60%
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-協働的活動(ペア・グル	多い

ープワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど)	
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-対話的活動(教員からの問いかけ、質疑応答など)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-思考活動(クリティカル・シンキングの実行、問いを立てるなど)	多い
(2)授業全体中のアクティブ・ラーニング-理解の確認・促進(問題演習、小テスト、小レポート、授業の振り返りなど)	多い
(3)授業形態-実践型科目タイプ	ＧＢタイプ（外国人との討論など異文化に触れつつ学修するＢタイプ）
(4)授業形態-履修者への連絡事項	特別な配慮を必要とする場合は，事前にご相談ください。 Interactive lectures followed by small group discussions, report writing and presentations (individual or as a group). Students will be strongly encouraged to express and share their opinions proactively. If you have any concerns, questions and/or require special arrangements, please contact the instructors in advance. この授業は実習をのぞいて英語で行われます。英語試験の点数は不要ですが、授業内での留学生との英語ディスカッションやプレゼンテーションに積極的に参加する姿勢が必要です。
使用メディア・機器・人的支援の活用-視聴覚メディア(PowerPointのスライド、CD、DVDなど)	多い
使用メディア・機器・人的支援の活用-学習管理システム(Moodleなど)	少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-人的支援(ゲストスピーカー、TA、ボランティアなど)	少ない
使用メディア・機器・人的支援の活用-履修者への連絡事項	特別な配慮を必要とする場合は，事前にご相談ください。
教科書	なし
参考書等	Handouts will be provided as per relevance
成績評価	Assignment and Discussion 60%.　Participation in Nursing Home Visits 20%, Overall Participation 20% Students will be asked to write 2 assignments based on the relevant information provided during the course and through their first-hand experiences. Assessments will be based on student efforts to utilize the resources in order to explore the course topic, and the overall participation and zest of students in class. 課題、プレゼンテーション、ディスカッションは英語です。
担当教員の研究活動との関連	
受講要件	Does not require a given level of prior knowledge. However, students are expected to learn through brainstorming, discussions and on site experiences that will encourage them to participate in future community service projects.
教職課程該当科目	この項目は当該科目に該当しない。
JABEEとの関連	JABEE（ｆ）（ｇ）(i)
主なSDGs関連項目1	3 すべての人に健康と福祉を
主なSDGs関連項目2	17 パートナーシップで目標を達成しよう
主なSDGs関連項目3	該当なし
実務経験のある教員による授業科目	
備考/履修上の注意/実務経験の内容	本科目は、抽選対象科目です。 抽選で当選した学生あるいは，Ｗｅｂ追加募集で当選した学生以外履修できません。 所属学部の掲示板及び岡山大学公式HPを確認のうえ，指定された期間内に抽選登録してください。 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/student/kyomu1_5.html It is important to attend 2 visits to the Nursing home near Okayama Castle and write 2 assignments for assessment and reflection.

コンピテンシー

【　教　養　】人間性・倫理観	7%

【　教　養　】創造力・想像力	0%
【　教　養　】論理的思考・判断力	23%
【　教　養　】幅広い分野に対する関心	8%
【　教　養　】幅広い分野に関する基礎力	0%
【　専門性　】特定分野に関する基礎力	0%
【　情報力　】情報収集力	5%
【　情報力　】情報活用力	0%
【　情報力　】情報発信力	0%
【　行動力　】課題を発見・解決する力	14%
【　行動力　】コミュニケーション能力	25%
【　行動力　】言語理解力	2%
【　行動力　】言語運用力	0%
【自己実現力】セルフマネジメント力	8%
【自己実現力】日常的な自己研鑽力	0%
【自己実現力】未来を設計する力	8%
関連割合の合計	100%

Copyright(c) 2001- NS Solutions Corporation All rights reserved.

■ 国際バカロレア(IB)に関する研究報告等　　● AP事業テーマⅢ「入試改革・高大接続」採択校合同シンポジウム

大学教育再生加速プログラム

岡山大学　テーマⅢ：入試改革

国際バカロレア教育への理解を深め，国際バカロレア入試の拡大を図る

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY
GLOBAL GATE FOR LEARNING

取組概要

岡山大学では，知識偏重型入試から課題解決型入試への転換を図っており，国際バカロレア（IB）Diploma取得者に対して，一部の学部で若干人を対象に書類審査（一部面接を含む）のみのIB入試を新たな取り組みとして行ってきた。本事業は，日本国内のIB入試を活性化するため，国内外のIB校に対する広報活動を行う。さらに入試改善及び関係機関への情報提供のために，IB教育における6つの科目，課題論文，知識の理論，創造性・活動・奉仕等の調査研究を行う。また，IB入試についての講演会・勉強会等を高等学校関係者と企画し，国内における国際バカロレア教育への理解を深めるとともに文部科学省が推進しているIB入試の拡大を図りIB校増加計画（200校）に貢献することによってIB入試実施大学の拠点校としての役割を果たす。IB入試を拡大することは，能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価しうる大学入学者選抜制度への改革につながり，さらには，高校教育の改革につながるものである。

国際バカロレア(IB)の特色

1968年：国際バカロレア機構発足，設立，共通試験による教育の国際的な質保証

The IB Learner Profile（学習者像）

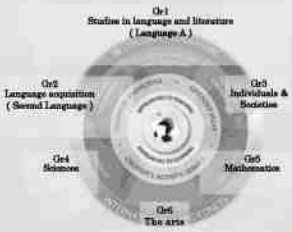
IB Learners strive to be

- Inquirers：探求する人
- Knowledgeable：知識のある人
- Thinkers：考える人
- Communicators：コミュニケーションができる人
- Principled：信念を持つ人
- Open-minded：心を開く人
- Caring：思いやりのある人
- Risk-takers：挑戦する人
- Balanced：バランスのとれた人
- Reflective：振り返りができる人

※ディスカッション型授業

- 6科目群：各7点満点
- TOK / EE：3点満点
- CASは必修
- 45点満点中24点以上必要

IB Diploma Program



TOK：Theory of Knowledge
EE：Extended Essay
CAS：Creativity, Activity, Service

受け入れる学生像の変革

「アドミッションポリシー」
「多様な入試制度により国内外から広く受け入れる」

～これまで～
基礎学力：知識，思考力，理解力
要素Ⅰ：語学力，コミュニケーション能力

～これから～
基礎学力，要素Ⅰに加えて
要素Ⅱ
主体性，継続性，チャレンジ精神，協調性，柔軟性，責任感，使命感
要素Ⅲ
異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

	基礎学力			要素Ⅰ		要素Ⅱ	要素Ⅲ
	知識	思考力	理解力	語学力	コミュニケーション力	主体性，継続性，協調性，柔軟性，責任感，使命感	異文化理解力
センター	◎	○	○	○			
個別学力	◎	◎	◎	○			
面接	○	○	○	○	◎	◎	
プレゼン	○	○	○		○	○	
集団面接	△	△	○		○	○	○
小論文	○	○	○				○
志望理由書						○	○
活動報告書					○	○	◎
学習計画書						○	○

IB教育，IB入試の意義

- IB教育の狙いは，現在大学に求められている人材育成像と合致
- 高校あるいはそれ以前からのグローバル人材育成
- 教育内容・方法，卒出人材の国際共通評価保証

岡山大学のグローバル人材育成の効率的な仕組を担う

本事業での取組み

受入れ計画

2010	欧州のIB校の教育内容の実態調査
2012.4	4学部1コース（理，医（保健），工，農，MP）を対象に，IB Diplomaを取得した学生を対象にしたIB入試の導入（国公立大学初）
2014.4	環境理工学部にIB入試を導入

年度	4月入学導入学部等と定員	10月入学導入学部等と定員
2012	理，医保，工，農，MP若干人	
2013	理，医保，工，農，MP若干人	MP若干人
2014	理，医保，工，環境，農，MP若干人	MP若干人
2015	全11学部，MP 医学科3人，その他若干人	MP若干人
2016	全11学部，MP 医学科3人，その他若干人	MP若干人
2017	全11学部，GDP 医学科3人，その他若干人	GDP
2018	全11学部，GDP 医学科5人，その他若干人	GDP
2019	全11学部，GDP 文学部2人，教育学部3人，法学部2人，経済学部2人，医学科5人，創薬科学科2人，農学部2人，他は若干人	GDP

岡山大学のＩＢ入試の方法と入学実績

IB入試の選抜方法

- 書類審査のみ
  文，法，経済，理，薬，工，環境理工，農，MPコース
- 書類審査＋面接
  教育，医（医），医（保），歯
- ※書類は，
  「成績評価証明書」
  「自己推薦書」
  「評価書」

ＩＢスコアを活用した選抜
入と関わる国際の人材を養成する学部以外，英語等の点は試験を課さない

国際バカロレア入試による志願者，合格者数

4月入学

年度	2012年	13	14	15	16	17	18	19	合計
志願者数	1	1	2	9	13	17	28	28(2)	99(2)
合格者数	1	1	2	6	11	16	17	18(2)	72(2)
入学者数	1	0	0	2	5	7	7	8(2)	30(2)

10月入学

年度	2012	13	14	15	16	17	18	19	合計
志願者数	-	3	6	6	4	4(14)	3(5)	6	32(17)
合格者数	-	3	5	6	4	3(9)	2(5)	-	23(12)
入学者数	-	1	3	3	0	0(6)	1(2)	-	8(8)

2019年度入試出願資格

IB出身在籍者数（2019年9月1日現在）

医学部医学科	9人
医学部保健学科	7人
教育学部	3人
工学部	2人
歯学部	1人
文学部	1人
環境理工学部	1人
MPコース	7人
GDP	11人
計	42人

卒業生4人（MP3人＋保健学科1人）
中退2人（MP2人）

本事業での取り組み実績

IB入試・IB教育に関する講演会、研究会等の開催

2014年度
- キックオフシンポジウム「国際バカロレア教育と大学教育の接続」（10月）
- ポスンキャンセンター「ディ学園」（7月）
- 「知の革命」ミニセミナー（7月）
- Prague IB Theory of Knowledge Workshop Agenda（7月）
- 国際バカロレア入試についての説明（10月，11月，1月）

2015年度
- シンポジウム「国際バカロレアの「学びの原理」と高校・大学教育改革への示唆」（12月）
- 国際バカロレアIB入試についての講演会及び説明会
- 第1回AP推進会（6月）
- 第2回AP推進会（12月）
- 第3回AP推進会「IBDP卒（生）による座談会」（3月）

2016年度
- 第4回AP推進会（9月）
- フォーラム「国際バカロレアと現行の教育との整合性～IB教育は異質ではない」（7月）
- シンポジウム「国際バカロレアが示唆する新しい高校教育・大学入試」（10月）
- フォーラム「国際バカロレアをめぐる高大接続」（2月）

2017年度
- ワークショップ「「知の革命」をひもとく」（5月岡山，6月東京，9月東京，10月大阪，3月岡山（全5回））
- シンポジウム「国際バカロレア修了生の国内大学進学と今後の展望 ECTSとTOK」（9月）
- 市民講演「IB academic skills（ISA）」（1月）

2018年度
- 「IB国際バカロレア教育とは何を考えるべきか」
  「国際バカロレアの研究から実践までー質疑応答セッション」（7月）
- ワークショップ「広義教養型の学生にTOKを教えることの意味」（9月）
- シンポジウム「教育に終わりはない－IB for everyone」（9月）
- ワークショップ「「知の革命」をひもとく」（3月名古屋，3月福岡）

2019年度
- 「IB年報」（5月）
- シンポジウム「一IB教育と向き合った「岡山大学モデル」～」（3月）

IBに関する調査・研究

2014年度
- 岡山大学国際バカロレア入試の設計

2015年度
- 国際バカロレア(IB)シンポジウム等への参加
- 岡山大学に入学した国際バカロレア・ディプロマ学生の状況について
- 教科別と日本の教育科目のカリキュラム比較（数学，化学，物理，生物）
- オックスフォード大学出版「Theory of Knowledge」翻訳書出版

2016年度
- 国際バカロレア(IB)ワークショップへの参加
- 第1回全国大学入学者選抜研究連絡協議大会
- 第49回日本医学教育学会大会
- 日本国際バカロレア教育学会第3回大会
- 岡山大学に入学した国際バカロレア・ディプロマ学生の状況について
- インターナショナルスクールでの日本語学習状況調査
- IB Group と日本の高校生徒との比較
- 修猷館訪問「「知の革命」をひもとく」作成・出版

2017年度
- 第1回全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会
- 第49回日本医学教育学会大会
- 日本医学教育教育学会第20回学術集会
- 日本国際バカロレア教育学会第3回大会
- 国際バカロレア2018 Global Conference Singapore
- 論文発表
  VIEWPOINT OF ACADEMIC ADVISORS ON INTERNATIONAL BACCALAUREATE DIPLOMA STUDENTS STUDYING AT OKAYAMA UNIVERSITY, International Journal of Multidisciplinary Academic Research Vol.6, No. 1, 70-76
- その他IBに関する調査結果

2018年度
- 第13回全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会
- 第50回日本医学教育学会大会
- 日本国際バカロレア教育学会第4回大会
- 第8回アドミッションセンターセミナー
- 論文発表
  Efforts towards creating an International Baccalaureate student friendly Japanese National, Creating an International Baccalaureate Student-friendly National University in Japan
  Interpretation of IB learner profile characteristics among students in Japanese Super Global High Schools
- IB修了生へのフォローアップ調査
- 国際バカロレアCASワークショップ（カナコ11）
- International Baccalaureate Higher Education Forum Japan 2018
- IB修了生へのフォローアップ調査

国内外のIB校訪問調査

2014年度　国内10校，国外27校（13カ国）
2015年度　国内18校，国外30校（16カ国）
2016年度　国内21校，国外18校（9カ国）
2017年度　国内22校，国外13校（8カ国）
2018年度　国内18校

調査の趣旨：
1. 国内外のIB校を訪問し，国内における IB校生徒の成績分布等と本場試験との相互関係を検証するとともに，海外におけるIB生の状況に，学習内容面の特徴を検証。
2. 日本語を使用しない（使用が日本語でない）外国人IB生の進路および成績を調査し，受け入れに当たっての留意点を検証。
3. 日本語入，日本語IB授業者の日本語能力の検証

本改革における調査・研究の成果により，全国のＩＢ入試の先導的役割を目指す

-第１部-
＜入試改革＞成果・事例報告

岡山大学

岡山大学（田中）：

皆さん、こんにちは。岡山大学高大接続・学生支援センターアドミッション部門というところにいます田中と申します。私のほうから、岡山大学の国際バカロレア入試の話をしたいと思います。

まず国際バカロレアというのは何かということで、高校の課程になりますディプロマ・プログラム。2 年間の課程にあります。6 つの分野に分けたときに、それぞれの分野から 1 科目ずつ取るということで、2 年間で 6 科目の履修をします。3 科目は 240 時間、残りの 3 科目については 150 時間、それぞれハイアーレベル、スタンダードレベルで授業を 3 つずつ取るというふうになってます。そのときに、特徴ですけれども、最終的に世界統一試験があります。5 月試験と 11 月試験。日本を除く北半球は、5 月に試験を行います。日本と南半球の IB 校は 11 月に試験を行うということで、日本の IB 校は来月試験があるということになります。それぞれ 6 科目で、最終試験の成績が 7 段階評価で出てきます。そうすると 6×7＝42、42 点満点を彼らは持っている。この 6 つの教科以外に、コアの科目として 3 教科あります。知の理論（Theory of Knowledge）、課題論文（Extended Essay）で、CAS といいまして創造性・活動・奉仕というのを全員が受けなければいけないということになります。まずそれぞれの科目を学ぶ初めに、知識とは何であろうかというのをきちんと定義して、学問の学び方というのをやってから、それぞれの科目に入る。最終的には 2 年目に Extended Essay、課題論文を書いて提出するということになってます。

あと CAS といいまして、創造性・活動・奉仕については、自主的に選んだテーマに対して 2 年間活動を行うと。これはもう奉仕、ボランティアの活動等を含みますので、この点については評価は行わないということで、TOK と Extended Essay については 3 点満点で、いわゆるボーナス点を付けるというふうになってます。そうすると、彼らは最終的に 42 点満点と 3 点、合わせて 45 点満点で IB スコアというのが出てくるということになります。IB の合格ラインですけれども、45 点満点で 24 点以上というのが、IB ディプロマを取得するための要件になります。

もう少し説明を続けます。国際バカロレアの使命ということで、国際バカロレアというのは、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い平和な世界を築くことに貢献する、探求心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としているということで、世界どこの大学にも進めるような教育をするというのが目標になっています。

Learner Profile といいまして、10 の目標を掲げています。探求する人、知識のある人、考える人、コミュニケーションができる人、信念をもつ人、心を開く人、思いやりのある人、挑戦する人、バランスのとれた人、振り返りができる人ということで、こういった像を目標にバカロレア教育をしているということになります。ちょっと日本語と齟齬があるところがあるのですが、例えば「挑戦する人」というふうになっているのですが、英語では risktaker という言い方をしています。だからリスクを恐れずにチャレンジするような人を育てるというのが特徴的かなということになります。

われわれがこのプログラムに応募するとき、第 1 の学力、第 2 の学力、それに加えて学力の第 3 の要素と、われわれは申請書に書いたのですが、異文化理解をする力がある人をこの入試で求めるという申請書を書きました。ですが皆さんご存じのとおり、第 3 の学力というのは再定義されまして、自主性を持ってほかの人と共同して学ぶ態度ということで、これがいまは第 3 の学力というふうに言われているわけです。ということで、ちょっと癪なので、第 1、第 2 以外の能力ということで、第 3 のところに異文化理解をあえてここでは置いておきます。そうすると 10 ある Learner Profile を見ると、それぞれ右のところに対応するところが必ずあるということで、これこそわれわれが次の新しい入試の枠組みで求める人材であろうということで、国際バカロレア入試を始めますということを始めました。ただ新しい入試を始めましたというだけでは意味がないので、バカロレア教育の研究をしようと。いいところがあれば高校教育・大学教育にもそれを取り入れるということで、AP 事業を展開してきました。

もう一つバカロレアの最終結果ですが、先ほど 24 点が合格ラインと言いました。ただし特定の科目で悪い点があると合格できないという細則が、いくつかあります。トータルスコアで 24 点を超えていても不合格になる人たちがいるということで、ここの部分の人がディプロマに合格ということになります。ですので、全受講生がディプロマ資格を取れるわけではない。ただ IB を実施している高校さん、海外であればインターナショナルスクール等ですけれども、このあたりの人でも、それぞれのインター

ナショナルスクールが定めた基準を達していれば、ハイスクール・ディプロマは取れる。ただ IB のディプロマは取れないという形になります。だいたいの目安を言いますと、30 点以上あれば世界ランクトップ 100 の大学はアクセプトするだろうと。42 点以上あれば、世界ランクトップ 10 の大学でアクセプトされるだろうというのがだいたいの目安と言われています。厳密にそう規定されているわけではないということになります。

それで、岡山大学ではまず 2012 年に、ここに書いてあります理学部、医学部保健学科、工学部、農学部、そしてマッチング・プログラムという文・理融合型の、岡山大学にある 11 の学部のどこででも学びができるというプログラムがありました。そこで若干人ということで IB 入試をスタートしました。次の年は、マッチング・プログラムはどこの学部でも学べるというコースでしたので、標準カリキュラムがないという意味で秋入学が可能ということで秋入学をスタートさせたんです。そして 2014 年には環境理工学部が、2015 年からは全 11 学部が IB 入試を始める。そのときに、ここまでは若干人でやっていたのですが、医学部医学科さんが 3 人定員を付けてもらったということになります。その後マッチング・プログラムがグローバル・ディスカバリー・プログラムというものに名前を変えます。2018 年には、医学部医学科が定員 5 人にする。2019 年には、文学部、教育学部、法学部、経済学部、薬学部創薬科学科、農学部が定員化してくれたということで、現在の形になっているということになります。もちろん定員化するには、一般前期より前に入試を完結させておいて、充足してないところは一般前期で補充するという約束の下に、各学部さんは定員化に応じていただけたということになります。

受験者数・合格者数・入学者数ですが、2012 年にまず 1 人受験者がありまして合格で入学ということで、だんだんと人数を増やしてきまして、2018 年には 28 の 17 の 7、2019 年は 28 の 18 の 8。(2) とありますが、これはグローバル・ディスカバリー・プログラムで、これはスーパーグローバル大学の支援でもってできた国際的なコースですけれども、日本の高校出身者 27 名と海外の高校出身者 33 名が共に学ぶというコースです。海外からの子に対しては英語コースを開設しているというコースになります。国際入試ですので世界各国の教育システムに対応しているということで、2019 年まではグローバル・ディスカバリー・プログラムも IB 入試をしていたのですが、2020 年入試、今年の入試に関しては国際入試の中に吸収すると。だから出願要件の中に、IB ディプロマを取った人というのが入っているということになります。秋入学も 2013 年には 3 人応募 3 人合格で入学が 1 人ということで、だんだんと数を増やしてきて、2019 年は 6 人出願ということで、このような数字になっているということになります。

いまの在籍者数ですけれども、医学部医学科はいち早く定員化してくれたので、9 名在籍。医学部保健学科 7 人、教育学部 3 人、工学部 2 人、歯学部 1 人、文学部 1 人、環境理工学部 1 人、マッチング・プログラムコースが 7 人、グローバル・ディスカバリー・プログラムは結果的に国際入試で入っている人を全部合わせて 11 人というこ

とになります。合計 42 人の IB ディプロマ修了者が、岡山大学で学んでいるということになります。既に 4 人卒業してます。マッチング・プログラムで 3 人卒業、医学部保健学科看護専攻で 1 人卒業。卒業生は、いま岡山大学病院に勤めています。あと中退が 2 人ということで、初期に入学したオランダからの入学生ですけれども、途中どうしても合わず退学ということです。国内で他の大学に既に進学しているということは、確認が取れてます。

岡山大学の入試で面接を実施しているのが、教育学部・医学部・歯学部の 3 学部です。これ以外の学部に対しては、書類審査だけで合否判定をしていただいております。マーケットが海外、全世界ということになりますので、なるべく書類だけで審査をしてくださいということになってます。面接をしている 3 学部については、教育学部および医療系ということで、患者さんないしは生徒と接する学部ということですので、やはりコミュニケーション能力を担保したいということで、ここだけは面接をしています。それ以外については、日本語については成績が 4 以上ということを条件にしています。一部学部では、法学部では言語 B を日本語で履修して、ハイアーレベルの 4 以上ということで、グローバル・ディスカバリー・プログラム以外はほとんどの授業を日本語で行っていますので、日本語ネイティブ並みというのがこの条件の柱ということになります。

それぞれの学部で、出願資格というのを要求しています。例えば理学部数学科であれば、数学強い人来てねということで、数学はハイアーレベルで取っていて成績は 4 以上というような条件があるということになります。基本的にハイアーレベルは 3 科目全員取っているはずですけれども、われわれがいろいろ調査をしていく過程で、日本人の学生の特徴がだんだん見えてきまして、海外の IB 校で学んでいる日本人ないしは日本語をしゃべる人は、やはりジャパニーズを A で取って、ハイアーレベルで取るということになります。イングリッシュ B を取るかどうかは分からない。そうすると、理系の人でもハイアーレベル最高 2 つまでしか取れない。日本語で 1 個使ってしまうので、理科・数学の中でも 2 科目までしか取れないということになります。

ところが国内校が増えてきたときに、国内校の生徒さんのメンタリティーというのが、また海外の IB 校で学んでいる子とちょっと違って、国内校の IB 校に行っている子は英語が得意な子なんですね。要するに地元にある普通科の高校に行く選択肢もあったのに、IB 校に進んでいる。ですから、海外で学ぶ子とたとえ英語力が同等でも、メンタリティーとしては自分は英語が得意な人ということで、イングリッシュ B をハイアーで取る可能性が高い。そうすると語学で 2 つ、日本語人に関してはハイアーを取ってしまうので、理系の生徒さんといえども数学・理科を 2 科目以上なかなかハイアーで取ってない。

最初われわれが入試を始めたときに、ケンブリッジとかオランダのユトレヒト大学さんは、物理と数学で 6、6 など、すごく課しているんですね。それを見習ってしまったのが、まず一つの失敗ということで、日本語をしゃべる人たちにとっては語学で稼ぐというのは一つあるので、やはりハイア

ーとしては 1 科目しか課してはいけないなと。だから薬学さんとかは、数学とか化学とか複数科目をハイアーで取ってほしいという気持ちはあるのだけれども、ハイアーの指定は 1 科目だけにして、あとはスタンダードでいくつ以上というような条件で、いま統一しているということになります。

ということで、これらがわれわれの資格と。グローバル・ディスカバリー・プログラムについては、2019 年度入試に関しては、文系・理系を規定していませんので、グループ 1 から 6 からどれか 1 科目ハイアーで 4 以上ならいいよという入試をしていたのですが、先ほど口頭で申し上げたとおり、2020 年度入試に関してはバカロレア入試は廃止で、その代わり国際入試の中にこれを組み込むという形で発展的な解消をしていますということになります。

入試の時期です。出願については 8 月募集ということで 8 月に出願。10 月募集ということで 10 月 11 日まで募集です。これはなぜ分けているかというと、国際バカロレアの基準からすると predicted score、要するに予測点でもってアドミッションを行うというのが世界標準になっています。その代わり最終的に取った点が予測点に達していなければ、入学を許可しなければいいという精神で、予測点でもって、これは学校さんが付けてくる予測点を信じて、その点数でもってアドミッションを行うというのが世界の標準になっています。

ところが日本の入試システムでいくと、やはり学部からは逆転を起こしたくないということがありますので、出願時期を 5 月 IB 試験と 11 月 IB 試験に分けまして、最終的な判定は正式なスコアが来て、それを見てから行うということで、出願時期を若干ずらしています。ということで、8 月については 9 月 4 日に既に今年は合格発表をしています。10 月募集に関しては、いま募集が終わったところということで、2 月 12 日に合格発表を行うということになります。

入ってきた IB 生には、それぞれアドバイザーが付きます。教員です。教員の評価を見ますと、第一印象は非常に良かった。実際は悪かったというわけではありません。大変好印象ということでございます。IB 生は明るい・前向き・英語が上手・コミュニケーション力が高い・発表が上手・チームワークがうまくできる。国内と海外から来た IB 生は少し違う。国内 IB 校出身の IB 生は日本の高校生とあまり変わらない。すぐ学生生活にも慣れる。海外出身の子は、少し慣れるまで時間がかかるかなと。科目によって IB 教育をハイアーレベルないしはスタンダードレベルで受けているので、そのハイアーとスタンダードでもって知識に違いがある。あと一条校出身の学生と違って、覚える力よりもディスカッションする力が強い。IB 生は大学に国際的教育改革をもたらすグローバル人材だというような評価が、岡大の教員からは出ていますということになります。

最後に国際バカロレアを活用した大学ということで、これは文部科学省のページで、平成 29 年 10 月現在ということで、国立 17 大学・公立 6 大学・私立 31 大学が、いま実施していると。赤で書いてある岡山大学などはそうですけれども、IB のみの選抜、IB 入試として実施していて、学部によっては定員化していますよというのが、岡山・都留文科・慶應義塾・順天堂・東洋・関西学

院ということになります。緑はIB以外も対象ということで、一部定員化しています。これは一般のAO推薦として実施していて、それぞれ学部ごとに定員も付いているけれども、出願資格の一つとしてIB出身が入っているということになります。多くの大学さんが岡山大学に視察に来られて、われわれの意見を聞いて始めた大学が多いかなということになります。

最後、人数の関係ですけれども、2020年度入試で10月出願が終わったところです。選抜はまだしてません。一応ウェブ上では48人出願があったということで、ここにきて大変加速度的に出願者が増えているということで、入学者もまた増えてくれることを期待していますということで、私の発表を終わらせていただきます。どうもご清聴ありがとうございました。

岡山大学の国際バカロレア入試

岡山大学
高大接続・学生支援センター
アドミッション部門

田中克己

国際バカロレアプログラム

岡山大学

ディプロマ・プログラム

学習者像を達成するための
・「学習の方法」と教科学習
・評価基準に基づく達成度の内部評価
・内部評価の適正化（外部評価）
・世界統一試験（5月または11月）

ディプロマ資格（最終審査）

・6科目群：各7点満点＝42点
・TOK / EE 3点満点＝3点
・CASは必修
・45点満点中24点以上必要

国際バカロレア教育の理念

岡山大学

国際バカロレア（IB）の使命（The IB mission）

国際バカロレア（IB）は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としている。

IBの学習者像（The IB Learner Profile）

探求する人
知識のある人
考える人
コミュニケーションができる人
信念をもつ人
心を開く人
思いやりのある人
挑戦する人
バランスのとれた人
振り返りができる人

新たな時代に向けての教育改革と国際バカロレア

岡山大学

IBの学習者像（The IB Learner Profile）

探求する人
知識のある人
考える人
コミュニケーションができる人
信念をもつ人
心を開く人
思いやりのある人
挑戦する人
バランスのとれた人
振り返りができる人

次代を担う若い世代に必要な学び

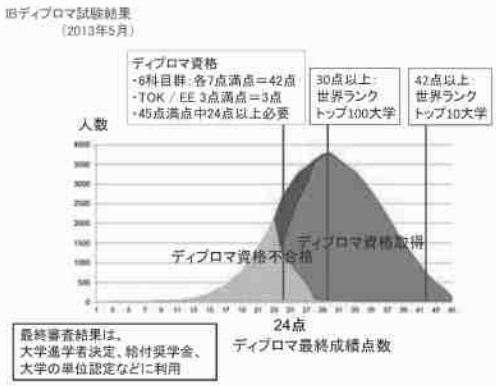
十分な知識・技能の獲得

自主性・探求心
課題発見・解決能力
思考力・判断力
表現力（コミュニケーション能力）

主体性（能動的学びへの転換）
異文化理解
協働して学ぶ態度

国際バカロレア最終試験結果

岡山大学



国際バカロレア入試の導入の推移

岡山大学

年度	4月入学導入学部等と定員	10月入学導入学部等と定員
2012	理、医保、工、農、MP 若干人	
2013	理、医保、工、農、MP 若干人	MP 若干人
2014	理、医保、工、環境、農、MP 若干人	MP 若干人
2015	全11学部、MP 医学科3人、その他若干人	MP 若干人
2016	全11学部、MP 医学科3人、その他若干人	MP 若干人
2017	全11学部、GDP 医学科3人、その他若干人	GDP
2018	全11学部、GDP 医学科5人、その他若干人	GDP
2019	全11学部、GDP 文学部2人、教育学部3人、法学部2人、 経済学部2人、医学科5人、創薬科学科2人 農学部2人、他は若干人	GDP

入試結果

岡山大学

4月入学

年度	2012年	13	14	15	16	17	18	19	合計
志願者数	1	1	2	9	13	17	28	28(2)	99(2)
合格者数	1	1	2	6	11	16	17	18(2)	72(2)
入学者数	1	0	0	2	5	7	7	8(2)	30(2)

10月入学

年度	2012	13	14	15	16	17	18	19	合計
志願者数	-	3	6	6	4	4(14)	3(5)	6	32(17)
合格者数	-	3	5	6	4	3(9)	2(5)	-	23(12)
入学者数	-	1	3	3	0	0(6)	1(2)	-	8(8)

赤字はGDP国際入試志願者のうちIB修了生の数で外数

8

IB出身在籍者数

岡山大学

医学部医学科	9人
医学部保健学科	7人
教育学部	3人
工学部	2人
歯学部	1人
文学部	1人
環境理工学部	1人
MPコース	7人
GDP	11人
計	42人

卒業生4人（MP3人＋保健学科1人）
中退2人（MP2人）

9

IB入試（4月入学）の選抜方法等

岡山大学

2020年4月入学のIB入試

出願資格	（1）国際バカロレア資格証明書（IBフルディプロマ）を2018年4月から2020年3月までに授与される者で，2020年3月31日までに18歳に達する者。 （2）国際バカロレア資格取得において，次の①及び②に該当する者。 ①言語Aを日本語により履修し，成績評価が4以上の者。 ただし，次の学部・学科・課程・専攻においては，以下の通りとする。 ■教育学部，医学部，歯学部 日本語Aを日本語により履修し，成績評価が4以上又は，言語Bを日本語により履修し，HLで成績評価が6以上の者。 ■法学部 言語Aを日本語および日本語により履修し，成績評価がそれぞれ4以上のもの又は，言語Aを日本語により履修し成績評価が4以上および言語Bを英語により履修し，HLで成績評価4以上のもの。 ②本学の指定する科目（P6～7の表）を履修し，必要な成績評価を修めた者。⇒募集要項P2～3参照。

・出願はインターネットによる出願のみとします。

10

2020年度（4月入学）入試の出願資格

岡山大学

文学部	人文学科	言語Aを日本語で履修(HL成績評価4以上)
教育学部	学校教育総合課程（学校教育コース）を除く	グループⅠ～6から1科目(HL成績評価4以上)
	養護教諭養成課程	グループⅠ(言語以外)から1科目(HL成績評価4以上)
法学部	法学科（昼間コース）	グループⅠ「個人と社会」から1科目(成績評価4以上)
経済学部	経済学科（昼間コース）	グループⅠ「個人と社会」から1科目(HL成績評価4以上)又は数学(HL成績評価4以上)
理学部	数学科	数学(HL成績評価4以上)
	物理学科	物理，数学から1科目(HL成績評価4以上)
	化学科	物理，化学，数学から1科目(HL成績評価4以上)
	生物学科	物理，化学，生物，数学から1科目(HL成績評価4以上)
	地球科学科	物理，化学から1科目(HL成績評価4以上)

・当該年度の募集要項で必ず確認してください。
・学生募集要項のP2～3参照。

医学部	医学科		物理，化学，生物から2科目及び数学（うち1科目はHL成績評価4以上，残りの2科目はHL成績評価5以上又はHL成績評価3以上）
	保健学科	看護学専攻	物理，化学，生物から1科目(HL又はHLで履修，成績評価は問わない。)
		放射線技術科学専攻	物理，化学，生物から1科目(HL成績評価4以上)
		検査技術科学専攻	
歯学部	歯学科		物理，化学，生物，数学から1科目(HL成績評価4以上)
薬学部	薬学科		物理，生物から1科目及び化学及び数学（うち1科目はHL成績評価4以上，残りの2科目はHL成績評価3以上又はHL成績評価3以上）
	創薬科学科		物理，生物から1科目及び化学及び数学（うち1科目はHL成績評価4以上，残りの2科目はHL成績評価3以上又はHL成績評価3以上）
工学部	機械システム系学科		物理(HL成績評価4以上又はSL成績評価4以上)及び数学(HL成績評価4以上)
	電気電子系学科		
	情報系学科		数学(HL成績評価4以上)
	化学生命系学科		化学(HL成績評価4以上)及び数学(HL成績評価4以上又はSL成績評価4以上)

11

2020年度（4月入学）入試の出願資格

岡山大学

環境理工学部	環境数理学科	数学(HL成績評価4以上)
	環境デザイン工学科	物理，化学から1科目及び数学（どちらか一方の科目はHL成績評価4以上，もう一方の科目はHL成績評価3以上又はHLで履修，成績評価は問わない）
	環境管理工学科	物理，化学，生物から1科目及び数学（どちらか一方の科目はHL成績評価4以上，もう一方の科目はHL成績評価4以上又はHLで履修，成績評価は問わない）
	環境物質工学科	物理，化学から1科目(HL成績評価4以上)，及び数学(HL成績評価4以上又はHLで履修，成績評価は問わない)
教育学部	総合教育科学科	物理，化学，生物から1科目及び数学（どちらか一方の科目はHL成績評価4以上，もう一方の科目はHL成績評価3以上又はHLで履修，成績評価は問わない）
グローバル・ディスカバリー・プログラム		グループⅠ～6から1科目，(HL成績評価4以上)

・募集要項で必ず確認してください。
・学生募集要項のP2～3参照。

※マッチングプログラムコースは，2018年度4月入学入試から，
グローバル・ディスカバリー・プログラムに拡大・発展しました。
（国内募集人員30名，海外募集人員30名）

12

IB入試（4月入学）の選抜方法等

岡山大学

■8月募集

2018年国際バカロレア資格（IBフルディプロマ）取得者，及び，2019年5月IB試験受験者。

出願期間	2019年8月1日（木）から8月7日（水） 17時必着
募集学部等	理，医（医），工，環境理工
募集人員	医学部医学科3人，その他はすべて若干人。

■10月募集

2018年及び2019年5月国際バカロレア資格（IBフルディプロマ）取得者，並びに，2019年11月IB試験受験予定者。

出願期間	2019年10月1日（火）から10月11日（金） 17時必着
募集学部等	文，教育，法，経済，理，医（医），医（保健），歯，薬，工，環境理工，農
募集人員	文2人，教育3人，法2人，経2人，医学部医学科2人，保健学科3人，歯2人，創薬2人、農2人，その他はすべて若干人。

13

IB入試（4月入学）の選抜方法等

岡山大学

選抜方法 （IBDPのみで選抜）	（1）書類審査のみ 文，法，経済，理，薬，工，環境理工，農 ⇒配点基準は，募集要項P40参照。 （2）書類審査+面接 面接試験：8月募集：8月23日（金） 10月募集：11月30日（土） 教育，医（医），医，歯 ⇒配点基準は，募集要項P12参照。 ※（1）（2）とも書類審査は，「成績評価証明書」，「自己推薦書」，「評価書」。
合格発表	【8月募集】 2019年9月4日（水） 【10月募集】 2018年2月12日（水） 14時00分の予定
入学手続期限	【8月募集】 2019年9月27日（金） 17時必着（郵送） 【10月募集】 2020年2月19日（水） 17時必着（郵送）

・医学部（医学科）は，IBの成績評価の合計点（45点満点）が39点以上の者の中から選考します。

14

アカデミックアドバイザーのIB校出身の学生評価

岡山大学

1. 第一印象は非常に良かった
2. IB生は：明るい・前向き・英語が上手・コミュニケーション力が高い
   発表は上手・チームワークがうまくできる
3. 国内と海外から来るIB生は少し違う
   ⇒国内IB校出身のIB生は日本の高校生とあまり変わらなくて、すぐ学生生活に慣れる（海外のIB生は少し時間がかかる）
4. 科目によってIB教育をHL（学習時間240時間）又はSL（学習時間150時間）で受けているかで知識の違いが少しある。
5. 一条校出身の学生と違って，覚える力よりもディスカッションする力が強い
6. IB生は大学に国際的教育改革をもたらすグローバル人材だ

16

国際バカロレアを活用した大学（平成29年10月現在）

岡山大学

国立大学（17大学 ）
北海道、金沢、筑波、お茶ノ水女子、東京、東京医科歯科、東京外国語
東京藝術、大阪、豊橋技術科学、名古屋、京都、京都工芸繊維、広島
岡山、長崎、鹿児島

公立大学（6大学）
国際教養、会津、首都大学東京、横浜市立、都留文科、大阪市立

私立大学（31大学）
千歳科学技術、東北福祉、松本歯科、青山学院、学習院、慶応義塾、
工学院、国際基督教、順天堂、玉川、中央、東京国際、東洋、日本工業、
日本獣医生命科学、法政、武蔵野、武蔵野学院、明治学院、立教、浦和、
明海、愛知医科、中京、関西学院、近畿、京都外国語、立命館、
神戸女学院、倉敷芸術科学、立命館アジア太平洋

赤字はIBのみの選抜＋一部定員あり
オレンジはIBのみの選抜+若干人
みどりはIB以外も対象＋一部定員あり

17

ご清聴ありがとうございました。

● 第９回アドミッションセミナー

国際バカロレア入試の現在

岡山大学
高大接続・学生支援センター
アドミッション部門

国際バカロレア入試導入の推移

岡山大学

入試年度	4月入学入試導入学部等	10月入学入試導入学部等
2012	4学部(理、医保、工、農)、MPコース	
2013	4学部(理、医保、工、農)、MPコース	MPコース
2014	5学部(理、医保、工、環境理工、農)、MPコース	MPコース
2015	全11学部、MPコース (文、教育、法、経済、理、医(医)、医(保)、歯、薬、工、環境理工、農、MPコース)	MPコース (2017年4月入学入試で募集停止)
2017		グローバル・ディスカバリー・プログラム

※募集人員は、医学部(医学科)は3名(2017年度まで)、その他は全て若干人。

2

国際バカロレア入試の導入の推移

岡山大学

年度	4月入学導入学部等と定員	10月入学導入学部等と定員
2012	理、医保、工、農、MP 若干人	
2013	理、医保、工、農、MP 若干人	MP 若干人
2014	理、医保、工、環境、農、MP 若干人	MP 若干人
2015	全11学部、MP 医学科3人、その他若干人	MP 若干人
2016	全11学部、MP 医学科3人、その他若干人	MP 若干人
2017	全11学部、GDP 医学科3人、その他若干人	GDP
2018	全11学部、GDP 医学科5人、その他若干人	GDP
2019	全11学部、GDP 文学部2人、教育学部3人、法学部2人、経済学部2人、医学科5人、創薬科学科2人、農学部2人、他は若干人	GDP

3

入試結果

岡山大学

4月入学

年度	2012年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	合計
志願者数	1	1	2	9	13	17	28	71
合格者数	1	1	2	6	11	16	17	54
入学者数	1	0	0	2	5	7	7	15

10月入学

年度	2013年	14年	15年	16年	17年	18年	合計
志願者数	3	6	6	4	4	3	26
合格者数	3	5	6	4	3	–	21
入学者数	1	3	3	0	0	–	7

※10月入学は、2016年まではマッチングプログラム、2017年以降はグローバル・ディスカバリー・プログラム
※'–'は、入学者数が確定していないか、合否判定がまだ行われていないことを示す。

4

入試結果

岡山大学

4月入学

年度	2012年	13	14	15	16	17	18	19	合計
志願者数	1	1	2	9	13	17	28	28(2)	99(2)
合格者数	1	1	2	6	11	16	17	18(2)	72(2)
入学者数	1	0	0	2	5	7	7	8(2)	30(2)

10月入学

年度	2012	13	14	15	16	17	18	19	合計
志願者数	-	3	6	6	4	4(14)	3(5)	6	32(17)
合格者数	-	3	5	6	4	3(9)	2(5)	-	23(12)
入学者数	-	1	3	3	0	0(6)	1(2)	-	8(8)

赤字はGDP国際入試志願者のうちIB修了生の数で外数

5

国際バカロレア入試による本学在学生数

岡山大学

【２０１２～２０１７】

入試年度	入学学部・コース
2012年4月	1人(MPコース)
2013年10月	1人(MPコース)
2014年10月	1人(MPコース)
2015年4月	1人(医学部医学科)、1人(医学部保健学科)、3人(MPコース)
2016年4月	1人(医学部保健学科)、1人(工学部)、1人(環境理工学部)、2人(MPコース)
2017年4月	1人(文)、2人(教育)、2人(医学部医学科)、2人(MPコース)
在学生数	20人

※1期生は、2016年3月卒業後、大学院自然科学研究科博士前期課程に進学。

6

国際バカロレア入試による本学在学生数

岡山大学

【2012～2017】

在学生合計：26名（男13名，女13名）

国内のIB校：14名
群馬，長野，静岡，愛知，広島，福岡

所属学部
MPコース：4名
ディスカバリープログラム：3名
教育：2名
文：1名
工：1名
環境理工：1名
医（医）：1名
医（保健）：1名

海外のIB校：12名
ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙ,ﾄﾞｲﾂ,ｵﾗﾝﾀﾞ,ｲﾀﾘｱ,ﾄﾞﾊﾞｲ

所属学部
MPコース：6名
ディスカバリープログラム：3名
医（医）：2名
医（保健）：1名

※1期生は，2016年3月卒業後，大学院自然科学研究科博士前期課程に進学

IB出身在籍者数

岡山大学

医学部医学科	9人
医学部保健学科	7人
教育学部	3人
工学部	2人
歯学部	1人
文学部	1人
環境理工学部	1人
MPコース	7人
GDP	11人
計	42人

卒業生4人（MP3人＋保健学科1人）
中退2人（MP2人）

IB入試（4月入学）の選抜方法等

岡山大学

2020年4月入学のIB入試

出願資格	
	(1)国際バカロレア資格証明書（IBフルディプロマ）を2018年4月から2020年3月までに授与される者で，2020年3月31日までに18歳に達する者。 (2)国際バカロレア資格取得において，次の①及び②に該当する者。 ①言語Aを日本語により履修し，成績評価が4以上の者。 ただし，次の学部・学科・課程・専攻においては，以下の通りとする。 ■教育学部，医学部，歯学部 日本語Aを日本語により履修し，成績評価が4以上又は，言語Bを日本語により履修し，HLで成績評価が6以上の者。 ■法学部 言語Aを日本語および日本語により履修し，成績評価がそれぞれ4以上のもの又は，言語Aを日本語により履修し成績評価が4以上および言語Bを英語により履修し，HLで成績評価4以上のもの。 ②本学の指定する科目（P6～7の表）を履修し，必要な成績評価を修めた者。⇒募集要項P2～3参照。

・出願はインターネットによる出願のみとします。

2020年度（4月入学）入試の出願資格

岡山大学

文学部	人文学科	言語Aを日本語で履修のHL成績評価4以上
教育学部	学校教育教員養成課程（小学校教育コース除く）	グループⅠ～Ⅳから1科目HL成績評価4以上
	養護教諭養成課程	グループⅥ(芸術)以外から1科目HL成績評価4以上
法学部	法学科（昼間コース）	グループⅥ「個人と社会」から1科目成績評価4以上
経済学部	経済学科（昼間コース）	グループⅥ「個人と社会」から1科目HL成績評価4以上又は数学HL成績評価4以上
理学部	数学科	数学HL成績評価4以上
	物理学科	物理，数学から1科目（HL成績評価4以上）
	化学科	物理，化学，数学から1科目（HL成績評価4以上）
	生物学科	物理，化学，生物，数学から1科目（HL成績評価4以上）
	地球科学科	物理，化学から1科目（HL成績評価4以上）

・当該年度の募集要項で必ず確認してください。
・学生募集要項のP2～3参照。

医学部	医学科		物理，化学，生物から2科目及び数学（うち1科目はHL成績評価4以上，残り2科目はHL成績評価3以上又はHL成績評価3以上）
	保健学科	看護学専攻	看護Ⅰ
		放射線技術科学専攻	物理，化学，生物から1科目（HLまたはSLで履修，成績評価は問わない） 数学・英語Ⅱ
		検査技術科学専攻	物理，化学，生物から1科目HL成績評価4以上
歯学部	歯学科		物理，化学，生物，数学から1科目以上HL成績評価4以上
薬学部	薬学科		物理，生物から1科目及び化学及び数学（うち1科目はHL成績評価4以上，残りは科目はHL成績評価3以上又はHL成績評価4以上）
	創薬科学科		物理，生物から1科目及び化学及び数学（うち1科目はHL成績評価4以上，残りは科目はHL成績評価3以上又はHL成績評価4以上）
工学部	機械システム系学科		物理HL成績評価4以上又はHL成績評価4以上及び数学HL成績評価4以上
	環境調和系学科		化学HL成績評価4以上
	情報系学科		数学HL成績評価4以上
	化学生命系学科		化学HL成績評価4以上及び数学HL成績評価4以上又はHL成績評価4以上

・当該年度の募集要項で必ず確認してください。
・学生募集要項のP2～3参照。

2020年度（4月入学）入試の出願資格

岡山大学

環境理工学部	環境数理学科	数学HL成績評価4以上
	環境デザイン工学科	物理，化学から1科目及び数学（どちらか一方の科目はHL成績評価4以上，もう一方の科目はHL成績評価3以上又はHLで履修・成績評価は問わない）
	環境資源工学科	物理，化学，生物から1科目及び数学（どちらか一方の科目はHL成績評価4以上，もう一方の科目はHL成績評価4以上又はHLで履修・成績評価は問わない）
	環境物質工学科	物理，化学から1科目（HL成績評価4以上）及び数学（HL成績評価4以上又はHLで履修・成績評価は問わない）
教育学部	総合教育科学科	物理，化学，生物から1科目及び数学（どちらか一方の科目はHL成績評価4以上，もう一方の科目はHL成績評価4以上又はHLで履修・成績評価は問わない）
グローバル・ディスカバリー・プログラム		グループⅠ～Ⅳから1科目，（HL成績評価4以上）

・募集要項で必ず確認してください。
・学生募集要項のP2～3参照。

※マッチングプログラムコースは，2018年度4月入学入試から，グローバル・ディスカバリー・プログラムに拡大・発展しました。（国内募集人員30名，海外募集人員30名）

IB入試（4月入学）の選抜方法等

岡山大学

■8月募集

2018年国際バカロレア資格（IBフルディプロマ）取得者，及び，2019年5月IB試験受験者。

出願期間	2019年8月1日（木）から8月7日（水） 17時必着
募集学部等	理，医（医），工，環境理工
募集人員	医学部医学科3人，その他はすべて若干人。

■10月募集

2018年及び2019年5月国際バカロレア資格（IBフルディプロマ）取得者，並びに，2019年11月IB試験受験予定者。

出願期間	2019年10月1日（火）から10月11日（金） 17時必着
募集学部等	文，教育，法，経済，理，医（医），医（保健），歯，薬，工，環境理工，農
募集人員	文2人，教育3人，法2人，経2人，医学部医学科2人，保健学科3人，歯2人，創薬2人，農2人，その他はすべて若干人。

IB入試（4月入学）の選抜方法等

岡山大学

出願に必要な書類等	【2016年国際バカロレア（フルディプロマ）取得者】 ・国際バカロレア事務局から授与された （1）「国際バカロレア資格証明書（International Baccalaureate Diploma）の写し（コピー）」及び（2）「IB最終試験6科目の成績評価証明書」を提出して下さい。 【2017年5月IB試験受験者】 ■8月募集 2017年5月IB試験を受験の際，試験結果をIBIS(International Baccalaureate Information System)を通じて本学が閲覧できるよう登録してください。 なお，以下の（1）と（2）を以下の通りの手順で提出又は手続きしてください。 （1）国際バカロレア事務局から授与された「国際バカロレア資格証明書の写し（コピー）を2017年8月17日（木）までに志望学部等の入試担当へ提出してください。 （2）「IB最終試験6科目の成績評価証明書」は国際バカロレア事務局へ発行を依頼するとともに，岡山大学がIBISを通じてダウンロードできるよう依頼してください。

13

IB入試（4月入学）の選抜方法等

岡山大学

出願に必要な書類等	■10月募集 国際バカロレア事務局から授与された（1）「国際バカロレア資格証明書（International Baccalaureate Diploma）の写し（コピー）及び（2）「IB最終試験6科目の成績評価証明書」を提出してください。 【2017年11月IB試験受験予定者】 在籍する又は出身の学校の学校長，進路指導担当者等が作成した（3）「国際バカロレア資格及びIB最終試験6科目の成績の取得見込み証明書（Transcripts of grades）を提出してください。 2017年11月IB試験を受験の際，試験結果をIBIS（International Baccalaureate Information System）を通じて本学が閲覧できるよう登録してください。 なお，以下の（1）と（2）を以下の通りの手順で提出又は手続きしてください。 （1）国際バカロレア事務局から授与された「国際バカロレア資格証明書の写し（コピー）を2018年2月14日（水）までに志望学部等の入試担当へ提出してください。 （2）「IB最終試験6科目の成績評価証明書」は国際バカロレア事務局へ発行を依頼するとともに，岡山大学がIBISを通じてダウンロードできるよう依頼してください。

14

IB入試（4月入学）の選抜方法等

岡山大学

出願に必要な書類等	・志願票 ・写真票 ・入学検定料支払証明書 ・自己推薦書（日本語） ・評価書 ・履歴書（医学部医学科の入学志願者のみ） ・以下，グローバル・ディスカバリー・プログラムの入学志願者のみ 【日本語能力を証明する書類】 ・日本語が母語でなく，直近6年間の主たる教育を日本語で受けていない方は，日本語能力試験（JLPT）N1認定書の写し又はこれと同等の日本語能力を有すると認められる証明書を提出してください。 【英語能力を証明する書類】 ・2015年10月2日から2017年10月1日までの間に，次の英語外部検定試験を受験した人は，そのスコア（複数可）のコピーを提出してください。 スコアの原本は，入学手続き時に提出してください。 直近2年間の主たる教育を英語で受けた方は，必ずしも提出する必要はありません。 ・Cambridge English ・実用技能英語検定 ・GTEC CBT ・GTEC for STUDENTS ・IELTS ・TEAP ・TEAP CBT ・TOEFL iBT ・TOEIC Speaking Test（名称変更前のTOEICテスト/TOEIC Speaking & Writing を含む）

15

IB入試（4月入学）の選抜方法等

岡山大学

出願に必要な書類等	・志願票 ・写真票 ・入学検定料支払証明書 ・自己推薦書（日本語） ・評価書 ・履歴書（医学部医学科の入学志願者のみ） ・以下，グローバル・ディスカバリー・プログラムの入学志願者のみ これらは 全く不要です！ ・Cambridge English ・実用技能英語検定 ・GTEC CBT ・GTEC for STUDENTS ・IELTS ・TEAP ・TEAP CBT ・TOEFL iBT ・TOEIC Speaking Test（名称変更前のTOEICテスト/TOEIC Speaking & Writing を含む）

16

IB入試（4月入学）の選抜方法等

岡山大学

選抜方法（IBDPのみで選抜）	（1）書類審査のみ 文，法，経済，理，薬，工，環境理工，農 ⇒配点基準は，募集要項P40参照。 （2）書類審査+面接 面接試験：8月募集：8月23日（金） 10月募集：11月30日（土） 教育，医（医），医，歯 ⇒配点基準は，募集要項P12参照。 ※（1）（2）とも書類審査は，「成績評価証明書」，「自己推薦書」，「評価書」。
合格発表	【8月募集】 2019年9月4日（水） 【10月募集】 2018年2月12日（水） 14時00分の予定
入学手続期限	【8月募集】 2019年9月27日（金） 17時必着（郵送） 【10月募集】 2020年2月19日（水） 17時必着（郵送）

・医学部（医学科）は，IBの成績評価の合計点（45点満点）が39点以上の者の中から選考します。

17

IB入試（10月入学）の選抜方法等

岡山大学

募集単位・募集人員 【2017年10月入学入試の例】

・グローバル・ディスカバリー・プログラム

・募集人員：若干人

出願資格（2017年10月入学入試）

・国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書（IBフルディプロマ）を2015年10月から2017年9月までに授与される者で，2017年9月30日までに18歳に達する者。

・国際バカロレア資格の取得において，グループ1～6から1科目をHLにより履修し，成績評価が4以上の者。

選抜方法（2017年入試）

書類審査のみ。

※出願は，インターネット出願システム及びEmailにより行います。

18

IB入試（10月入学）の選抜方法等

岡山大学

出願に必要な書類等	【2015年11月・2016年5月国際バカロレア資格（IBﾌﾙﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ）取得者】 ・国際バカロレア事務局から授与された①「国際バカロレア資格証明書（International Baccalaureate Diploma）の写し（コピー）及び②「IB最終試験6科目の成績評価証明書」を提出してください。 【2016年11月IB試験受験者】 ・2016年11月IB試験結果を受験の際，試験結果をIBIS（International Baccalaureate Information System）を通じて本学が閲覧できるよう登録してください。 ・なお，国際バカロレア事務局から授与された①国際バカロレア資格証明書の写し（コピー）及び②「IB最終試験6科目の成績評価証明書」を 2017年3月8日（水）までに提出してください。 ※「IB最終試験6科目の成績評価証明書は国際バカロレア事務局へ発行を依頼し，その際，国際バカロレア事務局から直接岡山大学へ送付するよう指示してください。 【2017年5月IB試験受験予定者】 ・在籍する又は出身の学校長，進路指導担当者等が作成した③「国際バカロレア資格及びIB最終試験6科目の成績の取得見込み証明書（Transcripts of grades）」を提出してください。 ・2017年3月22日（水）に条件付合格となった場合は，2017年5月IB試験を受験の際，試験結果をIBISを通じて本学が閲覧できるよう登録してください。 ・なお，2017年3月22日に条件付合格となった場合は，国際バカロレア事務局から授与される①「国際バカロレア資格証明書」の写し（コピー）及び ②「IB最終試験6科目の成績評価証明書」を，2017年8月31日までに提出してください。 ※「IB最終試験6科目の成績評価証明書は国際バカロレア事務局へ発行を依頼し，その際，国際バカロレア事務局から直接岡山大学へ送付するよう指示してください。

19

IB入試（10月入学）の選抜方法等

岡山大学

出願に必要な書類等	■英語能力に関する成績証明（該当者のみ） ・試験日の2年前から出願までの間に受験した次のテストのスコアのコピー（複数提出可）を提出してください。 スコア原本は，入学手続き時に提出してください。 直近2年間に公式教授言語が英語による教育を受けた方は，提出する必要はありません。 ・TOEFL iBT ・PBT ・IELTS ・TOEIC ■日本語能力に関する試験の成績（受験している方のみ） ・日本語能力試験合否通知書又はIBプログラムにおけるJapanese A, Japanese B Japanese ab initioの履修状況（日本語が母国語の方）を提出してください。 ・志願票 ・写真 ・入学検定料 ・自己推薦書（日本語又は英語） ・評価書（日本語又は英語）

20

IB入試（10月入学）の選抜方法等

岡山大学

入試スケジュール（2017年5月IB試験受験予定者）

2016年11月		：学生募集要項発表
2017年	1月16日（月）～20日（金） 17時必着	：出願期間
	3月22日（水）13時の予定	：条件付合格発表
	8月31日（木）	：「IB資格証明書」，「IB最終試験6科目の成績評価証明書」提出期限
	8月31日（木）17時必着（郵送）	：入学手続期限

21

IB Student Interview Report

岡山大学

Reasons for Choosing Okayama University

1. Does not require the National Center Test
2. Recognizes the IB diploma without imposing any other tests
3. Can apply to most faculties with documents only
4. Offers Spring and Fall admissions
5. Can apply to all faculties with an IB score of 24*
6. National University with low tuition fees; global image
7. Overall cost of living in Okayama is cheap
8. Near to my/parents hometown
9. Strongly recommended by IB student Advisors/ Parents
10. Many opportunities to study abroad

*Except the 6-year Medical School Course which requires an IB Diploma Score of 39

22

アカデミックアドバイザーのIB校出身の学生評価

岡山大学

1. 第一印象は非常に良かった
2. IB生は：明るい・前向き・英語が上手・コミュニケーション力が高い
   発表は上手・チームワークがうまくできる
3. 国内と海外から来るIB生は少し違う
   ⇒国内IB校出身のIB生は日本の高校生とあまり変わらなくて、すぐ学生生活に慣れる（海外のIB生は少し時間がかかる）
4. 科目によってIB教育をHL（学習時間240時間）又はSL（学習時間150時間）で受けているかで知識の違いが少しある。
5. 一条校出身の学生と違って，覚える力よりもディスカッションする力が強い
6. IB生は大学に国際的教育改革をもたらすグローバル人材だ

23

国際バカロレアを活用した大学（平成29年10月現在）

岡山大学

国立大学（17大学 ）
北海道、金沢、筑波、お茶ノ水女子、東京、東京医科歯科、東京外国語
東京藝術、大阪、豊橋技術科学、名古屋、京都、京都工芸繊維、広島
岡山、長崎、鹿児島

公立大学（6大学）
国際教養、会津、首都大学東京、横浜市立、都留文科、大阪市立

私立大学（31大学）
千歳科学技術、東北福祉、松本歯科、青山学院、学習院、慶応義塾、
工学院、国際基督教、順天堂、玉川、中央、東京国際、東洋、日本工業、
日本獣医生命科学、法政、武蔵野、武蔵野学院、明治学院、立教、浦和、
明海、愛知医科、中京、関西学院、近畿、京都外国語、立命館、
神戸女学院、倉敷芸術科学、立命館アジア太平洋

赤字はIBのみの選抜＋一部定員あり
オレンジはIBのみの選抜+若干人
みどりはIB以外も対象＋一部定員あり

24

イギリスの大学出願事情（IBに限らず）

岡山大学

UCAS(Universities and Colleges Admissions Service)
を通じて5校（医、歯、獣医は4校）まで出願可能

- 個人情報（国籍、資金状況など）
- 出願するプログラムと学校コード
- 学歴、取得学位と成績
- 職歴
- 志望動機書　47行（または4000語）まで
- 推薦状　47行（または4000語）まで

を登録すると自動出願される。

複数大学から合格通知が来たら第１志望と第2志望（insurance）
を決める。

29

ご清聴ありがとうございました。

岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要第4号（2019）31 － 37

Backgrounds and Characteristics of IB Students Enrolled at Okayama University: A 7-year Experience

Sabina MAHMOOD

Abstract

The number of International Baccalaureate (IB) students applying to Japanese Universities is increasing. Okayama University is a Super Global Japanese National University which started IB admissions in 2012, and presently has 50 IB students in 11 faculties and 1 special program, in addition to 4 IB graduates. The IB journey began in 2012, and over a period of 7 years, Okayama University has taken multiple approaches to become IB student-friendly, by revising the IB admission policies as per IB student requirements; training faculty on IB education; exploring the differences in IB education and Japanese High School education; listening to IB student voices and familiarizing faculty about IB student backgrounds and characteristics. By providing IB student support, educating faculty and doing extensive IB research, Okayama University has established itself as a pioneer of IB admissions among the IB Organization, prospective IB students and parents, IB college counselors and other National Universities in Japan.

The basis of IB education:

Established in 1968, the IB Diploma Program (DP), was the first program offered by the IB and is taught to students aged 16-19 years of age. The DP was established to provide students with a balanced education, facilitate geographic and cultural mobility and promote international understanding (Hill and Saxton, 2014). As of September 2019, there are 3,421 schools offering the DP, in 157 different countries worldwide. The DP is highly recognized by the world's leading universities (Conley, 2014). DP students apply to more than 3,300 universities each year, in almost 90 countries. The DP curriculum is made up of six subject groups and the DP core, comprising of the extended essay, theory of knowledge (TOK) and creativity, activity, service (CAS). Through the DP core, students reflect on the nature of knowledge, complete independent research and undertake a project that involves community service. Students choose courses from 6 subject groups:

1. Studies in language and literature

2. Language acquisition
3. Individuals and societies
4. Experimental sciences
5. Mathematics
6. The arts

Students pursuing the IB diploma must take six subjects: one each from Groups (1-5) and either one from Group 6 or a substitute from one of the other groups. Students take some subjects at higher level (HL), comprising 240 teaching hours and some subjects at standard level (SL), comprising 150 teaching hours. Each student takes at least 3 (but not more than 4) subjects at HL, and the remaining at SL. The IB diploma is awarded to students who receive a minimum score of 24 points, and complete the core components. Scores are based on grades of 1 to 7 for each of the 6 subjects, for a total of 42 points, and up to 3 additional points for the core components. The highest total available for a DP student is 45 points. Students who do not complete the core components receive the "IB Certificate" which certifies completion of 12 years of education and also makes students eligible for University Admission.

History of IB admissions at Okayama University

Okayama University started IB admissions in 2012 with 4 out of 11 faculties namely, Science, Health Science, Engineering, Agriculture, and the Matching program (MP) course, accepting IB Diploma graduates, initially. In 2014, Okayama University was selected to receive funding from the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, as part of the "Acceleration Program for University Education Rebuilding Program (AP Program), for a period of 5 years, extending to 6 years. By 2015, all 11 faculties and the MP course were open to IB Diploma graduates (Ueda, 2015, Yonezawa, 2015, Yamamoto, 2017). In 2017 April, the MP course ended and from October 2017, the special program: Discovery Program for Global Learners, began accepting IB students not only with the IB Diploma, but also students with the IB certificate. In accordance with University standards worldwide, Okayama University decided to recognize the IB diploma and exempt IB students from taking the national university entrance exam (also known as the Center Test) or any other additional written tests.

IB Diploma application periods at Okayama University (for 11 faculties)

Okayama University has two application periods per year for IB Diploma students

seeking admission into the 11 faculties. The first application period is in August, for IB students taking the IB Diploma exam in May and graduating in July, and the other application period is in October, for IB students taking the IB exam in November, but who are eligible to apply with predicted scores, in October. Following the final result publication in January, eligible students are informed about their acceptance. While august applications are limited to certain faculties, all 11 faculties accept applications in October. Besides the 6-year medical school, which requires a minimum diploma score of 39 out of the total 45 for application, IB Diploma students can apply to all other faculties with a minimum diploma score of 24 out of 45. Other application requirements based on faculty are stated in the application guide which is revised annually and published in early summer.

Difference between IB education and Japanese High School education (JHE)

The IB diploma (IBDP) is a 2-year course preparing students for admission into Universities worldwide, while the JHE is a 3-year course preparing students for admission into Japanese Universities. The IBDP course focuses on communication and research skills, promoting deeper learning of specific subjects in addition to student engagement, in comparison to the JHE, which is mainly focused on deeper learning of specific subjects necessary to pass the University Entrance exam. The IBDP takes a more holistic approach which is inquiry-based, where students acquire knowledge by asking questions and considering multiple viewpoints. Class sizes are usually small, ranging from 1 student to a maximum of 15 students to one teacher, in comparison to Japanese high school classes with 40 students to one teacher. IBDP focuses on developing critical and creative thinkers who can contribute to both local and global contexts. In JHE, the method of learning is of transmission type, lecture oriented, where mostly the teacher speaks and students listen, study from text books and take notes. Questions are asked mostly by the teacher and students reflect either by answering to questions asked by the teacher or passively through reports or surveys. There is little opportunity for discussions on a regular basis.

IB student backgrounds

Among the 50 IB students who are presently enrolled at Okayama University, almost 50% are from IB schools abroad, such as International Schools in Germany, UK, Italy, Netherlands, Switzerland, Singapore, Taiwan, Thailand and Dubai. The remaining 50 % are either from International schools in Japan or Frist Articles schools with IB recognition, where Japanese high school students take the IB diploma in the final two

years of their 3 year high school course. The areas in Japan where IB students came from include, Tokyo, Kanagawa, Shizuoka, Gunma, Nagano, Aichi, Kyoto, Osaka, Hiroshima, Fukuoka and Okinawa. All IB students enrolled in the 11 faculties, are Japanese Nationals, having a Japanese Language Proficiency equivalent to native level Japanese, a full IB Diploma and a diploma score ranging from 24 to 42, out of the total score of 45. IB students belonging to the special program have either a full Diploma or an IB certificate. Multilingualism is a very common trait among all IB students studying at Okayama University.

Why IB students choose Okayama University

Although the IB diploma is recognized as equivalent to the entrance requirement for college admissions worldwide, most Japanese Universities require IB diploma graduates to take the National Center test, in addition to other tests for admission. In accordance with global standards, Okayama University was the first National University in Japan, to recognize the IB diploma and exempt IB students from taking the National Center test or any other tests, for admission. Based on feedback from IB students, parents and IB school college counsellors, this seems to be one of the biggest reasons for choosing Okayama University. Other additional reasons include:

1. Easy to understand admission policies.
2. Clear cut subject and grade requirements for each faculty.
3. Admissions based on document screening only (for most faculties),
4. Two application periods in August and October.
5. Recommendations by senior IB students and by IB college counsellors
6. Positive impression of Okayama University during school visits by Okayama University faculty
7. Familiarity through consistent participation of Okayama University in college fairs.
8. National university with very low tuition fees and a global image
9. Many study abroad opportunities with no extra tuition fees
10. Overall reasonable cost of living in Okayama city and huge campus environment.

IB student perspectives about academic and campus life at Okayama University

Within 4 weeks of admission, all IB students enrolled in the 11 faculties, have a one-on-one interview with the IB student advisor and are then followed up through direct interaction or surveys. All new IB students are introduced to the Okayama University IB student LINE group, which students can join of their own will (Mahmood

et al, 2016; Mahmood et al 2018). By being connected to the IB advisor through an easily accessible social networking platform, both IB students and the IB advisor have an opportunity to interact, exchange information regarding academic and campus life, and discuss various issues. Some impressions of IB students regarding academic and campus life at Okayama University are summarized below.

1. IB is interpreted as "fluent in English", which is a strong image.
2. The proactive attitude of IB students gather attention.
3. There are fewer opportunities for active discussions among students and teachers.
4. The number of classes conducted in English are few.
5. Some are worried about the decline in their English skills.
6. Concentrating in big classrooms is sometimes difficult.
7. It takes about 6 months to adapt to the new environment.
8. It feels good when IB student experiences encourage other students to study abroad.
9. Studying at a national university has brought some IB students closer to their roots.
10. Getting admission at a national university with an IB Diploma, without taking the center test, is very surprising for Japanese high school graduates.

Impressions of Faculty regarding IB students

Most Faculty at Okayama University are eager to take IB students. Presently IB students are enrolled in 7 out of 11 faculties and the special program (Mahmood et al, 2017). A one-on-one interview survey was conducted among Professors presently hosting IB students. Their impressions of IB students are summarized below.

1. They are bright, cheerful and optimistic.
2. They are all fluent in English.
3. They have very good communication and presentation skills.
4. They are good team players.
5. They are empathetic towards others.
6. They like taking new challenges.
7. They are usually good candidates for study abroad programs.
8. Their presence encourages other students to learn English and go abroad
9. Their discussion skills are better than their memorization skills.
10. They have a research mind and have good critical thinking skills.

Actions taken by Okayama University in 7 years to promote IB Admissions

1. Designating an IB student advisor and sharing IB student experiences with other faculty members on a regular basis.

2. Connecting with IB students regularly through a social networking platform.
3. Listening and learning from the experiences of IB student voices.
4. Networking with the IB head office, college counselors, prospective students and parents on a regular basis.
5. Active participation in major college fairs annually, to cater to the direct inquires of IB students and familiarizing Okayama University with IB students on a large scale.

Conclusion

IB students with their diverse backgrounds and critical thinking skills, have the ability to promote international mindedness. Their educational experiences and multi-lingual skills can encourage other students to take up new challenges internationally (Ninomiya, 2009; Sanders, 2018). Their open mindedness allows them to think outside their comfort zones and reach for newer horizons. Increasing the number of IB student admissions at Okayama University will not only internationalize the academic environment but create opportunities for local students to think at the global level for overall sustainability.

References:

1. Conley: International Baccalaureate Diploma Program: Examining College Readiness. *The Education Policy Improvement Center,* 2014.

2. Hill and Saxton: The International Baccalaureate (IB) Program: An International gateway to higher education and beyond. *Higher Learning Research Communications.* 4(3): 42-52, 2014.

3. Mahmood S, Tanaka K, Satake K, Tahara M.The International Baccalaureate Diploma Student Perspective on Student Life at Okayama University. Journal of Multidisciplinary Academic Research, 4(3): 85-89, 2016.

4. Mahmood S, Satake K, Iizuka M, Tanaka K, Ueda I, Tahara M.Viewpoints of Academic Advisors on International Baccalaureate Diploma Students Studying at Okayama University, Journal of Multidisciplinary Research, 5(1): 72-76, , 2017.

5. Mahmood S, Satake K, Iizuka M, Tanaka K, Ueda I, Ishii I, Tahara M. Creating an International Baccalaureate Student-friendly National University, Advances in Social Sciences Research Journal, 15(11): 354-360, 2018.

6. Ninomiya: The past, present and future of internationalization in Japan. *Journal of studies in International Education.* 13(2): 117-124, 2009.

7. Ueda: Okayama University International Baccalaureate entrance examination design-Present and Future (In Japanese). Daigaku Nyushi Kenkyu Journal, 26, 147-154, 2015.

8. Sanders: Expanding the International Baccalaureate Diploma Program in Japan: The

role of University Admission Reforms. *Journal of Research in International Education.* 17(1) 17-32, 2018.

9. Yamamoto: Diversifying admissions through top-down entrance examination reform in elite Japanese Universities: What is happening on the ground? In Mountford-Zindars and Harrison NE (Eds.). *Access to Higher Education: Theoretical Perspectives and Contemporary Challenges* (p. 216-231). Oxford: Routledge, 2017.

10. Yonezawa: Transformation of University governance through internationalization: Challenges for top universities and government policies in Japan. Higher Education, 70 (2): 173-186, 2015.

Interpretation of IB learner profile characteristics among students in Japanese Super Global High Schools

Background: The International Baccalaureate (IB), offers a continuum of international education with the aim of developing global leaders with intercultural understanding and respect. In order to foster globalized leaders who can play active roles on the International stage, in 2009, the Japanese government decided to provide financial and supervisory support to 56 Japanese High Schools nationwide, namely, Super Global High Schools (SGH). **Aim:** The aim of this research was to find characteristics which are common in both IB and SGH students and also characteristics which vary due to different educational approaches. **Survey Method:** Since the IB learner profile is the basis of IB education, the 10 IB Learner Profile characteristics were translated into Japanese and compared with SGH student characteristics. Between June and July 2018, the simplified, translated version of the IB learner profile, with a Likert scale of (1-5) attached for reference, was sent to SGH Counselors in 4 public and 1 private SGH in Okayama (3 SGH), Hyogo and Osaka Prefectures (2 SGH), respectively. Next, the University IB student advisor and the University Admissions Administrator (UAA), visited each school and interviewed the school counselors about the survey. **Survey Results:** When survey results were summarized, it was found that the biggest dissimilarity between IB and SGH student characteristics, was "Risk Takers" while the biggest similarity was to both was "Balanced". Other 8 IB leaner profile characteristics in Japanese students, as seen by SGH counselors, was not so varied, although interpretation may have been influenced by the counselors or SGH's own outlook. The interview also revealed a difference of opinion among SGH counselors in private and public SGH's. Counselors at private SGH'S, tended to judge student characteristics more strictly and felt their student's did not completely possess the IB characteristics of "Inquiry", as well as IB students. **Conclusion:** This survey revealed that, although the main goals of both the IB and SGH are similar, student characteristics at SGH, depend mostly on the style of education, school policies and student potential. While IB education follows the same method in every IB school, education practices at SGH vary, and reflect a lot on the school's past education style, which impacts overall student learner profiles.

● 研究発表

The 4th JARIBE Conference Abstract Submission Form

Please send this form by email to the conference committee *jaribe4th@gmail.com*

Types of Presentations	※ Choose ONE ☑ Oral presentation ☐Poster ☐roundtable
Speaker(s)	Sabina Mahmood
Affiliation(s) and title(s)	Associate Professor, IB Student Advisor, Okayama University, Center for Enrollment Management・Department of Student Support Services
Email address* *Only first-author's information needed.	sabina@okayama-u.ac.jp
Title of presentation	A 7 year reflection on IB enrollment at a Japanese National University

The number of International Baccalaureate (IB) students applying to Japanese Universities is increasing. Okayama University is a Super Global Japanese National University, which started IB admissions in 2012 and has presently, 46 IB students enrolled in 11 faculties and one special program. Okayama University was the first National University in Japan, to establish the IB Diploma admission policy in which, IB students were exempted from the National University Entrance Examination or any other written exams, for admission into the undergraduate course. The number of IB admissions have drastically increased, from an average of 1 student per year (2012-2014), to an average of 8-9 students (2015-2019. April). Faculties with the maximum number of IB students include the Medical Faculty (17 students) followed by the special program (11 students). This presentation will address the following details; a) reasons behind increasing IB admissions over 7 years and ongoing struggles; b) experiences of IB students in a Japanese academic environment (expectations, hopes and disappointments; c) challenges faculty are facing with IB students and, d) the IB student background. With a strong IB student support system, faculty education and extensive research, Okayama University is trying to meet the needs of IB students through transparency, student satisfaction and awareness about IB education. By sharing crucial information, Okayama University hopes that other universities in Japan will also realize the potential and uniqueness of IB education in creating global citizens, who can help in further internationalizing Japan and contribute immensely to the ever globalizing Japanese society.

Are you willing to a chair for an oral session? Yes ☑ No☐

The 4th JARIBE Conference Abstract Submission Form

Please send this form by email to the conference committee ***jaribe4th@gmail.com***

Types of Presentations	※ Choose ONE ☑ Oral presentation ☐Poster ☐roundtable
Speaker(s)	1. Sabina Mahmood 2. Carol Inugai Dixon
Affiliation(s) and title(s)	1. Associate Professor, IB Student Advisor, Okayama University, Center for Enrollment Management・Department of Student Support Services 2. Professor, Tsukuba University, International Education
Email address* *Only first-author's information needed.	sabina@okayama-u.ac.jp
Title of presentation	The Impact of IB education in Higher Education

IB education professes to be transformative, with the aim of creating a body of students with agency, who can make conscious decisions and become global citizens. TOK and CAS are seminal in this process. While TOK emphasizes knowing who and what we are and is an orientation in lifelong transformations, CAS is TOK in action. Therefore, it is important to measure the effect of what "IB means in Higher Education" and how 2 elements of the "IB core is embedded in tertiary education". In addition, what perspectives can we gain from an increasing body of students with an IB background in Higher Education? Finally, is the presence of IB in Higher Education in Japan bringing about a change? What factors stand as obstacles? Three student groups have been included in this study. The study group includes 10 undergraduate IB students at Okayama University and 5 MA students enrolled in the IB teacher training course at Tsukuba University, and as a control group, an equal number of non-IB undergraduate students. Participants will be given a questionnaire related to the impact of TOK and CAS during their IB education and post IB, or any other experience or education similar to TOK or CAS. Both researchers involved in this study are either teaching TOK, or has undergone a training at a CAS workshop. This presentation hopes to share some interviews of students either through attendance or a digital recording. Details and results of the presentation will contain work in progress.

Are you willing to a chair for an oral session? Yes ☑ No☐

ＩＢ生の入学後半年のフォローアップ調査（3年間）

	2017年	2018年	2019年
1. あなたはアカデミックライフやキャンパスライフに満足していますか？	満足している:55%以上　満足してない:30%以下; どちらとも言えない:15%以下	満足している:57%以上　満足してない:43%以下	満足している:85%以上　満足してない:15%以下
2. あなたはグローバル人材育成特別コースに入りましたか？	入りました:70%以上;　入りませんでした:30%以下	入りました:30%以下　入りませんでした:70%以上	入りました:43%以下　入りませんでした:57%以上
3. 日本語で大学の講義はよく理解できますか？	理解できる:85%以上　;　先生によります:15%以下	理解できる:57%以上　; 理解できない講義もあります:43%以下	理解できる:85%以上　;　理解できない講義もあります: :15%以下
4. 日本語でレポートを書くことは難しいですか？	難しくない:100%	難しくない:57%以上; 読むより書くことが難しい(漢字): 43%以下	難しくない:85%以上; 読むより書くことが難しい(漢字): 15%以下
5. 部活はしていますか？	はい:55%以上;やめた:30%以下; 入っていない:15%以下	はい(楽しい):85%以上;入っていない:15%以下	はい:85%以上(楽しい);入っていない:15%以下
6. 学内他のIB生と触れ合うことはありますか？	ある:100%	ある:57%以上(同じ学部のIB生のみ);あまりない:15%以下	ある:70%以上(同じ学部のIB生のみ);あまりない:15%以下;
7. 大学内英語で話す機会ありますか？だれと？ どこで？	ある:100%(留学生;EPOK; L-Café; G-コース)	ある:70%以上(留学生;EPOK; L-Café; 英語の授業) ない:30%以下	ある:43%以下(留学生;EPOKの; L-Café; G-コース; ルームメイト;英語の授業);　ない:57%以上
8. 現在、好きな科目は何ですか？	ある:70%以上　;ない:30%以下＊A	ある:85%以上＊A;ない:30%以下＊A	ある:100%＊A
9. 難しい科目はなんですか？	ある:55%以上＊B;　ない:15%以下; まだ分からない:30%以下;	ある:100%＊B	ある:85%以上＊B;　ない:15%以下
10.大学の先生からどんな学生支援を求めていますか？	ある:70%以上;＊C　;　ない:30%以下	ある:70%以上;＊C　;　ない:30%以下	ある:70%以上;＊C　;　ない:30%以下

A: 好きな科目	B：難しい科目	C：岡山大学に求めている学生支援
英語でディスカッションとプレゼンテーションできる授業	専門科目	IB生を受け入れる学部の先生のIB知識がない
専門科目	生物	入学前に先輩のＩＢ生とのContactが欲しい
物理	中国語	テストの答えを英語で書きたい
中国語	憲法	専門用語も英語で書きたい
上級英語	細胞生物学	学部の先生にIB生と日本の高校生の違いを理解してほしい
生物	Communication Development	英語での授業なのに先生が日本語で話す；もっと高いレベルの英語の授業が欲しい。今は簡単すぎる
教育	組織学	英語の授業を受けたくない
地元学	生化学	高校で学んだからテキストの内容をスキップされる授業が難しい。日本の高校卒業生向けの授業が多い
コミュニティビジネス	法律	先生に質問したら“中学校と高校で習っているでしょう”と言う発言はつらかった
異文化関係		授業中先生に学生と話す時間を作ってほしい；学生ともっとフランクに話してほしい
		海外実習に関する情報が欲しい
		奨学金が欲しい

科学研究費補助金・基盤研究(B)(一般)「国際バカロレア(IB)に基づく学校改革の推進—教科教育とIBの比較研究をふまえて—」関連事業

【国際バカロレア(IB)ワークショップ】
国際バカロレア教育の展開とIB生の成長

1. 日時　2020年1月29日(水)

第一部　15時～16時30分

第二部　16時40分～17時40分

2. 場所　岡山大学教育学部講義棟

第一部　講義棟二階5208教室

第二部　講義棟一階5101教室

3. 講師

第一部:IBに関する講演会

○田原　誠先生(岡山理科大学附属中学校・高等学校・校長、前岡山大学副学長(入試改革担当)

○Sabina Mahmood先生(岡山大学全学教育・学生支援機構・准教授)

＊お二人とも本学のIB研究に長く携わっておられました。田原先生には、岡山理科大学附属高等学校のIB教育について、Sabina Mahmood先生には、本学のIB入学生に対する調査結果を中心にお話しいただきます。

第二部:本学のIB学生によるワークショップ:IBで生徒はどのように学んでいるのか

○野村慶太(教育学部学校教育教員養成課程小学校コース英語教育専修3年生)

○山部雅帆(教育学部学校教育教員養成課程小学校コース国語教育専修1年生)

4. 申し込み

大学院教育学研究科　桑原敏典(社会科教育講座)

E-mail:kuwabara@okayama-u.ac.jp

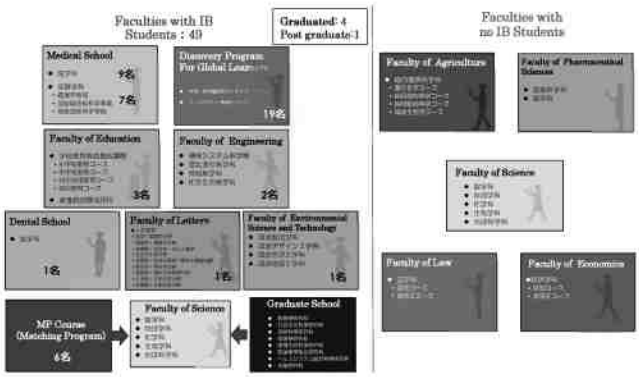
国際バカロレア(IB)ワークショップ
２０２０年1月２９日

International Baccalaureate (IB) Students at Okayama University

Sabina Mahmood, MD, PhD
全学教育・学生支援機構　准教授
全学IB生アドバイザー・全学留学生アドバイザー

Our IB Admissions Journey: 2012~2019

Admission Year	Faculties with April Admissions	Faculties with October Admission
2012	4 Faculties (Science, Health Science, Engineering, Agriculture), MP course	
2013	4 Faculties (Science, Health Science, Engineering, Agriculture), M P course	MP Course
2014	5 Faculties (Science, Health Science, Engineering, Environmental Science and Technology, Agriculture), MP Course	MP Course
2015	All 11 Faculties, MP Course (Letters, Education, Law, Economics, Science, Medicine, Health Science, Dental School, Pharmaceutical Sciences, Engineering, Environmental Science and Technology, Agriculture and MP Course	MP Course *(Admissions closed in April, 2017)
2017	All 11 Faculties	Discovery Program for Global Learners



IB student follow-up

IB student background

1. 50% **students are from IB schools in Japan and** 50% **from IB schools abroad.**
2. **IB schools in Japan** include International Schools and First Article schools.
3. **Students from IB schools in Japan are from the following areas:**
   Tokyo, Kanagawa, Shizuoka, Gunma, Nagano, Aichi, Kyoto, Osaka, Hiroshima, Fukuoka and Okinawa
4. **Students from IB schools abroad are from the following countries:**
   Dubai, Germany, Indonesia, Italy, Korea, Netherlands, Switzerland, Singapore, Taiwan, Thailand & UK.
5. **Students in faculties besides the Discovery program all have taken** Japanese A **(native level Japanese)**

Why did IB students choose Okayama University?

Feedback from enrolled IB Students/ IB College Counselors /Parents

1. Does not require **the National Center Test**
2. Recognizes the IB diploma **without imposing any other tests**
3. Admission Policies are easy **to understand**
4. **Faculties** have clear subject and grade **requirements**
5. **Can apply to most faculties with** documents only
6. **Offers** Spring **and** Fall **admissions**
7. **The total** IB DP score requirement is reasonable*
8. Recommended **by senior IB students/IB College Counselors/IB PTA members**
9. **Many opportunities to** study abroad without paying extra tuition fees
10. **National University with** low **tuition fees:** global image
11. **Overall** cost of living **in Okayama is** cheap
12. **Near to** own/parents/relatives **hometown**

What University Professors think of IB students

Feedback from Faculty Professors hosting IB students

1. **Bright, cheerful, optimistic.**
2. Fluent in English
3. **Good communication and presentation skills**
4. Good team players
5. **Empathetic**
6. Loves taking challenges
7. **First choice for study abroad programs**

Initial difficulties faced in class by IB students

Feedback from enrolled IB Students

1. **Too many lecture based classes, particularly** language
2. **English** classes are too easy. **Some teachers** speak a lot of Japanese.
3. **There is** not much scope for discussion **in many classes.**
4. **Too** many things to memorize is a challenge **for some.**
5. **Concentrating** in big classrooms **with many students is** difficult.
6. **Writing** reports in Japanese is a challenge **for some.**
7. **Lack of** communication with the teacher **for some.**
8. **Knowing English means** always having to take the lead **is sometimes stressful**
9. **Very** little research opportunities **in the first two years**
10. **Reference** to Japanese High School curriculum **is challenging!**

Differences between IB Education and Japanese High School Education-1

国際バカロレアと日本の高校教育の比較

Survey Method

1. Equal number of lessons were observed, at both IB schools (IBS) and Japanese High schools (JHS)
2. Grades 10-12
3. Subject observed: Biology
4. Observation objectives: To compare teaching methods and ways of student learning
5. Observation period: Between October 2017~January 2018
6. Observer: IB student advisor and University Admission Administrator (UAA)
7. 5 Japanese High Schools in Okayama Prefecture (SGH and SSH) and 5 IB accredited International Schools in Japan

IB school classes vs Japanese high school classes-1

General	IB School	JHS School
Class size	2-16 students	37-40 students
Location	Indoors/Outdoors	Indoors (class/lab)
Lesson Type	Discussion Based	Lecture oriented
Study Material	Laptops	Textbooks/worksheets
Class environment	Casual: eat: drink ok!	Very Academic
Combined classes	HL and SL combined	None

IB school classes vs Japanese high school classes-2

Students	IB School	JHS School
Class involvement	Almost all students	Answering questions
Class reflection	Vocally and freely	Through worksheets
Asking Questions	Throughout lesson	Students don't ask Q's
Class preparation	Student's research Topic beforehand	Textbook and worksheet prepared by the teacher
Student responsibility	Well prepared	Attendance and concentration

Research Summary

1. Biggest difference: Class size

2. Next difference: Cultural
a) IB students voice their opinions freely and engage actively
b) JHS students tend to listen more, express less and speak when spoken to
c)JHS teachers use different techniques for student involvement, but JHS students are by nature shy and don't like to voice their opinion.

3. IB education targets Universities worldwide ; JHS education is targeted at passing the "Center Test" at Japanese Universities.

Research Conclusion

In JHS, emphasis is placed on the teacher's preparation to provide all the necessary knowledge to the student, but in the IB, the responsibility lies mainly on the student. The teacher provides the guidance and resources students need to study and research by themselves.

Comparing the IB Learner's profile with Student characteristics at SGH

"スーパーグローバルハイスクールで培われる「IBの学習者像」の一考察"

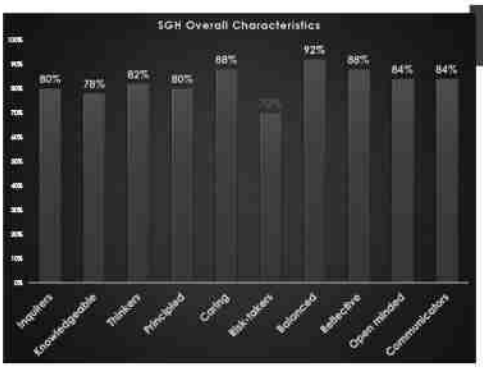
The IB Learner Profile (IB学習者象)

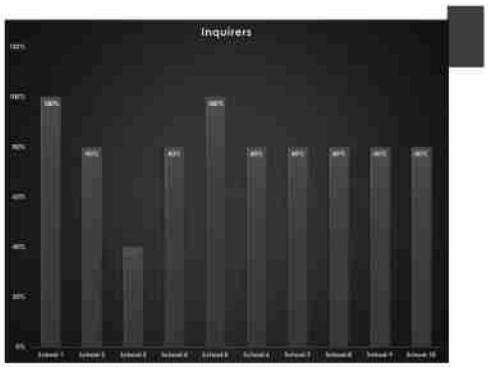
Survey Background

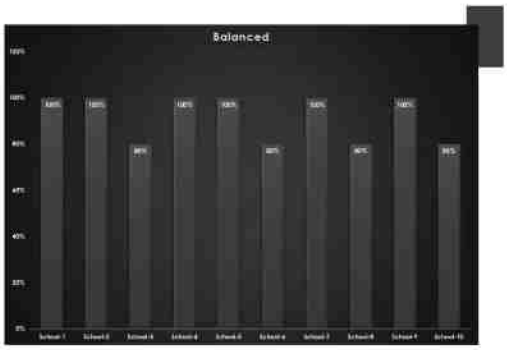
Survey Period: June 2018 –July 2019

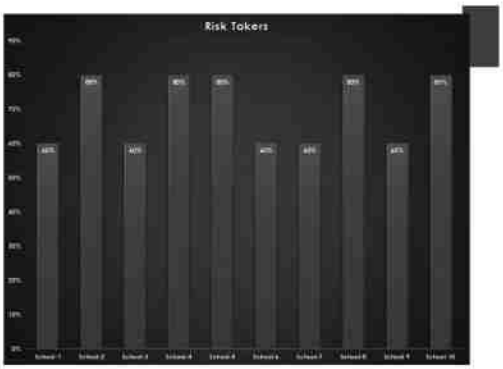
Principal Investigator:
University IB student advisor: Sabina Mahmood, MD, PhD
岡山高大接続学生支援センター学生支援部門 ・准教授
Co-Investigator:
University Admissions Administrator (UAA): Ishii Ichiro (元ＳＧＨ校長)
岡山高大接続学生支援センター

1. 10 **IB Learner Profile** characteristics were translated into Japanese in the form of a survey.
2. **A Likert scale of (1-5)** was attached to the survey, and sent to SGH Counselors in 8 public and 2 private SGH via email.
   Okayama Prefecture: (3 SGH); Hyogo and Osaka Prefectures (2 SGH);
   Shikoku Area (2); Kyoto (1); San'in & Hiroshima area (2)
3. All 10 SGH were visited and SGH counselors in each school were interviewed regarding the survey.









Conclusion

1. The biggest similarity was in the characteristic: "Balanced"
2. The biggest difference was in the characteristic: "Risk Taker"
3. Except 1 school, all 9 SGH agreed their students were "Inquirers"
4. Six out of 10 schools agreed 100% students were balanced
5. Student development depends highly on the school environment and teachers approach to global education in addition to financial situation

What has changed over 7 years?

1. Most are happy to have got admission with the IB Diploma only and don't have expectations beyond that.
2. Most have got used to the Japanese University way of life.
3. Some are actively involved in IB student recruitment.
4. Some coach prospective IB students online
5. Some volunteer to participate in IB research and conferences.
6. Some teach IB like lessons to local school children and introduce IB education to parents.
7. Some provide valuable feedback to make the University more IB friendly.
8. With each year, new IB students are adjusting faster due to advice and help from senior IB students and better communication with teachers.
9. . In the early years, IB students found club activities to be too stressful, but in recent years, almost all IB students have joined at least one club activity for better communication with other non-IB students.

IB students initiatives

Desire to have an IB Booth during Open Campus

Presentation at an IB Conference

Want to participate in IB student recruitment at own school

Helping out at the International Student Help Desk

The 7 year experience : What worked for us?

1. **Educating the IB team about the IB and sharing with other faculty members**
2. Connecting with IB students through SNS on a regular basis
3. **Learning directly from IB student voices about IB student needs, hurdles, desires.**
4. Discussing IB student feedbacks with concerned authority on a regular basis.
5. **Networking with IB College counselors, prospective IB students, parents**
6. Creating opportunities for prospective IB students to visit besides Open Campus.
7. **Being open to prospective IB student inquiries following school visits or College Fairs**

Our Survey on how to create more IB friendly Admission Policies

Feedback from 20 College Counselors from International Schools and First Article schools in Japan

General Disappointments	Okayama University Efforts
1. Not recognizing the IB Diploma **and imposing admission tests**	✓
2. Lack of understanding **of the IB education system**	✓
3. Unrealistic expectations **of IB students**	✓
4. Unfamiliarity with overseas admission policies **with regard to:** **Language requirements** **IB credit transfers** **Age at admission**	*Japanese A & B Accepted& **Discovery Program can be** taken in English. *Following GTEC scores, IB students exempted from taking English classes *Discovery Program has no age barrier
Suggestions	
1. Multiple Approaches necessary to accommodate IB students	✓
2. Giving priority to IB student needs	✓
3. More transparent and clear cut admission policies	✓

IB Student life at Okayama University

Feedback from IB Students during their "Open dialogue with the Executive Director Sano :Head of Education" June 3rd, 2019

Conference Presentations 2016 May~2019 July

Local

1. **Mahmood S**. Oral presentation. 日本の大学入試制度改革に向けて国際バカロレア学修評価と教育法の提案. NEU, Osaka, **2016**.
2. **Mahmood S**. Oral presentation. The Pioneering role of Okayama University Medical School in admitting the first ever International Baccalaureate Diploma Students into the Medical School and Health Science Department. JME, Osaka, **2016**.
3. Mahmood S. Oral presentation. International Baccalaureate Diploma Graduates at Okayama University. JAIBEE, Tsukuba. **2016**.
4. **Mahmood S. Oral presentation.** Assessment of Japanese Language Education in the Inter International Baccalaureate Program at International Schools. SKE, Toyama. **2017**.
5. **Mahmood S. Oral presentation.** Increasing rate of International Baccalaureate Admissions into Okayama University Medical School. JME, Sapporo. 2017.
6. **Mahmood S. Oral presentation.** An Extra curricular Active Learning Group Initiated and Executed by Nursing Students Focusing on Nursing English Education: A One Year Experience. JAPMEC, Nagoya. **2017**
7. **Mahmood S. Symposium speaker**:岡山大学における国際バカロレア出身子弟の受け入れについて MEIJO, Okayama. **2017**.
8. **Mahmood S. Oral presentation**: Comparing International Baccalaureate Education with Japanese High School Education. JME, Tokyo. **2018**.
9. **Mahmood S. Poster presentation**:岡山大学における国際バカロレア出身子弟の受け入れについて. NEU, Tokyo. **2018**.
10. **Mahmood S. Oral presentation**: Nurturing International Mindedness by increasing IB Admissions: A 6 year Experience at a National university. JAIBEE, Okayama, **2018**.
11. **Mahmood S, Oral presentation**: 60 DP Admissions at a National University in Japan. HI Higher Education Forum, Tokyo. **2018**.
12. **Mahmood S, Oral presentation**: Interpretation of IB learner profile characteristics among students in Japanese Super Global High Schools. JME, Kyoto. **2019**.

International

13. **Mahmood S, Oral presentation**: Viewpoints of Academic Advisors on International Baccalaureate Diploma Students Studying at Okayama University. IB Global Conference, Yokohama. **2017**.
14. **Mahmood S, Oral presentation**: Enhancing International Mindedness by increasing IB Diploma Admission at a Japanese National University. IB Global Conference, Singapore. **2018**.
15. **Mahmood S, Oral presentation**: Efforts towards creating an International Baccalaureate student friendly Japanese National University. ICEPS, Tokyo. **2018**.

Research Publications 2016 ~2018

1. **Mahmood S**, Tanaka K, Satake K, Tahara M.The International Baccalaureate Diploma Student Perspective on Student Life at Okayama University. **Journal of Multidisciplinary Academic Research,** 4(3): 85-89, **2016**.

2. **Mahmood S**, Satake K, Iizuka M, Tanaka K, Ueda I, Tahara M.Viewpoints of Academic Advisors on International Baccalaureate Diploma Students Studying at Okayama University.**Journal of Multidisciplinary Research,** 5(1): 72-76, , **2017**.

3. **Mahmood S**, Satake K, Iizuka M, Tanaka K, Ueda I, Ishii I, Tahara M. Creating an International Baccalaureate Student-friendly National University. **Advances in Social Sciences Research Journal,** 15(11): 354-360, **2018**.

**Already completed work on 2 other research projects and presently preparing for submission.

Take home message!

1. **Consider IB students seriously.**
2. **Educate faculty about the IB education system**
3. **Don't impose unrealistic admission rules for IB students**
4. **Create opportunities for IB students by listening to them.**
5. **Don't try to change the IB student or the system at once. Find the correct balance!**

Thank you for your attention!

■　シンポジウムの開催

大学教育再生加速プログラム（AP）採択事業シンポジウム

AP 事業（入試改革）総括シンポジウム
IB 教育に向き合った「岡山大学モデル」

日時：2019 年 9 月 29 日（日）13:00～16:00

場所：岡山大学創立五十周年記念館

国際バカロレア(IB)のディプロマ修了者を受け入れる IB 入試の設計から入学生のサポート体制までの岡山大学モデルについて解説します。また国内の他の大学の IB 入試の実情並びに、IB 研究に基づく国内及び海外の IB 校における生徒の大学選択行動について報告します。これらを鑑み、日本の大学における IB 生の受け入れ拡大の可能性を探ります。

PROGRAM

13:00～　Ⅰ 開会の挨拶　　岡山大学理事（教学担当）・総括副学長　佐野　寛

Ⅱ 基調報告

13:05～13:25　◇　「岡山大学モデルのフレームワーク
～国際バカロレア教育に向き合った修了生受け入れ～」
岡山理科大学附属中学校･高等学校校長
文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム AC ファシリテーター
（前 岡山大学アドミッションセンター長）　田原　誠 氏

Ⅲ 講　演

13:25～13:45　◇　「鹿児島大学の国際バカロレア入試」
鹿児島大学アドミッションセンター准教授　竹内　正興 氏

13:45～14:05　◇　「DP 校生徒の大学選びあれこれ～英語 DP 校とデュアルランゲージ DP 校～」
立命館宇治中学校・高等学校教諭　福島　浩介 氏

14:05～14:25　◇　「IB 校（インターナショナルスクール）から見た大学選択行動」
カナディアンアカデミー教諭　遠藤 クラム 智子 氏・Victoria Lidzbarski 氏

14:25～　休　憩

14:45～　Ⅳ パネルディスカッション
モデレーター　岡山大学高大接続・学生支援センター アドミッション部門長　田中　克己
パネリスト　田原　誠 氏，竹内　正興 氏，福島　浩介 氏，
遠藤 クラム 智子 氏，Victoria Lidzbarski 氏
岡山大学高大接続・学生支援センター 学生支援部門准教授　マハムド　サビナ

15:55～　Ⅴ 閉会の挨拶　岡山大学高大接続・学生支援センター長　門田　充司

16:00　閉　会

≪参加申込≫

岡山大学ホームページから 9 月 24 日(火)までにご登録ください。
⇒https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/admissions/

お申し込みは
こちらから→

岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

お問合せ

岡山大学 学務部 入試課
TEL　：086－251－7284
E-mail ：admission@okayama-u.ac.jp

入場
無料

「岡山大学モデルのフレームワーク」

講演者：岡山理科大学付属中学校・高等学校長
文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム
AC ファシリテーター
（前　岡山大学アドミッションセンター長）
田原　誠

ただいまご紹介いただきました田原です。

国際バカロレアについて簡単にまとめると、まず、国際バカロレアは国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラムです。設立されてから、去年で 50 年が経ちました。そもそもの設立目的は、国際的に通用する大学入学資格を育む教育を提供することでした。その使命は、「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より平和な世界を築くことに貢献する、知識、思いやりに富んだ若者を育成すること。学校、政府などと協力して国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みを開発していくこと。児童生徒に、人が持つ違いを理解して、自分と異なる考えの人々にも、それぞれの正しさがあることを認め、生涯にわたって学び続けるように、働きかけていくこと」と謳われています。この使命は、「国際的な視野を持つ若者を育む」こととして集約されます。そのような使命を実現させるための理念としては、このスライドに表される 10 人の学習者像として、具体的な人物像を示し、その人物像実現に向かって教育を進めていきます。さて、国際バカロレア教育の種類ですが、高校に対応するディプロマ･プログラムがまず創られ、日本の中学校に相当する MYP、小学校に相当する PYP が続き、最近では、キャリア関連の CP も創られています。
国際バカロレア教育の一番大事な特徴ですが、それは、学習者に学ぶための方法を体得させるということです。知識、技能を教えるのではなく、学ぶ方法を習得することに重点が置かれています。そのための教育の方法としては、探究や概念理解、地域・グローバル、協働などに重点を置いた指導が行われます。実際の授業としては、少人数教育、探求学習、双方向、協働学習を促す、あとは論理的、検証的思考を学びます。また、学びの社会との関わりについても理解を促します。ディプロマ・プログラムの教科は 6 種類設定されています。大事な点は、言語と文学で、自分の母語と伝統や文化をきっちり学習し、自分の学びの基礎（アイデンティティー）を作っていくことです。これらの教科に加えて、コアカリキュラムを履修します。課題論文は、課題について調べ、主張をまとめ、文章で表現する力を学びます。知の論理というのは、検証的に考える、論理的に考える力を身につけていきます。それから、CAS と言われているのは社会との関わりを様々な活動の中で学ぶことであり、必修としています。

次に、大学が国際バカロレア教育をどう評価しているのかについて説明します。国際バカロレア教育は世界で共通したものです。まず、高校は国際バカロレア機構の制度に従って認定を受けないと教育を実施できません。教育の理念、目的、方法、評価のシステムも世界で共通のものです。世界の多くの大学は、修了生が大学で大きく伸びる資質・能力を備えていると認め、入学資格として歓迎しています。国際バカロレアの成績評価は大学側からも信頼されています。その一つの例ですが、伝統を誇る国際バカロレア校でも新設校でも、生徒の最終成績は等しく評価されていることがあります。鷗州塾というのは、広島の学習塾で 2003 年にニュージーランドで国際バカロレア校を開設しました。その、第 1 期生は、ケンブリッジ大学、マサチューセッツ工科大学、シカゴ大学, マギル大学など世界のトップクラスの大学から入学許可をうけました。つまり、認定校での教育の質、最終的な成績評価がしっかりと信頼されているから、このようなことが起こるということです。

それでは、岡山大学モデルということで、岡山大学は何をして来たかということをお話しします。国際バカロレア修了生を受け入れる入試は 2012 年に始まり、2015 年からは、全ての学部で実施しています。この入試の実績ですが、当初は出願者も少なかったけれども、現在は 30 人を越える出願があります。大事な点は、20 人以上合格としていても、10 人程度しか入学していないことです。要は、国際バカロレア修了者は、結構いろんな大学が受け入れを行っており、書類審査が基本ですから、いろんな大学から合格を得られる状況になっていることです。次に、岡山大学に在学している修了生ですけれど、42 人で、4 名はすでに卒業しています。国際バカロレア入試が始まった頃は、外国の国際バカロレア（IB）校からの入学が多かったのですが、最近では、国内の IB 校からの入学者が過半を占めるようになっています。入学先ですが、どちらかというと免許の取れる学部への希望が多く、医学科は 9 人、看護学科は 7 人です。MP コースとその後を継いだディスカバリープログラムに最も多くの入学者がいます。さて、岡山大学の国際バカロレア取り組みの特徴は何でしょう。それは、赤字で示している 3 つの点が、一番大事な所だと思います。1 つ目は、国際バカロレアのシステム自体を、信頼・評価して、受け入れていること。もう 1 つは、非常に透明性の高い入試制度を実施して受け入れていること。そして、おそらく一番大事なことは、入ってきた人たちの受け入れ態勢を整備していることです。このような岡山大学の取り組みは、朝日新聞の取材を受けました。この記事は、朝日新聞の GLOBE＋のサイトにありますから、ご覧いただければと思います。

それでは、さっき申し上げた大事な特徴の一つである入試について、基本的な考え方を説明します。まず、岡山大学は、国際バカロレア修了資格を大学の入学資格として扱っています。日本の大学は、これは大学入試を受験するための資格と考えているところがほとんどであると思います。これはどういうことかというと、IB 教育の内容と評価を信頼して、筆記試験を課さずに入学を受け入れています。それから、出願を受理する学部、学科ごとに、専門性が違いますので、専門性に備えるために、IB 教育で履修をしておいてもらいたい科目を設定しています。ただし、IB 校のカリキュラムにも配慮して科目の設定を行っています。

それから、もう一つは、ディプロマ資格を要件としていますが、合格最低点を要求しているのは医学部医学科のみで、それ以外の学部・学科はディプロマ取得基準である２４点で受け入れています。なお、現在進められている高大接続改革では、「学ぶ態度」である学力の第三要素を大学入試でどう評価するかというのは、非常に頭が痛いところです。国際バカロレア入試では、そもそもこのような点は課題になりません。
次に、具体的な入試の内容です。まず、出願資格ですが、これは、日本語と、学科ごとの要件の２本立てです。それは学部によって受験者に求める要件が違っているためです。各学部が指定する科目と成績評価の表は見づらいですが、一番わかりやすいのは、例えば、理学部数学科であれば、進学してもらった後の学科の専門性に応じて、数字はハイヤーレベルを選択して勉強してきてほしいということです。出願と審査の手続きですが、フルディプロマ資格をすでに取得済みの人、または 11 月に取得のための試験を受ける人を対象に、それぞれ 8 月募集、または 10 月募集があります。10 月募集では、入試の判定は、11 月のディプロマ資格試験の発表を待ってから行い、判定結果は 2 月に公表します。欧米の大学や日本の大学も行っている、いわゆる「ディプロマ資格の見込み点」で合格判定をするようなことはしていません。その理由は、出願要件であるディプロマ資格の取得を確認して合否判定をできることと、国際バカロレア入試で欠員が出ても、その判定結果発表の時期は、前期日程試験の前なので欠員は前期日程試験などに振り向けることができるためです。
では、国際バカロレア入試の導入の経緯を説明します。もともとは、９月入学制度の検討から始まりました。９月入学は、４月入学のものと半年間違ったカリキュラムを組む必要があることと卒業が 3 月にはならないことが、導入の最大のネックでした。国際バカロレア入試の入学者であれば、３年半の早期卒業を行うことで、このような課題を解決できると考えました。4 年制の学部では卒業に必要な単位の基本数は 124 です。これは、半年では、16 単位です。本学では英語については、TOEIC などの外部試験で良い成績を示せば、一般教育課程の単位として認定されます。また、アメリカ、カナダなどの大学は、国際バカロレアのハイヤーレベル履修科目は一般教育の単位として認定しています。日本の大学でも、ハイヤーレベル履修科目の単位認定を行えば、国際バカロレア入試の入学者は英語の外部試験で高い点数をとることができるので、一般教育課程の半年分の単位を認定でまかなうことができる。そうすれば、９月に入った学生でも、翌年の４月には２年生になれます。それを実現しようとしましたが、実際には、高校の履修科目は大学の単位としては認定できないという文部科学省の規則があって、国際バカロレア入学者の３年半卒業は実現できませんでした。
９月入学制度についての調査を行う中で、入試制度を設計すれば、国外の国際バカロレア校修了生の受け入れの可能性が分ってきました。このため、入試制度導入に向けて全学の入試関係の委員会で説明を行いましたが、理解は得られませんでした。そこで、理農工３学部の学部長にお願いして、教育担当の学部委員の先生に IB 校を訪問見学してもらいました。これらの先生は IB 校の訪問の中で、特に生徒と会って対話することで、国際バカロレア教育

の認識を深め、これらの３学部は入試導入を決めました。これから国際バカロレア入試の導入を考えている大学では、まず、修了生やIB校で生徒に会ってみることを勧めます。
国際バカロレア修了生を受け入れて、彼らに活躍してもらうために一番大事なことは受け入れ体制です。国際バカロレア修了生には、岡山大学グローバル化の中心的な役割を期待しています。日本の普通科の教育課程と国際バカロレア教育は学習習慣などで、根本的に違う点があるので、調整を行うための専門のアドバイザーを置くようにしました。それが、サビナ・マムードさんです。彼女は医学博士で、イギリスで学んで岡山大学に来ました。彼女の母語の一つは英語であり、国際バカロレアの生徒は英語による教育を受けてきていますから、英語によって細やかなコミュニケーションがとれます。サビナさんが行ってきた国際バカロレア入学者の支援活動をいくつか紹介します。
昨年、岡山大学で、岡山理科大学と共同して国際バカロレアの学会を開催しました。このスライドはその時の様子です。公開シンポジウムでは、「IB 生の声を聞こう」ということで、IB 生に発表を行ってもらいました。これは、さきほどの入試導入にあたっての３学部の話と同じですが、このシンポジウムに参加した人は、国際バカロレアとはこういう教育で、こういう生徒さんが育まれるということを、理解していただきました。シンポジウムには、国際バカロレア候補校であった広島叡智学園の教頭先生が聴講されていましたが，シンポジウムの後、発表者のIB修了生に、是非、同校の広報活動の発表者として参加させてほしいとの要請がありました。それを聞いて、IB 修了生は、ボランティア精神を発揮して、広島での広報活動に参加してくれました。
専門アドバイザーであるサビナさんは、研究者としての観点から、岡山大学の国際バカロレアについての取り組みを調査し、論文として報告しています。日本の大学における国際バカロレア修了生の受け入れに関して貴重な知見を報告しています。
時間が過ぎてしまいましたが、今後に向けてということで、2点お伝えします。まず、日本語デュアルランゲージプログラムです。今までの国際バカロレアというのは、要は、語学以外はすべて英語でした。日本人学生は「言語と文学」の科目で日本語を履修し、日本語の教育はその科目だけでした。しかし、平成26年度から、6科目中４科目までは日本語で教えても良いという、日本語デュアルランゲージプログラムが認められました。これは、文科省が相当努力して、国際バカロレア機構に働きかけた結果であると思います。ちなみに、デュアルランゲージプログラムは、ドイツ語で認められているだけです。中国語とアラビア語についても要請はあるようですが、認められていません。
日本語デュアルランゲージプログラムの導入にあたって、国際バカロレア教育科目について日本の普通科高校の科目に読み替えることも認められましたから、日本の普通科の高校で国際バカロレア教育を導入することが実現可能になりました。４教科までは日本語で教えられるということで担当教員の確保が容易になりました。「言語と文学」の科目以外は英語教育するとなると、国際バカロレア校が世界的に増加している状況から、英語で教えることのできる教員の確保は極めて困難です。

実際に、国際バカロレア認定校の動向を見ると、日本語デュアルランゲージプログラムの学校がかなり増えています。また、日本国籍を持った人が、どれだけ IB の最終試験を受けているかの推移をみると、国内の国際バカロレア生が受験する 11 月試験受験者の数が植えていることが分かります。
最後に、現在進められている高大接続教育改革との関係について、個人的な意見を述べさせていただきます。結論からいうと、高大接続改革がめざす教育改革の内容は、国際バカロレア教育の理念ときれいに一致します。しかし、大学入試について見ると、教育改革がめざす学力の３要素のうち、第３の主体性・協働性については、筆記試験中心の前期日程や後期日程の大学入試では、評価が難しいのが現実です。国際バカロレア教育では、学びに向かう態度は最終評価に十分含まれているので、大学入試改革の推進には国際バカロレア修了生の受け入れ枠を拡大することが合理的で現実的であると考えます。最後に、岡山理科大学付属高校は、今年３月、IB 校に認定されました。岡山で初めてですということで、宣伝しています。ご清聴、ありがとうございました。

「鹿児島大学の国際バカロレア入試」

講演者：鹿児島大学アドミッションセンター
准教授　竹内正興

失礼いたします。鹿児島大学の竹内と申します。今日は、このような機会をいただいてありがとうございます。鹿児島大学の国際バカロレア入試を導入して４年が経ちます。本日は、導入の成果と課題について報告させていただきます。はじめに鹿児島県について簡単にご紹介させていただいたあと、本論に入っていきたいと思います。よろしくお願いします。鹿児島大学は鹿児島県鹿児島市にありまして、岡山駅から九州新幹線みずほに乗りますと、2時間５８分で鹿児島中央駅に着きます。2時間台ということで、かなり便利になっています。そして、鹿児島中央駅から徒歩 15 分程度の距離に鹿児島大学があります。路面電車も出ていて便利な場所にあります。学部は９つあります。こちらをご覧いただきますと、青が文系学部、赤が理系学部、緑が文系理系混在学部です。九州の国立の総合大学では、最も理系の比率が高いということになります。

次に、この白地図を見てください。IB の生徒に限らず、高校生の出願者の動向、どういう方向に目が向いているかということを、どの大学でも分析していると思うのですが、九州の受験生というのは、九州の中で動こうとする傾向が見られます。その中で、鹿児島県の場合ですと、地元の大学か、あるいは地元を出るなら、北へ北へというような流れがあります。要するに、福岡県に向かっていくような流れがあります。本州の方へ行きますと、東へ東へという流れがあるんじゃないかなと思います。要するに、九州地区の高校生が県外の大学に目を向ける場合、高校生は北へ北へと行くという傾向が見られます。そう考えますと、鹿児島県に北へ北へと向かってきてくれる人は、どの県があるのかというと、よく見ますと、海しかないんですね。そのため、志願者を県外から集める立地としては、非常に厳しい状況にあるという問題意識を持っています。そのような中で、鹿児島大学では、５年前に文部科学省のある競争的資金の改革プログラムに応募したのですが、残念ながら採択されませんでした。それを契機に、これからさらに 18 才人口が減る中で、やっていけるのだろうかと危機感を抱くようになりました。公立大学の先生がいらしたら、語弊があるかもしれませんがこのままいくと、国立大学から公立大学になってしまうのではないか、地元からだけしか受験生が来なくなってしまうのではという危機感がありまして、本当に何とかしないと生き残っていけない、そういったことで、何とかしていきましょう、ということになりました。その時の入試改革の柱が３つありまして、その１つが国際バカロレア入試の導入になります。こちらは鹿児島大学の平成 30 年度の入学状況ですが、一番下をご覧いただきますと、県内からの入学者の比率が、この年は 41.8%だったんですけれど、多い年は 45%前後あり

まして、半数近くが県内からの入学者ということになります。これはこれでいいんですけれど、必然的に 18 才人口が減っていく中で、県内比率が変わらないということになると、入試倍率は確実に下がっていくということになりますので、何とかしていかなければいけない課題の 1 つです。

そして、この円グラフは入学者の割合なんですけれど、青は鹿児島県内、オレンジは鹿児島県以外の九州各県、そして九州以外がグレーということで、84%が九州地区からの入学者ということになります。このオレンジから来ている鹿児島県外の九州地区の入学者は、はじめから鹿児島大学を希望していた人よりも、センター試験の自己採点の点数をみて、合格できそうだから出願するという人がかなり多くいます。そのため、非常に危機感をもって対応していかなければいけないという風に考えています。そして、一層右側のところが、センター試験を経由しないで入ってくる入学者の比率ということで、こちらがこの年ですと、6%ということで、94%はセンター試験を経由して入ってきています。これにつきましては、入学後の授業がちゃんと一定レベル、維持できるということでプラスの面も大きいんですけれど、一方でなんか同じようなタイプの入学者の人が増えたんじゃないか、というような指摘も学内からありました。こういった様々な声がある中で、国際バカロレア入試を、ぜひ検討したい、していくべきじゃないか、という議論がおこりました。

それでは、実際に導入にいたるまでのプロセスですがこちらの図をみてください。まず大事なことは、正確な情報を集めることです。そのために、先行して実施している IB 校と，先行して IB 入試を実施している大学から、それぞれ情報収集をさせていただくということになりました。今日は、岡山大学さんへお伺いさせていただいていますけれど、岡山大学さんは、先行して実施されましたので、入試や入学者の状況を教えていただきました。
そして、IB 校につきましても、国内の一条校の学校さんに伺わせていただきました。授業を見学させていただくだけでなく、実際に IB 生の方々とのランチミーティングの場を設けていただいたり、TOK 授業を一緒に受けさせていただいたり、具体的にこちらが体感できるような形で、IB の良さを学ばせていただきました。そして、是非入学していただきたいなあ、という思いを強くいたしました。こういう正確な情報を直接収集しまして、これを大学に戻って、大学の担当の先生方に情報提供させていただきました。ただ、これだけですと、本当なのかどうかということを必ず指摘されますので、IB 校や、IB 入試を実施している大学の先生方から学内の先生方へ、直接情報提供をいただくという機会も設けさせていただきました。
その一つの例として、2015 年の 4 月に学内セミナーの実施があります。講師は文部科学省から国際課の方、立命館宇治中・高の久保先生、そして、本日このあとモデレーターもされる岡山大学アドミッションセンターの田中先生にもお越しいただいて、直接情報提供をし

ていただきました。また、このセミナーは、鹿児島大学の学長や副学長、また、各学部の学部長に出席していただけるよう日程調整を行いました。そして、大学トップの方々に、IB 入試は絶対必要なんだということを共有していただくことができました。その結果、学内の先生方からのご理解、ご協力のもと、2015 年 9 月に国際バカロレア入試を導入することを公表できました。こちらは、9 月 20 日の記者会見の新聞記事になります。この時に学長が述べたコメントを紹介します。「語学力や学びの主体性など、今までとは質が異なる学生を、積極的に受け入れていく。重要なのは、一般学生も共に学び、刺激を受けるということ。IB 生が入学されたとしても、数としては多くない。鹿児島大学は 1 学年約 2000 人いますの、数は多くなくても何人かでも入ってくれると、全く違うプログラムで学んだ方と一緒に、近くにいて話すだけでも、知的好奇心をくすぐられ刺激を受けプラスの効果が認められるということで、導入したということになります。」
また、実施する理由としては、先程、田原先生がお話されたと思いますが 10 の学習者像です。主体的に学ぶ、考える力、コミュニケーション能力、異質なものを受容する力、論理的思考力、課題発見、解決能力、挑戦する力ですね。まあ、こういったことを取り入れる有益なプログラムであるということで、IB 生と接しても感じましたので、いいなあという風に思いました。特にプログラムの中に、CAS があるのがいいなあと思いました。主体性という言葉はいい言葉なんですけど、CAS がもしなかったら、全体の中での調和とか、人に奉仕する心とか、こういったものが育たないのかなあと。そこは不安があったんですが、CAS を 150 時間位やられているのを聞いて、あー、大丈夫だなあ、是非来ていただきたいなあと思いました。CAS への取り組みを知り、鹿児島大学のモットーである、進取の精神というか、道のないところに道を作っていく、切り拓いていくという精神と一致していると感じました。鹿児島大学では、国際バカロレア資格の取得者は，本学が尊重する「進取の精神」と一致していると考えます。

実際に導入している内容ですが、まず、全学部全学科で実施していることが大きな特徴です。大学というのは、学部ごとに教授会があって、そこで意思決定されていきます。その中で、全学部がそろって導入できたということは、大きいことだったと思います。次に、大学入試センター試験を課していないことが特徴です。IB の先生方から見ると当たり前じゃないかと思われるかもしれませんが、センター試験が大学入学後の基礎学力を担保できている現状にあって、センター試験を課さないことを学内の先生方にご理解いただくことは大変なことでした。例えば「IB スコア 30 点は、センター試験では何点ですか」という質問が出た場合、教育プログラムが日本の学習指導要領とは一致していないので、センター試験の点数とそのまま比較できないが、大学入学後の授業に対応できる基礎学力は十分担保されているため、フルディプロマの資格取得者にセンター試験を課す必要はないという趣旨の説明をするのですが、ご理解をいただくにあたっては多くの先生方に繰り返し丁寧に説明していくことが求められました。その結果、最終的には多くの先生方にご理解いただけて、全学

部全学科でセンター試験免除ということになりました。なので、IB 入試では、書類審査のみ、または、書類審査と面接ということで、センター試験をはじめ小論文等の学科試験は課さないということになっています。

募集人数ですが全学部、若干名募集となっています。ちょっと見にくくて恐縮なのですが、この青の学科群が今まで志願実績があったということになります。それから、IB スコアの取り扱いですが、いくつかの募集単位で IB スコアを出願資格としています。医学部医学科 38 点、法文学部法経社会学科法学コース 30 点などです。通常、入試は、選抜して、合格者と不合格者が出て、合格者を受け入れるという形ですが、IB 入試については、基本的には、フルディプロマの資格取得が受け入れることを前提とした出願資格となり、あとは、適性やマッチングを面接や書類で確認するという意味合いがあります。ですので、他の入試とは選抜についての考え方が異なります。それから、出願要件の履修科目ですが、HL と SL の設定については、現実的な選択が出来るレベルにしました。大学側からすれば、例えば理工系の学部の場合、入学後の教育・研究を考えれば数学や理科はすべて HL にしたいと考えると思います。しかし、IB 校のカリキュラムの現実を踏まえなければ誰も出願できなくなってしまいます。そのため、大学側の意向と高校側の現在のカリキュラムを踏まえて出願要件の履修科目は設定しました。
実施状況ですが、資料の一番下の過去 4 年間の累計をご覧いただきたいのですけれど、志願者が 22 人、合格者が 16 人、入学辞退者が 12 人で、入学者が 4 人という状況です。辞退者がある程度出ることは予測していましたが、想定以上に多くなりました。考えてみれば、本学に入学してほしいと思った方は、他の大学でも入学してほしいと思う割合は高いはずなので、その中で、どうやって選んでもらうかというところが非常に難しい。結果として、辞退者が多く出て、継続して実施していくための課題の一つとなっています。もちろん、IB 校の生徒から見れば、日本のすべての大学で IB 入試が実施されている訳ではないので、専願になると受験しにくくなることは理解しています。しかし、大学側の立場から見ると、入試の準備から当日の面接にいたるまでの時間と労力に対して、合格者の多くが辞退ということになると、何のためにやっているのかという声もあるのが実情です。
　に入試スケジュールですが、出願期間が 1 月中下旬、面接が 2 月上旬という点に特徴があります。おそらく、現状では国立大学の中で最も遅い入試スケジュールではないでしょうか。理由は、11 月試験を受験された方は 1 月 4 日頃に正式スコアが出てくると思います。鹿児島大学ではその正式スコアで出願してもらえるように出願期間を設定しています。一方で、入試スケジュールが遅いということは、第一志望の方が受験してくれないのではないかという懸念材料が発生します。それでも、正式スコアを出していただいた方が受けやすいということを優先して、この日程にしています。
導入効果については、やはり他の学生、一般学生への触発ですね。やっぱり学んできた教育プログラムの違いがありますので、学生がお互いに知的な刺激を受ける、成長できる、そう

いった機会が増えます。これは非常に良かったと思います。それと、キャンパス内で、英語を話す光景が今まではあまり見られませんでした。しかし、最近は、来学された外部の方々から、英語を話している人が結構いらっしゃるのですねと言われることが増えました。

最後に今後の課題ですが、最重要な課題として、受け入れた IB 生に対する教育体制を一層充実させるということがあります。遅まきながらになるのかもしれませんが、これについては、IB 入試を導入したということでかなり進み、英語以外の授業を英語で行う授業が増えました。また、キャンパス内で日常的に英語に触れる場の設置や、海外研修プログラムの充実によって、海外に行く学生も年々増えています。これらの取り組みは、IB 入試の導入がなかったとしたら成しえなかったのだと思っています。だからこそ、今後の一層の充実が可能ですし、必要であると考えます。
現在、国内 IB 認定校数が増加しています。国は目標を 200 校に設定しています。また、IB 入試実施大学が、増加しています。その中で、鹿児島大学のポジショニングをどう再設定していくかが、喫緊の課題であると認識しています。そして、IB 校は増えているのですが、南九州地域で IB 校がないということ、せっかく IB 入試を導入したのに、地元に IB 校がないという状況ですので、鹿児島県に位置する大学として地域のことも考えていかなければいけない。ただ現状は、若干名募集なので、若干名募集のうちはあまり気にすることはないかもしれません。しかし、将来的に定員がついた場合に備えて、今のうちから考えておかなければならないと思っています。
それでは、時間になりましたので、以上、駆け足になりましたけが、鹿児島大学の国際バカロレア入試について紹介させていただきました。

「DP 校生徒の大学選びあれこれ」

講演者：立命館宇治中学校・高等学校
教諭　福島浩介

まず、なぜ皆さまは、この場へ参加して下さっているのでしょうか。皆さまの目的はどのようにしたら達成できるのでしょうか。もしくは、目的に近づけるのでしょうか。目的が達成されたら、どのようなことが可能になるのでしょうか。この場を通じて、そういうことをお考えいただければと思います。

IB について、日本では英語で行われる DP が IB である、だから英語ができるようになる、つまり IB で勉強したら、海外の大学に進学できるというように、一般的に捉えられている傾向にありますが、実際の IB では、英語、フランス語、スペイン語が公用語だし、母国の学習は大切にされている。絶対に母語をとらなければいけないし、その学校に先生がいなかったから、学校が先生を探してきて、SSST、School Supported Self Taught という形態があって、基本時間割の中、自学自習で学んでいます。僕も週一度ほどスカイプなどで、チュートリアル、遠隔授業をやってくれと頼まれて、フランスのマルセイユの近所のインターの生徒さんにやっていました。次に、MYP、PYP、DP があり、CP ときまして、先ほどご紹介がありましたように、DP の 6 教科のうち、4 教科が日本語でやっていい、日本語デュアルランゲージということが始まりました。この近所でいうと、英数学館とか理大附属とかで、デュアルランゲージで DP を提供していたり、する予定だったりします。

IB っていうのは、自己調整スキルなんかを含めて、学習の方法が整っているという点が、大変重要だと思います。なんとか勉強をやりとげるために、自分をコントロールしていくということまでもが理論化されて、ATL の中にあるというのがすごくいいです。必勝法があるのがいいとは言いませんが、全体的に細かくすぎるでもなく、大雑把すぎるでもなくありますんで、それがいいのかなあ、と思っているんです。大体日本の学校だと、PYP、MYP、DP の学年の配当はこういう風になります。認定されなければいけません。ここで注目いただきたいのが、学習の方法 ATL, Approaches to Learning と指導の方法 ATT, Approaches to Teaching が、両方ほぼ同じで、主語が違うだけなんです。

そういうことがあって、ゴールが個人の集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となるということですが、グローバルってどういう意味でしょうか。僕は、あの地球がぐるぐる回っている感じでありまして、ああいうのがグローバルだと思います。僕は児島という田舎の出身で、今日もマリンライナーで岡大までやってきたんですけど、児島でも別にそこそこだし、世界中どこへ行ってもそこそこやっていけるかなあ、という感じがあります。これがグローバル、っていう感じ。

CEFR というのがありますけど、僕たちは、何か目標を達成することのように思っちゃうんですが、実際には語学のリファレンスなので、今この人はどれくらいのレベルまで達してい

るかということを知るという手段なわけです。人は言語を通じてソーシャルエージェントであるという思想が根底にあり、目標じゃなく指標だと、そういうものなのです。IB も、CEFR もここの部分、日本にやってくると何か違った解釈になっているんだなあ、と。そういうところが面白いですよね。

続いて、PYP の例を。探究、探究と、探究という言葉を聞かない日はないこの業界で、でも探究とはいったい何だろうという感じで、PYP では、検索したり、疑問に思ったり、質問したりすること、実験したり、可能性を探ったりすること、これまでのウンタラカンタラ、これ位がこう並べられるんです。まあ、これ位だと大きすぎてざっくりでもないし、細かすぎて行動を規制するものでもないと思います。

これは極端な例ですけど、「私たちは、自分たちをどう組織しているのか」って内容を 4〜5 歳でやる。こんな（くらいの背の）子でね。学校とは何か、学校は何するのか、学校はどんな仕組みになっているのか、学校では誰が働いているの？どんなことをしているの？を 4〜5 歳で考えてもらう。4〜5 歳からこんなことをやらされ、8〜9 歳だと、私たちはどのように自分を表現するのか、っていうようなことにも取り組みます。広告の目的とか、広告ターゲットなど、こんな風に先ほどのような探究活動でやってきて、もう少しして 18 歳になるとさらに探究がすすんでいるかもしれません。

また、MYP と申しまして、こっち側が PYP で、向こう側が MYP なんですけれど、PYP、小学校の授業は、たいがい一人の先生がやります。ただ、社会とか、国語とか、算数とか、それぞれありますけれど、さすがに中学以上になりますと、一人の先生が全教科教えるのは難しいので、国語と社会科とかでコラボレーションする。これは、IB では、学際的と呼んでいます。

街のいたるところで水路があって、住民が落っこちると危ないです。あなたが市長さんだったら、どんな対策をとりますか？　答えてください。

水路の周囲に柵をつけるという考え。これは、日本だったら、事故は絶対許さん、住民が「行政は何をしているんだ」とかね、言いますよね？しかしこれだと、水路すべてに柵を設置する必要がありますよね。でも、市民一人ひとりには、何の能力もつかないし、他の街には柵はないですから、よそへ行ったら通用しません。じゃあ、市民が、全員、着衣でも泳げるようにする。これは、実際、オランダの自治体で、そういうことがあったって話を聞いて、へーって思いましたね。上手だろうが、下手だろうが、溺れなければいい。クロールだろうが、犬かきだろうが、神伝流のノシであろうが。確実に個人の能力となり、どこででも、おそらく身を助けるだろうとか思います。

ＤＰ(ディプロマ)の特徴は、さっき言っていましたから割愛します。次に、ＥＥ。課題論文ですね。これは、大学の先生が目にすると思うんですが、学校によって提出が要求されます。この作成に当たって、僕らは、添削は禁止されています。生徒が自分でやらなければなりません。構成も、引用、参考文献などの様式も厳密です。ずいぶん長い間、中・高校の教師やってますんで、卒業生には小論文の試験で大学へ行く生徒へその指導の必要がありまして、

添削などやっていたわけですけれど、ＥＥは指導をしてはいけない。ＩＢは、得点可されないんですけれど、CAS はやんなきゃなんない。日本だと、余計なことやってないで勉強しなさい、なんですけれど、IBDP だとそういうことを必ずやらなければならない。
サブジェクトの方は、決められた教科書はないのですが、扱うべきトピックや、つけるべきスキルなど、目標は示されているのですね。
日本の大学は、IBDP 終了生を、どの位とりたいと思っているのでしょうか。とってやらんでもないと思っていらっしゃるのでしょうか、というようなことを考えてしまうようなものが、募集要項には実際色々あります。日本語Ａもしくは日本語ＢのＨＬを履修のこと。日本語ＡのＳＬはダメで日本語ＢのＨＬはいい、笑っちゃいますね。
東京にある某国立の医科歯科大学ですが、何のために、必ず言語Ａと言語Ｂを履修しなければならないのか、日本語を英語を言語 A とってバイリンガルと認定されたときは、資格なしですよ。なぜですか？というと、IB がそう決めているからですという回答でした。それから EE とか TOK のエッセイは日本語の訳を出せと、読めないんだから、大学の先生達。(笑)　以前の職場で、サブジェクトは、英語でやっている子も、TOK は日本語で受けるって子たちがいました。日本の大学受けるから、なら、TOK エッセイとか、はなから日本語で書いておいた方がいいからっていう意見でした。
それから、東京の私立大学ですけど、資格証明の原本を提出しろ、原本照合は窓口ならしてやる、って。京都から見せに行かなきゃなんない(笑)また、横浜の某国立大学ですが、DP の Math の履修内容で、数学ＩⅡⅢ、AB の全てをカバーしているかどうか証明を提出のこと、とか。
面接についてですが、これはおもしろいです。先ほど、竹内先生がお話していらしたんですが、最終的に東北大学・医学部に行った子なんですが、私立の医学部の面接で、化学のことを聞かれて、「英語で化学やっているので、ちょっと日本語ではなんと言うのか分かりません」って答えると。君は、そんなことも知らないのかと、マウンティングされたなんて例もあります(笑)それから、広島大学の 2 年前の IB 入試、僕、この大学を出たのですが(笑)、11 月の統一試験の生物 HL の試験日に、広島大学が面接日をあててきました。DP 校の先生方から、出身者の僕のところへどうなっているんだって、電話が来ました。知らねーよ、そんなこと、と言ったんですが。ひどい話です。
続いて点数なんですね。図を見ていただければ、４５点で０．３％なので何だろう。標準偏差が 10 の正規分布だとすると偏差値 75 以上とか？それでもって、IB やっている学校は、どちらかというと上位の生徒達が学んでいる。アメリカ合衆国なんかでは多くの学校で力を入れてやっていますけど、シカゴの公立校では、平均点より上の方なら IB 受けさせてあげるということになっているそうですから、大体受け入れている人たちのアベレージは上の方で、その中での、それぞれの数値とお考えいただければと思います。グラフを見て頂くと分かるんですが、合計 30 点あっても、その他の条件を満たさないとディプロマがもらえないです。合計得点だけでなく、最低点にも基準があったり、コアの条件も満たさなきゃな

らなかったりします。
出願や、合格の条件として、ディプロマ取得は必須ということで、今までのお話が出てきたんですが、各点数を見ていただいて。フルディプロマが取得できなくても、例えば1個がちょっと2点とかなんだけど、高校で勉強する数学と理科は、サーティフィケートいけている、とか。国語と英語は、できるということも、考慮頂けるとよいかなと思います。
日本でIBDP受ける子はまだまだ少ないんです。IBDP校もたくさん増えているけど、海のものとも山のものとも分からないので、山梨学院だったか、1期生3人と言っていました。先生は多分7，8人いたと思うんです。すごくぜいたくですよね(笑)大学が積極的に、サーティフィケートの子も見て頂くようにならないと、IBDPにチャレンジする生徒は増えないです。
さて、受験生がいくつか合格をもらって進学先を決定するに際して、日本では1位だけども、世界で 42 位の大学に入学だけ許可されたのと、世界各地にキャンパスを持つ、世界で 27 位の大学に、フルスカラーシップで入学を許可されたのと、どちらを選ぶか？僕の知っている限り、そんな生徒が3人いましたが、全部後者を選びました。当たり前ですよね。発言、議論を推奨する環境と、空気を読んで発言、議論をする、しない、を考えたりする必要のある環境と、どちらを選ぶだろうか、と。
決められた教科書をみんなが使う、そして、それに基づいた試験があるとすれば、その教科書に載っていることを覚え、その範囲で素早く正解にたどりつく技術をみがきます。問題は設定してあるし、解き方も正解を教えてくれます。必勝法というのも出てきますね。これはやらなくていいと、迷わず反応します。そうなると、生徒諸君は「これは必要なのか」とか「役に立つのか」聞きますね、当然。あと、省エネで、最短距離の方法を教えてくれとか、このルールで競っている限りは安泰ですね。
ここだけの話なんですが、IBの授業を担当するのは、結構大変です。ものすごく大変です。教師としての度量をかなり試されているような気がします。IB のシステムで学ぶのは、これまた大変です。方向や方法は示されるものの、正解や必勝法を与えてもらえない中で、もやもやしながら自分の頭で考えなきゃなんないし、とても高度な要求をされるからです。でもね、対応力と自律性、柔軟性そして「こじつけ力」はつくんじゃないか、と思います。もちろん、波のないプールで水着を着て、クロールで 50mをなるべく早く泳ぐことも、例えば、服を着たまま流れる水路に落ちても、なんとか溺れないことも、どちらも価値のあることだと思います。どちらを選ぶか、どちらも選ばないか、両方とも選ぶかは、自分の脳みそで考えるべきことですね。Whatからではなく、Whyから考えてみるのも一興かもしれませんね。
その昔、多くの高校が帰国生徒を受け入れ始めた頃のお話です。少数の帰国生徒を入学させた学校の先生からは、彼らは学校を活性化させてくれるなど、ポジティブなフィードバックが多かった印象です。帰国生徒や外国人生徒が6割を超える学校では、面倒だけれど面白い、もしくは面白いけど面倒だ、というフィードバックでした。これ、僕もそうですが、ただ、

この環境では、今の改革(例えば麹町中学校)として話題になっているようなことの多くがすでに、20 年位前に実現されていた印象です。

さてさて皆様のアドミッションポリシーと照らして、なぜ DP 修了生をとろうと思っているのでしょうか。とるまいとお考えになるのでしょうか。どうしたら DP 修了生をとるのでしょうか。とらないことが出来るのでしょうか。DP 修了生をとったら、どのようなことが可能になるのでしょうか。とらなかったら不可能になるのでしょうか。さっき、バーッと並べた面接とか、何とかというのは、そういうところがディプロマの子は、ボコボコなんです。全体的にどうやって並ぶんだろうと思っていると思います。ちょっと意地悪な感じで申し上げましたけれど、募集要項を見て、例えば、岡山大学でありますとか、鹿児島大学でありますとか、合格させていただいた卒業生も知っています。どちらもよくお調べになっていて、IBDP フレンドリーな募集要項を書いてくださっていることも勿論わかりますが、本当にさっき並べたようなものは、本当の話です。もう、こうだと募集要項を見た時点で、DP 生徒は、受けないですよ。だから多分、そういう大学は、DP 生、来なきゃいいと思ってはるんで。そこは、その大学のお考え方だと思いますが。
デュアルが出来て、デュアルも、人は来てほしいですけど、残念ながらディプロマ取得したら大学がとってくれるということがないと、一般の候補生とか、受験生は、ある意味高校で DP やってみようと思いません。まずこの現状の IBDP 生の数なんか、誤差くらいの人数しかいないんだから、せめてこの辺で大学のご理解として、とっていただいて、入れてみてダメだったらそれは、（生徒の）お前のせいだ、で良いと思います。大学生がお前のせいだと言われた時、それからどうしていくかというのは、その子たちだと思います。そこまで大学が取り組んでやる必要はないと思います。すいません、時間が過ぎてしまいましたけれど、この辺りで終わります。

「IB 校（インターナショナルスクール）から見た大学選択行動」

講演者：カナディアンアカデミー
教諭　Victoria Lidzbarski
遠藤　クラム　智子

ちょっとその間に自己紹介をさせていただきます。神戸の六甲アイランドというところにある、カネディアンアカデミー（ＣＡ）の遠藤と申します。MYP と DP でジャパニーズを教えています。カネディアンアカデミーは２年目で、昨年の６月までは、１５年間ドイツにありますインターナショナルスクール　オブ　デュッセルドルフというインターナショナルスクールで働いておりました。ですから、国際バカロレア畑には、１７年ほどいます。ベテランという言い方もできると思いますが、ベテランというには、少し頼りないので、ベテラン風ぐらいだと思います。

こんにちは、みなさん、Victoria Lidzbarski です。よろしくお願いします。

デュッセルドルフではカウンセラーも兼務していましたので、その経験をつけ加えながら、通訳したいと思います。お顔を拝見したところ、英語ができそうな方々ばかりだと思うので、簡単な翻訳で大丈夫かと思っております。

Who are our students at CA?　　在校生データ
カネディアンアカデミーは６００人程度の学校なんですけど、そのうち３割程が日本人です。前任校デュッセルドルフの学校は１０００人規模の学校で、生徒は３～１８才まで。デュッセルには大きな日本人コミュニティがありますので、１０％位が日本人生徒でした。近くの日本人学校の小、中学校に通う子が多かったので、小中学部では少数ですが、高校生になると、大体１学年１５人位～２０人位の日本人がおりました。カネディアンと同様で IB 校なのですが、IB　Profile にもありますが、二か国語以上を操り、海外体験に富み、物怖じしない積極的な生徒が多いという印象です。

Where do our students go to college?

以前はアメリカの大学への進学率が高かったのですが、近年は進学先が多様化し、英語プログラムのある日本の大学への進学者が増加しています。１９年、２０年も増加傾向にあります。理由としては日本の大学の英語プログラムが充実してきたことに加え、本校の日本人生徒の割合が増えたことが考えられます。外資企業の撤退などで日本人生徒の割合が増えたということも一つの要因です。

International School of Düsseldolf Germany
ここで、デュッセルドルフの話をしようと思ったのですが、次のパネルディスカッションでお時間いただけそうなので、割愛します。

What courses or majors do our students choose to study in Japanese universities?

まず、特徴としましては、経済学部への進学者が多いことが挙げられます。近年、工学部、医学部、芸術系への進学希望者が増加しています。日本学関連の学部への関心は低く、生徒を送り出す側としては社会学、心理学、国際関係、政治学などの学部の英語プロ

グラムが充実してくれればと思っております。

本校の生徒は英語プログラムに進学しています。経済学部での英語プログラムのオファーが多く、経済学部という選択肢しかない状態です。進学者が多いからといって、経済学部に行きたいというのではないのです。また、経済学部に関しては、ＩＢの科目の中に、経済学があるので、生徒にとって、学部の内容が想像しやすいということがあったり、どのような勉強をするのか理解しているので、志望理由を書きやすかったりということもあるかもしれません。

When and how do international students make decisions about university destinations?

カネディアンアカデミーでは、１０・１１年生に進路相談開始し、１１年生の夏季休暇に進路決定という流れが主流です。学費、英語プログラムの有無、安全面、就労ビザ・資格などを考慮し、選択しています。

デュッセルドルフも同じく、大体１０年生位から、進路指導を始めます。ただ、DP プログラムの科目の選択をする時に、入試要項に書かれている必須科目を考慮し選択する生徒はほぼいないと思います。１０年生の科目選択の時は大学への関心が低いのですが、なるべく行きたい大学を決めて、そこに必須の科目があった場合は、その科目を履修するようには指導します。けれども、志望校決定は大体１１年生になってからですし、あとで話しますが、デュッセルドルフの生徒の場合は、卒業してから７月に DP の結果が出てから、進路指導することが多いと思います。

When should admission officers visit international schools and how to do it?

学校訪問の時期ですが、９～１０月又は３～４月がよいかと思います。まずは大学カウンセラーとの日程調整をして頂くのが一番です。大学フェアへの参加もお願いしています。毎年、関東と関西のインターナショナルスクールが共同で大学フェアを開催しています。関西はと大阪インターナショナル、カネディアンアカデミーが交互に開催していまして、毎年１５−２０校の大学に参加して頂いています。韓国、日本、香港、バンコク、シンガポールなどが連絡を取り合い、大学フェアのスケジュールを調整しています。

大学フェアですけれど、ドイツでも、大学フェアを行っています。ドイツの場合は、ミュンヘン、ベルリン、ハンブルグ、デュッセンドルフのインターナショナルスクールで開催しています。大体６０を超える大学が集まって、大学フェアを開いていただいています。日本の大学の方にも、コンタクトし招待していたんですが、一校も来ていただけませんでした。

How can you best recruit international students?

一番は学校訪問をして頂くことです。大学カウンセラーとのメールで連絡して頂ければ助かります。募集要項、選考基準、奨学金、学部情報などをウェブ上で公開して頂けるとありがたいです。

また、ＩＢの科目が、科目認定されますと、生徒たちが大学を選ぶ時の、一つの基準になるのかなと思います。

How are Japanese university applications different from overseas?

海外の大学との一番の違いは出願方法です。日本の場合、出願期間が複数あったりと出願方法が複雑だと思います。またより多様な学部で英語プログラムが実施されればと思います。日本の大学の利点としては、学費を抑えられる点、慣れ親しんだ生活環境、充実した留学制度や認知度の高さが挙げられると思います。

ここでのポイントは、出願方法や情報の公開です。生徒によりますと、IB 入試の面接で、面接官の先生がＩＢのことを知らなかったということもあるそうですし、大学の勉強よりＩＢの方が難しかったという生徒もたくさんおります。IB 入試を実施していただけるのはありがたいですし、いろんなケースの生徒を受け入れて頂ければと思います。

遠藤先生、リトバルスキー先生、ありがとうございました。講師の各先生方に協力いただき、予定通り進められているところではありますが、プログラムの方で行きますと、ここで休憩に入り、１４：４５からパネルディスカッションを開始予定でありましたが、少し休憩時間必要でございますので、遅らせて、ここで１０分程度、休憩することにしまして、１４：５０からパネルディスカッションを行います。それではここで、１４：５０まで、１０分間の休憩に入らせていただきます。

「パネルディスカッション」

司会:それでは、予定の時間となりましたので、今からパネルディスカッションの方を開始させていただきます。本日のパネルディスカッションのモデレーターを務めさせていただきますのは、高大接続学生支援センターアドミッション部門長の田中克巳でございます。では、ここからは田中部門長の司会で進行させていただきたいと思います。それでは、田中先生よろしくお願いします。

田中：ただいま紹介していただきました、アドミッション部門の田中でございます。それではですね、まず、次のような段取りで行いたいと思います。岡山大学としては、一番お聞きしたいことは、IB 校の生徒さんは、大体何校くらい受験されているか、それに対して、どういったところを観点にして入学する大学を選ぶのか、まず伺いたい。先ほどの福島先生の講演の中でも、東京の某大学の話の中で、日本の大学における IB の理解不足が見受けられ、受験しにくいと。それぞれの IB 校の先生方からそういった実情を、まず遠藤先生、ビクトリアさん、そして福島先生からお話しして頂ければと思います。それに対してフロアからが質疑応答ということで、ご質問いただきまして、それにお答えいただくという形にしたいと思います。ひと段落しましたら、その後、取る方の大学の論理、そしてこれまでお話し頂いた、実施している竹内先生のご講演にもありましたけれども、合格者数に対する入学者数が少ない、これは AO 入試として岡山大学も行っているのだけど、岡山大学も専願に限ると必ず書いてあったんです（今はない）、ですが IB の世界では AO が終わったあと、一般前期があるわけでもないし、一般後期があるわけじゃないアクセプトがきた中から、入学する大学を決めるわけですので、それが３分の 1 になるのも当然かと思うのですが、その辺の原理を、１条校であるとか、IB 校であるとか、海外の大きな日本人コミュニティを持つ IB 校の日本人であるとか、インターナショナルスクールの生徒さんたちが、どのような選択行動をとるのか、ということをまず聞きたいと思います。

それでは、一番最初にカナディアンアカデミーの遠藤先生にお願いします。実はですね、お話の中にありましたけれども、昨年までデュッセルドルフのインター校を教えてらっしゃったと思うんですけれど。

デュッセルドルフというのは、私が知る限り、海外にある日本人コミュニティーで最大規模であります。多分パリであるとか、あるいはロンドンであるとか、全ての日本人 IB 校を集めれば、数は多いかもしれないけれど、デュッセルドルフというのは、ケルンのお隣にあるんですけれど、市内にはホテル日航もあるし、日本の定食屋さんもあるし、赤ちょうちんのお店もあるし、中には市内にある剣道場で、剣道をしている生徒もいる。それくらい大きな規模の日本人コミュニティーです。その彼らがですね、大学をどのように選ぶか、ヨーロッパに行くのか、日本に帰ってくるのか、帰ってくるとしたらどういう行動をとって大学を選ぶのか、その辺をちょっと聞かせていただけたらと思います。

カナディアンアカデミー遠藤先生：はい、わかりました。まず、デュッセルドルフですけれど、日本人コミュニティが大きく、デュッセルドルフの人口の１パーセント程度が日本人です。駐在員の方が多く、バブルの時はたくさんいたと思うんですが、住んでいらっしゃいます。インターナショナルスクール自体は 100 家族ぐらい在籍しています。近くの日本人学校の方に中学校もあり、中学校までそこに通って高 1 からインターナショナルスクールに入るという生徒が殆どです。そういう訳で、それまでは日本人学校で日本の教育を受けていて、高１で初めて英語の学校の教育を受け始め、１年の助走期間を経て DP プログラムを始めるという形です。そういう生徒たちが毎年 10～15 名在籍していますが、日本の大学の秋入学を希望する生徒は若干名です。殆どの生徒が、日本の大学に行くんですけれども、その中で秋入学が若干名です。７年生、８年生くらいから、インターナショナルスクールに在籍をしていて、英語の得意な生徒たちが秋入学の英語プログラムを希望して受験をします。そういう生徒以外は、DP が終わってから日本に帰って、そこから４月入学の受験をするという形になっています。毎年、卒業証明書や DP の成績証明書を１０部ずつ発行し、渡しています。そして、日本に帰ってみんな予備校に行くんですね。そこで大手の予備校の帰国子女コースに在籍します。在学中に進学指導は行います。日本の大学の方々にも、上智であるとか、早稲田、筑波、慶応、ICU、岡山大学、名古屋大学などの入試担当者の方には直接来ていただいて、大学の説明会を開いていただいていますが、実際にどこに出願するのかというのは、卒業後に正式な DP の成績がでて、日本に帰り、予備校に入り、そこで予備校の先生方の指導を受けて、出願をするという形になるパターンが多いとは思います。それでも在学中にどのような大学に行きたいかという話は、進路指導の中でします。駐在員の方は、関東出身が多いんですよね。やはりお父さんが行った大学に行きたいや、おじいさんやおばあさん、お母さんが行った大学に行きたいという理由で、東京の大学を志願する人が多いです。ただ、関西出身の生徒は、やはり地元志向が強いようで、岡山大学さんであったり、同志社、関学という大学を選ぶ傾向があると思います。私は長崎出身なんですが、沖縄の生徒は一人いましたが、九州出身の生徒は全くおりませんでした。先ほど鹿児島大学のお話がありましたけれど、長崎はどう、九州はどう、と言っても、ほぼ反応がない状態でした。あとはですね、デュッセルドルフの生徒の傾向としては、先ほども申し上げましたけれど、英語がやや弱い生徒が多いです。それはですね、英語が不得意というのではなくて、英語での教育を受けてこなかったので、やはり日本語の力の方が強い。ですから英語は B の生徒が殆どです。その B の生徒が１年間だけ勉強をして DP プログラムを始めるわけです。日本人生徒がたくさんいるので、日本語での課題論文（EE・Extended Essay)の指導が受けられずに、英語で EE を書く生徒もいます。ということは、その生徒は助走期間１年で、英語 B レベルで EE を英語で書いて、ディプロマをとる。24 点は相当高い点数です。ですから、大学関係者の方に知っていただきたいことは、同じ 24 点といっても、B の生徒の 24 点と英語 A を取っている生徒の 24 点では大きな差があるということです。また、そこで、EE は英語で書きながら、24 点を取れている生徒と、EE を日本語で書いて 24 点を取れているという生徒

では差があると思います。また、フル DP がないと、バカロレア入試受けられません。けれども助走期間 1 年で、1 つの科目でも 7 があったり、23 点取れたりするなら、かなり優秀な生徒だと思います。そういう意味で、ギリギリでディプロマが取れなかったが科目のサーティフィケートが取れた生徒が、IB 入試を全く受験できないのは残念だなと思います。科目のサーティフィケートでも IB 的なものを学習したということで、認めてもらえる制度があるとよいと思います。日本の中でも国際バカロレアの普及が進んでいると思いますが、IB 的なもの、TOK であるとか CAS とか、非常に日本の教育に必要なものだと思います。そこでフルディプロマではなくても、大学の方が 1 科目のサーティフィケートでも単位で認定してくださるとか、そういう形で動いていただけると、フルディプロマは難しいけれど、TOK だけはやってみようなどという形でも、IB というものが浸透するのではと思います。そういうことを検討していただけたらいいかなと思います。（少し話がずれてしまいましたけど）

田中：ありがとうございます。意外と秋以降は、東京の予備校には IB 生がいるということですね。

遠藤：そうですね。毎年、デュッセルドルフはホテル日航などで予備校説明会があります。予備校からチラシがたくさん送られてきて、パリではここで説明会があるとか、デュッセルドルフではここで説明会があるという形で、生徒たちは全員参加をしていると思います。予備校の先生方も、デュッセルドルフの卒業生が、どんなところ進学したかということの報告を丁寧にしてくださったりします。調査はしたことはないですが、そうですね、殆どの子が東京の大手の予備校に行きます。

田中：サーティフィケートに関しては、それは岡山大学の課題でもあるんです。続きましては、ビクトリアさん。先ほど 30%以上の学生がアメリカの大学へ行くというお話があったんですけれど、日本の大学に行く時は英語コースが必須と言われたんで、耳の痛いところなんですが、あの、受験校の数とかを、色々教えていただければ。ビクトリアさんお願いします。

ビクトリアさん：

福島：まあ、何校くらい受けるかということなんですが、先ほどの一連の先生方のご発言にもありましたが、学校によって出願の方法とか、要求されるものが違うんで，難しいかなあと思います。はい。ちょっと正確な数が、統計がとれていないので分かりませんが，今、ワイワイやっているのを見ている時なんですが、立命館宇治でも 6、7 校だったと思います。で、立命館宇治にはやはり、あの、中学から IPS といって、帰国の子で英語が出来る子が集まるコースがあって、その子達がずっと IB まで行くようにしているので、IB のところだけが外国みたいになる。IB として一つの学校みたい。とにかく一日のうち日本語より殆ど英語でしゃべっている方が長い、そんなところですので、立命館宇治は外国の大学へ出願する、IPS で帰ってきても大学は海外へ進学する。でもまあ、前の前にいた千里国際の大阪インター、それから英数学館はそうですけど、最近は日本の大学へ行く子も増えてきまして、

特に医学部とか、それこそいまの話に出たように卒業するまで英語で学べるコースとか。そういった点では、国内の大学を受験する生徒が増えてきている。
僕はちょっとデュアルランゲージ DP の話もしなければいけないと思っていまして、デュアルの子が DP をとりますけど、僕が話した資料の中に載せておきましたけれど、English B の成績、イギリスの調査機関の調べで、何点だったら CEFR の何点にあたるかを載せておきましたので。CEFR の、TOEFL とか TOEIC、英検とか対照表がありますので、それで比較してもらって、英検準 1 級だったら、英語の試験を満点にするという大学もいっぱい日本にあるので、CEFR の B1 レベルだと他の試験も同様に扱って頂きたいと思います。そういったところで、出願するとき、生徒はやっぱり募集要項を見て、まずここは分かってくれそうだなあ、ここはきっと分かっていないんだなあ、とか判断します。で、面接、僕が聞いた話によると、東北大学とか岡山大学とか、京都大学とかでは、面接で、すごく分かって下さって、話を聞いて下さったけど、他の私立医大なんかですと、生徒が、「英語でやったので日本語では何というのか分かりません」って応えると、「そんなことも知らないのか」と、そんな、18 歳の子をつかまえて、マウンティングする必要ないですよね、大学の先生(笑)　そういったところで生徒諸君は日本の大学を敬遠する。やっぱり欧米、特にヨーロッパの学校だと、IB をやっていたら奨学金を出すだとか、3 年で卒業できるとか、そういうのありますから。アメリカでも、アメリカは IB の学校がメッチャ多いんですけど、やっぱり IB の成績だけじゃなくて、SAT とかで判断はするようですが。以前、アメリカの IB 校を視察に行ったことがありまして、サンフランの公立とメンフィスの私立。公立の方は、カプチーノ高校といって、美味しそうな名前なんですが、空港の近くなんですね。一般的にはアメリカ合衆国の空港の近くって、そんなにいい地域ではない。ところがその学校、IB を始めると、どんどん良くなってきて、マグネットスクールというのか、で、美人の副校長先生のお話によると、DP をやった生徒達は、自分で大学に連絡してネゴするらしいんですよね、自分は IB でこんだけの得点をとったんだけれど、奨学金をくれないか、とか大学の単位にしてくれるのかとか。
じゃあ日本のこんな連中は、大学に連絡をして、私、今年 IB 満点取ったのですが、優遇してくれるんですか、とか奨学金くれるんですか、とか。ちょっとそんなことも、これから大学の方々が検討された方がいいんではないかと思います。ネゴしてきた子に対して、どのように答えるのか。なんだろう、日本の入試って、思うんですが、大学が、入れてやらんでもない、か、どんどん入って来てください、どっちかだと思う。受験生が言うことを聞いて、ダメだって判断だったら、とらなくてもいいと思いますし。いろいろな入試で生徒をとってくれるといいと思います。センターで、一般入試の生徒もいれば、AO の生徒もいれば、IBDP の生徒もいるという感じでしょうか。
田中：まだまだ、IB のことがまだ理解されていないということですね。
事務局：それでは、三者三様の報告をお伺いしましたので、どうでしょう。それでは、その前の講演のお話を含めて、パネルディスカッションをお聞きになって、何か質問のある方は

よろしく挙手にてお願いします。記録の関係上、質問に関しては，氏名と、簡単で結構ですが所属をお話しいただけたらと思います。質問ある方は挙手お願いできればと思います。いかがでしょうか。
フロア：静岡県にあります加藤学園暁秀高校の大嶋と申します。今、受験のアプライする学校の数、そっから話が出たんですが、日本語の要項を見た時、単願併願して、合格したら行きなさいというような内容なりが、きっちり書いてあるところと、そうでないところが、国立大学はいろいろ事情があるので、明確にしていないところがあるんですけど、そんな単願併願なんかを考慮すると、日本の大学だけで、６，７校は結構きびしいのかと、うちなんかだと３校ぐらいなんですが、ちょっとそのあたりの調整をどうされていますか。
福島：はい、国内はもちろん専願ですよね。AO だとここ必ずいきなさい。海外とか両方出される生徒さんとか、残念ながら IB を使うのではなく、AO でざっくりしたくくりの中で、IB も出願資格にしてあげるよというところだと、専願で入学確約じゃない所がありますんで。大体 9 月くらいから、11 月試験ということですので。トータルで６，７校、まぁでも国立でも２校とか３校とか、時期をずらして。去年英数学館、4 つ国公立を受けさせていただいたんです卒業生が。
遠藤：先ほど申し上げましたように、うちの場合は帰国する際に、出願書類をどこでも出せるような形で作成しています。卒業の時点でもう受験校が決まっていて、様式が決まっている場合は、所定の用紙に記入しています。こちらが出願書類を作成する時点は、IB の成績がまだ出ていないので、あとから IB の成績証明書を日本に送るという流れです。ですから、実際に何校受験したかを、生徒には報告するようにと言っていますが、そこまで把握できていないのが現状です。合格したという報告はくれますが、ダメだったというのは、なかなか連絡が来ないという状態です。
モデレーター田中：質問者へ質問返しなんですが、ちなみに加藤学園暁秀高校の生徒さんは、大体何校位受験されるのですか。
質問者大嶋：うちは県下で要する IB やっているコースでないところが、勢いがかなり強くて、あの試験まで粘らせてというのが基本的な受験前提になっています。それの流れの中で、他のコースの子は、英語コースは２校受けられないので、うちの学校は DP スコアーを使う所は２校、AO 推薦が１校、３校がマックスで。さらに色んな事情があって、プラス１校ぐらいは学校全体で検討をお願いすれば、何とかなることでして。実際に指導していて、うちの学校だったら３つぐらいは実際やらせてもらう限界かなあと思う。結局かなり入試時期に早い２学期に、見合った成績でないと、成績と処理同時進行で調査書を作っていくとか、色んな本人の指導が必要なのかなあと。プラス１は違う感じで。それが限界かなあと思う。それからもう 1 つ、あのイギリスがユーキャスというシステムがあって、母語は全部エントリーできているんです。だから理想を言えば、日本の大学をああいう形になってくれると非常に選ぶ方としては、指導がしやすくなる。今、本当に色んな学校が、色んな形で募集要項を作ってくるので、それに伴い２０人位したら、かなり担当する方は、あっちの要項見、

こっちの要項見、と生徒指導そこまで細かくないので、いろんなトラブルを避けるために、かなり四苦八苦している状況です。
田中：ありがとうございます。たしかに UCAS、英国の大学入試センターのようなものですが、出願を一括で受け付けるのはただ、うらやましとは思っています。ちなみに岡山大学はこれまで国際バカロレア入試を使うという AO 入試ということでやってきたんですが、どっかに小さく専願に限ると書いてあるんですが、説明会では、一切無視しているんです。
司会：それでは、他の方、いかがでしょうか。
フロア：筑波大学の白川でございます。ちょっと今までの話とは少しずれるかも知れませんが、私どものところは、日本の対応がまだ決まらないうちに試験をやるということで、そのために昔 IB 機構さんと相談したところ，予測点がありますということで。それであるていどやってあとで判定してから、最終的な発表をするというふうにしたんですが。昨年位から、IB 機構さんから予測点のデータいただきましたが、高校の方に請求すれすれば、高校の方から予測点で、今は高校の方に請求していただいているんですけれども。一つはそれが出していただけないケースがあるのと、実際の予測点と最終の判定がありまして、それが違ったというときに、合格出していいのか、どうか、ということで悩むことがありまして。その辺のところは解決策としては鹿児島大学さんのように最後に判定すればばっちり行けるのだと思うのですが。私どもの悩むところで。それに対して何かアドバイスをいただければ。私どもの方は、もともと AO 入試自体が専願ではないので、IB 入試も専願ではないですね。なので、どこかよその大学へ合格しちゃうと、合格しても辞退しますという、おっしゃるケースが結構あります。この辺のことについて、アドバイスがあれば。
田中：今、AO とおっしゃいましたけれども、筑波大学さんは普通の学部の AC 入試も専願ではないんですか。
白川：AC 入試というのがアドミッション入試ではなくて、アドミッションセンター入試ということですね。
田中：なるほど、AC 入試も専願ではない。プレディクテッドスコアと現実のスコアの差という問題はあるんですが、大学側から、田原先生いかがですか。
田原：岡山大学の IB 入試では，11 月に最終試験を受ける IB ディプロマ候補生は 10 月募集に応募します。出願時に IB 校から予測点を出していただきますが，合否判定は翌年 1 月に IBO が発表する 11 月試験のスコアーで判定しますので，予測点と最終スコアーの違いが問題になることはありません。昨年の 10 月募集では，極端な例がありましたので，お話します。医学部医学科は 39 点以上のスコアーを課しています。ある出願者の予測点は 39 点でしたが，最終のスコアーは 22 点でした。その受験者には最終試験の時などに何か特別な事情があったのかもしれませんが，これまでの IB 入試では見られかった極端な例でした。なお，予測点と最終スコアーがあまりにも違う場合には，IBO からその IB 校に指導が入ります。
岡山大学学生支援センターサビナ：最近あったことなんですが、プレディクテッドスコアで

出されて、ただ病気になって成績はギリギリ 38 点でした。その学生さんはどうすればよいかということで相談きたんですけれど、でもその学生さんともう 1 度。一つだけ、DP スコアーにしてアピールすることも可能です。そういう DP スコアーの成績の使い方でも、岡山大学では 1 つだけのサブジェクトをリテイクして。あともう一度プレディクテッドスコアでもう一度出願するということも、今年初めてやりました。
田中：私が存じ上げている、逆の例があります。かつてうちのプレディクトで 24 点の子で落とした子が、実際はプラス 7 点ということで、そのスコアーで来ていれば多分合格していたのではないかと私は想像しているんですが。そういった例もあります。
福島：プレディクテッドグレードちゃんとしないと叱られちゃうので、かなりちゃんと見てますよね、そんなゴリゴリとしないで。それから今、サビナ先生がおっしゃったように、IB をリザルト来て、気に入らなければ文句を言うことができます。何度か僕がスクールサポートでやっていた子はジオグラフィがあと 1 点足らなくて、こうこうこういうわけでもう 1 点あるんじゃないかと言うと、7 になって。39 点だったのが 40 点になったそうです。だからそういうのはあります。漢文 1 こ点数上がらなかったことを、英語だと理論上 3 回リテイクできますので、11 月 5 月と 3 回受けられるんですね。あぁリテイクは 2 回ですね。基本は残念ながら年 1 回ですので、次を待たなければいけませんが、現役生浪人とかでもリテイクしてトータル上がったら、もしかしたら受け入れるよとか、さっき言ったようなことをしていただけたらいい生徒がとれる。塾でやらなきゃ日本の大学で通らないかもしれないし、その辺のところも逆に言うと、へんてこな話だなと。
司会:時間が来ていますので、次、パネルディスカッションで、次のお話に移りたいと思いますが。私は岡山大学の高大接続学生支援センター副センタ長をしておりまして、1 点だけ。田中先生の方から岡山大学の IB 入試について、確約の文章が入試要項にあるけど無視してくださいというようなお話がありましたが、それは AO 入試時代の話で、今はその文章自体、入試要項にはございませんので、安心してお受け取りいただければと思います。ちょっと 1 点だけ、副センター長として修正させていただきます。
田中：それでは、受け入れる側の対策の方の導入といいますか、苦労話を、まあ知っていただければと思います。
竹内：さっきの事例報告と重複する部分があるんですけど、一番大切なことはですね、せっかくこういう入試が、優秀な IB 教育を受けた方を受け入れるということが出来る体制を、整備しておくということを大事に考えています。だから 1 回導入したら、最低でも 10 年は続けられるよう、続けることが大事かな。その為には制度設計の時に、IB 校の教育プログラムの現実と、受け入れる側の大学の各学部の求める水準に対して、これをいかに、いかに調整して、そして受け入れる体制に落とし込む。ところが現状、さっきの議論ですが、合格した場合、入学するという話題があったんですが、大学側としては、合格した場合は、入学してほしいと考えます。これが崩れてしまうと、これは IB を理解しているのですが、苦しいところです。実際、鹿児島大学では、AO 入試で合格した場合は、必ず入学するというの

が出願条件になっていて、それを外しているのは留学生入試を除くと IB 入試だけです。実際の IB 教育の現状を踏まえての対応ですので。ここが一番厳しいところではあるんですけど、大事なことは、さっき言ったことに戻りますが、優秀な方を受け入れる間口を、全学部全学科で持ち続けることですね。それを大事に考えて、できることをやっていこうと。
田中：ありがとうございました。では続きまして、サビナさん。岡山大学、これまでは、IB 生を受け入れ、48 名、46 名卒業生も出しています。42 名在籍していると思うんですが、彼らがどういう風にして岡山大学を選んできたのか。また、彼らに対して、アカデミックアドバイザー等として、岡大のどういったところを気に入って受けているのか。
サビナ：みなさんこんにちは。改めまして、全学の IB アドバイザーのサビナです。話の始まる前にみなさんに。アフリカは国ですか？大陸ですか？どういう風に考えていますか？これは大事です。これから話をします。What do you think of Africa,the country or the continent？
これは辞書では　continent になっていますが、アフリカ人に会ったらどう思いますか。例にすると分かりやすいです。やっぱり IB、私たちは自分も含めてアフリカ人のような方を見たら、アフリカと思ってしまう。アフリカはコンティネントで、色んな国があり、色んな宗教がある。色んな文化がある。色んな言語がある。だから IB という全体で、IB といって何でも、十か所いっしょではありません。すいません、IB アドバイザーをして 4 年半になります。今、42~46 人預かったんですけれども、やっぱり違いますね。最初は何が違わないというところから話してくると、IB のコア教育が、多分どの IB でも、ただ十か所の IB のプロファイルがすべて入っているわけではない。それがすごく一つ大事なことだから、TOK の考え方とか、CAS がすごくいかされてると思います。で、じゃあ、普通の話に戻ると、IB 生が岡山大学を選んでくれた学生から聞くと、一応センター試験がないことは、一番どなたでも、そういうことを先に言う。そして他のテストがない。ただそうするとじゃ辞退者はないはずじゃないですか。でも辞退者はあります。そこで何が違うかというと、辞退者はどこにでも出願したら、受験したら、どこにでもあるから、IB だからとは考えない。だから色んな事情で、関東の方は関東を選ぶとか、それから将来は関東で働きたいから関東の大学を選ぶ。それは自由で。岡山大学だから選ばないということではない。そして BP スコアーが 24 点から受けられていることが大きいですね。医学部は 39 だから、そこは岡山大学は 24 からで。書類検査も医学部以外は面接無しで受けられる。もう一つは、多分今、7 年目だから、モデル大学として何としてと聞いているから、変わってきてるからです、大学として。それは、今年初めて IB 生のサジェスチョンで、IB ブースを設けました。そこへ来てくれた IB 生や保護者さんとか聞くと、IB 生のアイディアで、そこへ、ホームページがものすごく分かりやすい、岡山大学のホームページが分かりやすいと。あとは、ホームページに何が分かりやすいかというところまで聞いたら、やっぱり学部ごとに何点だったら IB スコアーが、入れるかがはっきりしている。で、あとは定員。そういうところで言うと、IB 生は最初から覚悟して、岡山大学を受験しているというところが、岡山大学はちゃんと出来て

ると思います。そしてあとは、IB 生の声を聞いて、大学は少しずつ変わっている。うちはそこが大きかったと思います。あの受けてくださいと言われて受けただけじゃなく、IB 生からの悩みは、その HL というサブジェクトは 4 つとれないということ。ある大学では、ある大学は 4 つの HL じゃないとダメ、IB 生＝40 点 DP スコアーじゃないとダメ。そこは岡山大学は、よく理解してます。それも一つ、大きな自慢だと思います。大学は、大学側は、学生の声を聞くこと、カレッジカウンセラーの先生とよくネットワーキングして、何が問題点であるのか、どこまでクリアできるのか。うちは国立大学としてクリアできないかを、少しずつ、年毎にクリアしていくから、今みたいな内容になります。人数ではなく質だと思います。岡山大学の今の 42～46 人の、質は高い。ただ、スコアーだけでなく、考え方。先生方のフィードバックを聞くと、IB 生の方は、コミュニケーションはすごく上手、リーダーシップもたまに、はっきり言いすぎるというと、言うというところもある。でも、それも一つ意見じゃないですか。だから大学側としては、やっぱり質が高い。トータル、ホーリスティックというんですけど IB 生は。誰でもパーフェクトじゃないけど、IB 生は、トータルでまとまっているが、性格が持っているんじゃないかなあと、私は 4 年間ずっと本当に、24 時間の体制で IB 生受け入れてるんですよ。いい日も悪い日もあるんです。結構「先生今なにしてる」とか。本当に学生の心を聞きます。あとは、大学としては、期待しているのは、やっぱりインターナショナル、国際化していくという意味で IB 生はいいんじゃないか。私はもともと医学部で、医療者としては、患者さんの心をよくつかんでいく。教育学部はいい質のグローバル的な教育を受けられる。そういう学生さんはいます。本当に自慢だと思います。一つだけ、IB 生と日本の高校生の大きな違いは、大きな違いはあるんですけれど、バンジージャンプでいうと、IB 生はリスクテイカーということをよく言われるんですが。そういうとやっぱり、日本の高校生はリスクテイカーじゃないんですと、怒られるんですが、リスクテイカーなんですよ、ただ大きな違いは、IB 生はセーフティーネットがあるかないかを、確認しないでジャンプする。そこは日本の高校生は、アジア系の私も含めて、高校生は、セイフティであればジャンプしてもいいかなあという。それも一つ、私は憧れました。リスクライキングができる、将来何があるかよく考える、リスクしてもチャレンジが好きな IB 生は、私は大好きです。これからもずっと指導していきたいから、よろしくお願いします。

田中：どうもありがとうございました。それでは田原先生。

田原：きょうのお話の中で最も大事な点は 22 ページのスライドにあります。国際バカロレアは、世界で 50 年かけて作り上げてきたものです。各国共通の入学資格というのは、大学に入ってからも頑張れる資質や能力を保証する資格です。このため、バカロレアのディプロマ資格は、高卒資格のように単に大学の受験を認める資格ではありません。バカロレア教育内容とその評価を信頼して筆記試験を課ないということですね。また、それぞれの学部では、ディプロマ教育の課程でどのような科目を履修してもらう必要があるかを考えて要求しています。その辺の設計をきちんとやることがやはり必要です。鹿児島大学も同様に設計されています。次に最終試験の成績について合格の最低点何点にするかと言うことです。医学部

医学科の 39 点というのはとても高い点数ですけれども、それを設定した明確な根拠はないです。他の学部や学科については、最終試験の最低点を特に設定していません。これは、まずは、バカロレア修了生を受け入れて、入学した学生さんがどのように学ぶのかを見て考えていけばよいと考えます。24 点の最低点であった人が履修に困難をきたすような状況があれば、上げるという発想です。あと、フルディプロマが取れなかったらどうですかという質問。これはまだ、一般的な形式の入試の中では言われていませんが、プログラム 16 枚目見てください。グローバルディスカバリープログラムでは、コース履修者と呼ばれているフルディプロマを取れなかった人を受け入れています。それから、これはさっき話がありました、IB 履修科目の大学での単位認定をして欲しいということです。スライドの 29 枚目を見てください。この単位認定については、何度か講演でお話しし、文科省の方にもお話しましたが、実現されていません。29 枚目のスライドの一番下の枠、「大学が単位を与えることが出来る学修」に赤い字で記載しています。ここには普通高校の学修は対象にならないとあります。おもしろいことに TOIEC や TOEFL は、対象にしても良いよということです。聴衆の皆さんも、機会がありましたら、単位認定に向けてどんどん声を上げていただければと思います。

田中：ありがとうございました。それではフロアから聞きましょう。

司会：それでは、今、大学関係者の方から、今度はお話をいただきましたが、今のパネルディスカッションのお話、加えてさっきの基調報告講演の話も踏まえて、フロアーの方から何かご質問がある方は、挙手にてお知らせいただければと存じます。

質問：東京学芸大学の中村と申します。よろしくお願いします。本学、来年からいよいよ始まるんですけど、ぜひ皆さんにお聞きしたいのは、こういうのは嫌だとか、こういう条件を出した大学は嫌だというのはあるんですが、逆に、高校の先生方からは、ここを特に見てほしい、もしくはすでに、面接のご経験のある高校の先生方からは、ここを聞いておいてとっても良かったという所を教えてください。

田原：あの、国際バカロレア入試の面接は、教育学部、医学部医学科、保健学科、歯学部が行っています。医学科の面接には、立ち会わせていただいたことがあります。面接の目的は、国際バカロレア教育を受ける中で伸ばしてきた力を見せてくださいということで行っていました。例えば、受検者は医学科の 1 年生という前提で、模擬患者さんとの対話を行います。対話にはお題があって、例えば、患者さんは認知症と糖尿病を煩っているが甘党で甘いものを食べたいと言っていますが、どのように話しかけますかなどです。それは本当に素晴らしいことだと思います。

フロアの女性：お一人ずつそれぞれの大学の方に。

竹内：はい、本学の受験生の経験しかないんですが、バカロレアの生徒さんは、学部レベルだけじゃなく、大学院までを視野に入れて入学されると聞きますので、学部を横断した受験はしないと信じています。ですので、大学としては、受験生の出願学部等に対する問題意識を細かく確認して、本学で学べる内容とマッチングするのかを重視しています。

司会：お時間でございますが、もし、ここのところがあればということで
福島：普通、センターの試験を受けて面接してくる子がもっていなさそうなところ、さっきから出ていますが、CAS のアクティビティのプロファイル、そうやってきた子のプロファイルとか見て、面接とかで確認していただいて、それが IB の特徴なんだなーと。
遠藤：私は、CAS について、点数に現れないものが CAS だと思うので、是非面接の方に CAS プロジェクトであるとか、どのようなサービスに関わったかということを聞いて頂けたらいいかなと思います。
司会：もう時間が迫っていますが、もうひとかたぐらいお受けしたいと思いますが、ご質問ございましたらいかがでしょうか。
佐野理事：ありがとうございました。岡山大学も先ほど言いましたように、あ、岡山大学のサブです。よろしくお願いします。合格者は 18 名 20 名近く出して、来ていただきている人が 10 名近くで、そのあたりで差がやっぱり気になって、合格した人に、できるだけ来ていただきたいという話があって、どんなことをしたらいいのかと、もちろんアドバイザーもきちんと置いて、ザビナさんにやっていただいておりますし、私ホームページも色々やってますけども、いまちょっとあった入試のところで、面接をどうするのか、医学部とかは面接はしているんですね。他学部はしていないんですが、これ、面接はした方がいいのか、必要ないのか、そのあたり、学生の側から見ると、要は海外の学生は、なかなか難しいのですけれど、実は今、スカイプとか、いろんなものがある。なぜ、面接をするのがいいのか。というのが、一つは要は、学生を全くその書類を出しているだけで、岡山大学のことは殆ど知らないし、しかしまあ、面接をすると、一応フェイス to フェイスで、岡山大学にいる人がどんな人というのが分かるということは、もしかしたら良い印象を与えられるのかなあ、と。そこが、引き止められる、何か興味を持っていただける一つのきっかけになるのかなあ。書類を出しているだけだと、さっきの one of them ですから、お金の問題もあるし、大事ですし、そちらの方が大きいかなあ、と。そんなにならないかもしれないけど、岡山大学を知ってもらう、そういう意味でも面接をやってみるのがいいのか、あるいは余分な負担をかけるので、そういうのは学生は嫌うのか、そのあたりをもし何か少し分かれば。
福島：はい、あの、勉強したのは幼稚園から大学院まで、全部でやってる学校なんですけど、入試やってうまくいかないときに、でも、試験受けてよかったと思ってもらえるようにしようと、面接やろうと思いましたので、やっていただくということを踏まえて。例えば今、スカイプとかっておっしゃっていましたけど、海外の学校におる子に、岡山まで来いというのは、スカイプでも可にしようということをやって、そこで他に岡大と同じくらいの大学にアピールしないと、学生の方も、文字を読んで、ホームページを見て、サポートページは甘いこと書いている訳ないんで、絶対にね。大学の先生方も、その学生を判断することは、学生も、その先生方を判断していることでので。例えば地球の裏側だったらちょっと幅を持たせていただいて、来なくてもいいスカイプだったら。僕はしていただいた方が、生徒も自分のことをいいたいのでいやというのはないと思う。

田中：えーと、それではですね、時間になっていますので、パネリストの方、どうしてもこれだけは言い忘れたということがありましたら。
福島：仲良くしている DP 校の先生が、もともと脳科学者でアメリカのサンディエゴで働いていたとき、日本人の東大とか京大とか出た方達が、アメリカのそれほどトップじゃない大学を出た人に、簡単に打ち負かされて愕然とした経験がおありで、で、これではいけないと思って日本へ帰ってきて DP 校で生物の先生になったって話があって。そこで負けないような生徒に育ってもらわないと、この国の将来、明るくないですよね。
田中：ありがとうございました。
司会：それでは以上でパネルディスカッションの方を終了したいと思います。改めて、パネリストの先生方に、どうぞ温かい拍手をお願い申し上げます。

大学教育再生加速プログラム

大学教育再生加速プログラム（AP）採択事業シンポジウム
～AP 事業（入試改革）総括シンポジウム
IB 教育に向き合った「岡山大学モデル」～アンケート

本日は、シンポジウム　～IB 教育に向き合った「岡山大学モデル」～　にご参加いただきましてありがとうございます。今後の参考のため、アンケートにご協力ください。（該当する番号を○で囲んで下さい。）

問１．ご所属はどちらですか。
１．国立大学　２．公立大学　３．私立大学　４．高等学校　５．小中学校
６．国際バカロレア認定校　７．自治体　８．民間企業　９．その他（　　）

問２．職種をご回答ください。
１．教員　２．事務　３．民間企業　４．その他（　　）

問３．ご担当のお仕事を回答してください。
１．入試（入試関係委員等を含む）　２．教務（教務関係委員等を含む）　３．管理職
４．教職　５．その他（　　）

問４．本日のシンポジウムの開催をどちらでお知りになりましたか。
１．ホームページ　２．本学からの案内　３．知人からの紹介　４．その他（　　）

問５．本日のシンポジウムはいかがでしたか。それぞれについてご回答ください。

■ **岡山大学モデルのフレームワーク～国際バカロレア教育に向き合った修了生受け入れ～**
岡山理科大学附属中学校・高等学校長　岡山大学名誉教授　（前岡山大学アドミッションセンター長）　田原　誠　氏
１．参考になった　２．まあ参考になった　３．あまり参考にならなかった　４．参考にならなかった

■ **鹿児島大学の国際バカロレア入試**　鹿児島大学アドミッションセンター准教授　竹内　正興 氏
１．参考になった　２．まあ参考になった　３．あまり参考にならなかった　４．参考にならなかった

■ **DP 校生徒の大学選びあれこれ～英語 DP 校とデュアルランゲージ DP 校～**
立命館宇治中学校・高等学校教諭　福島　浩介 氏
１．参考になった　２．まあ参考になった　３．あまり参考にならなかった　４．参考にならなかった

■ **IB 校（インターナショナルスクール）から見た大学選択行動**
カナディアンアカデミー教諭　遠藤　聡子・Victoria Lidzbarski 氏
１．参考になった　２．まあ参考になった　３．あまり参考にならなかった　４．参考にならなかった

■ **パネルディスカッション**
１．参考になった　２．まあ参考になった　３．あまり参考にならなかった　４．参考にならなかった

問６．全体の運営はいかがでしたか。
１．良かった　２．普通　３．あまり良くなかった
改善すべき点がございましたらご記入ください。

（　　）

<< 裏面へ続きます >>

問７．本学の取組についてお伺いします。

① IB 入試の設計について。

１．評価できる　２．まあ評価できる　３．あまり評価できない　４．評価できない

（上記を選択した理由　　）

② 入学後のサポート態勢について。

１．評価できる　２．まあ評価できる　３．あまり評価できない　４．評価できない

（上記を選択した理由　　）

③ 今後改善すべき点についてご意見をお聞かせ下さい。

（　　）

問８．その他，本日のシンポジウムに関してご意見・ご感想等，自由にご記入ください。

（　　）

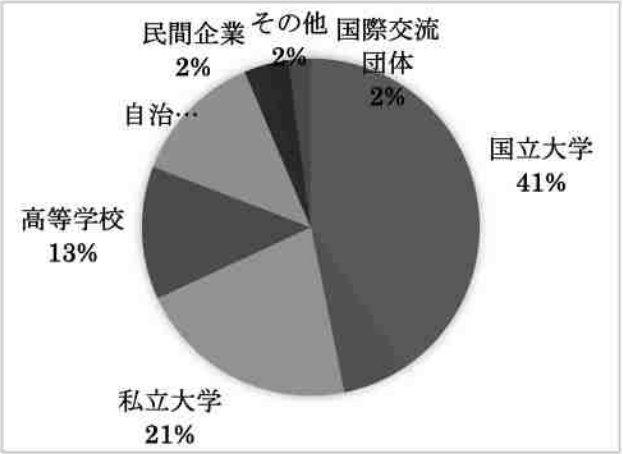
ご協力ありがとうございました。

大学教育再生加速プログラム採択事業シンポジウム
～　ＩＢ教育に向き合った「岡山大学モデル」　～

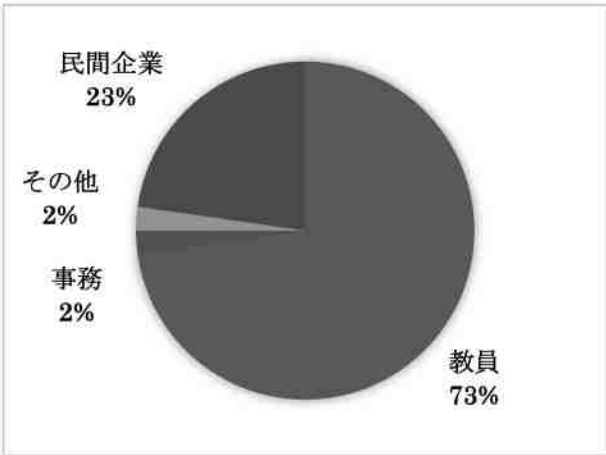
日　　時　　令和元年９月２９日（日）　１３時００分～１６時００分
場　　所　　岡山大学創立五十周年記念館

参加者数　　５２名（学外３６名　　学内１６名）
アンケート回答者数　４４名

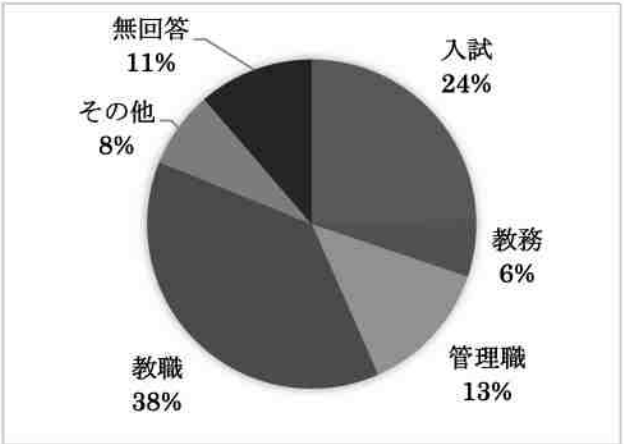
問１　ご所属はどちらですか。



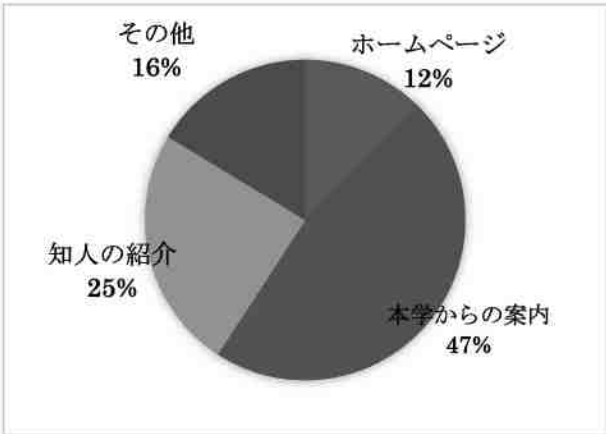
問２　職種をご回答ください。



問３　ご担当のお仕事を回答してください。



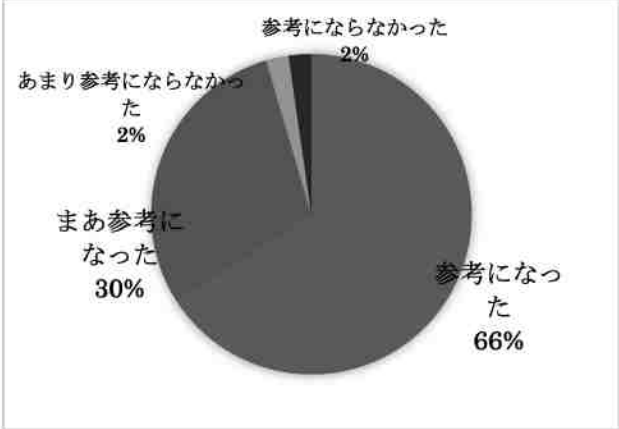
問４　本日のシンポジウムの開催をどちらでお知りになりましたか。



問５　本日のシンポジウムはいかがでしたか。それぞれについてご回答ください。

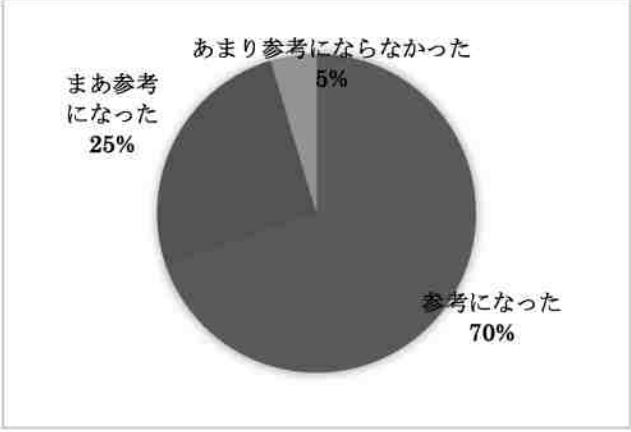
■岡山大学のフレームワーク～国際バカロレア教育に向き合った修了生受け入れ～

岡山理科大学附属中学校・高等学校長　岡山大学名誉教授
（前岡山大学アドミッションセンター長）　田原　誠



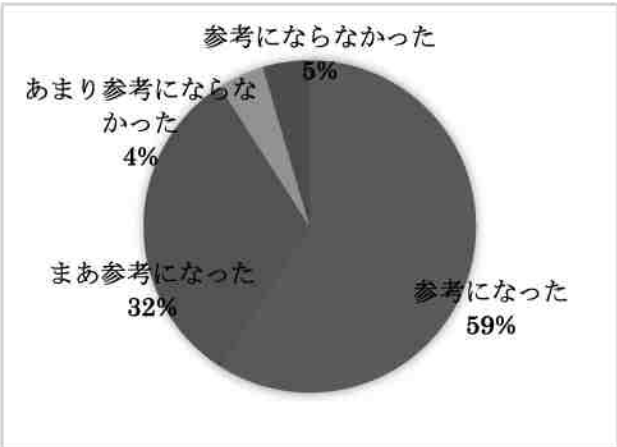
■鹿児島大学の国際バカロレア入試

鹿児島大学アドミッションセンター准教授　竹内　正興



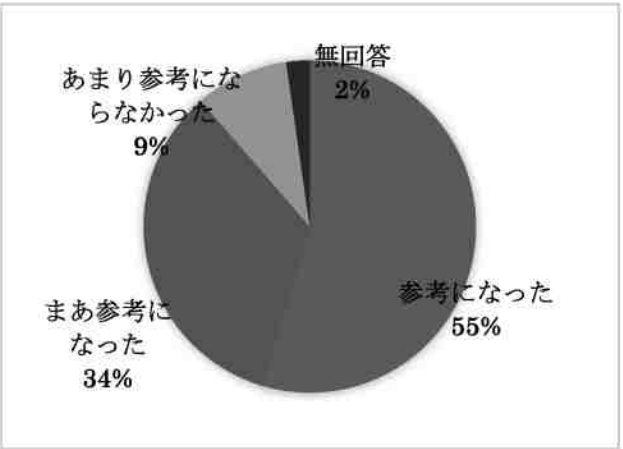
■ＤＰ校生徒の大学選びあれこれ～英語ＤＰ校とデュアルランゲージＤＰ校～

立命館宇治中学校・高等学校教諭　福島　浩介

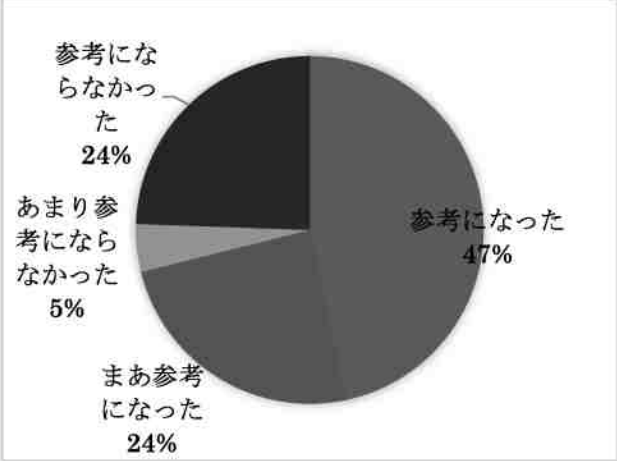


■ＩＢ校（インターナショナルスクール）からみた大学選択行動

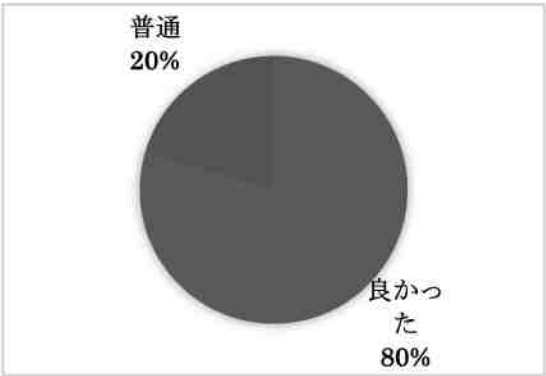
カナディアンアカデミー教諭　遠藤　聡子・Victoria Lidzbarski



■パネルディスカッション



問６．全体の運営はいかがでしたか。

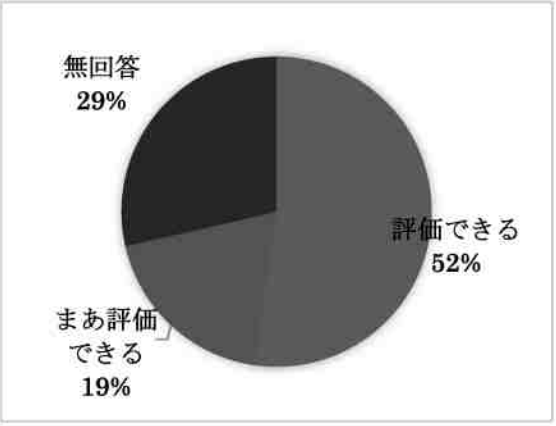


・「岡山大学モデル」が他の大学とどのように異なるか、さらに詳しく解説いただきたかった
・会場が少し寒かったです。
・参加者にもネームカードをつけてもらって情報交換出来たらよいと思いました
・マイク音量で田原先生の言葉が聞き取りづらい点があった。ビクトリア先生の談話をもっと訳してほしかった

・原田先生の進め方がテキパキとしていました。
・非常に内容の濃いシンポジウムであったと思います。

問７．　本学の取組についてお伺いします。

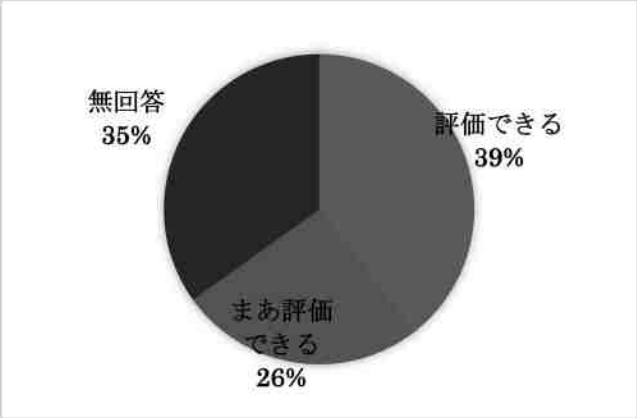
①　ＩＢ入試の設計について。



・入試がいわゆる「選抜」ではないことが、よく分かりました。
・導入の趣旨は理解できるが、地元志向の強い岡山の地で地元生以外をターゲットにしている入試制度と思われるのではないか
・何事も初の試みはやはりスゴい。うれしいです。
・TOK エッセイや論文を提出、CAS についても説明するのもいいなと思いました。
・国際バカロレアの現状理解に努めている様子がとても良かった。

・出願資格が詳しく記載されているから
・感想が書けるほど、理解できてないと思います。
・IB にあった募集をしていると思います
・本学の設計の問題点を再認識し、変えたいという気持ちが強くなりました。
・世界中で評価基準が統一されていること。かつ一定の学力が保証できること。
・他大学よりも一足早く進めたことを常に改善しようとする姿勢が見えるから
・フルディプロマで、試験が受けられ、合格を出してもらえる入試システムなので、とても良い。
・現状の入試では評価しにくい。主体性評価が容易となる可能性がある。
・説明が足りなかったため、回答できない。

② 入学後のサポート態勢について



・IB 入学者が増加してくると、いろいろと対応が必要になるのではないかと思いました。
・サビナさんの役割が素晴らしい
・不明
・教育方法（授業）
・1 人の IB アドバイザーがいるだけで十分とは思えないから。
・Sabina 先生が信頼できるから、岡大を受験したという学生がいました。
・入学後も IB 生の声を聞き入れる場面、態勢の整備がしっかりされているように感じた
・他学にはない充実したサポートだと思う。
・まだまだ大学入学において制約があること。今後の改善を望みたい。
・サビーナさんがいるから
・今年入学した、英数学館での生徒がとても楽しそうに、前向きに大学へ通っているという話を聞いているから。OC の IB 校ブースはとても良いと思いました。
・入学後のサポート体制が整っていればよいと思う。
・演者の時間厳守

③ 今後改善すべき点についてご意見をお聞かせください。

・日本語を話せないパネリストへのサポートがあるとよかった
（IB のシンポジウムでもあり、言語への配慮が必要では）
・岡大（が本気なら…だが）の教員ももっと IB を理解し、授業の質を高めてほしい。
IB 卒生に「つまらない」「簡単すぎる」など言われないレベルに上げていただきたい。
「岡大プライド」です。受け入れるならその覚悟も欲しい。でなければ、正直恥ずかしいです。
・岡大の IB 入学生をもっと地域へ PR していってほしい。
・特になし
・IB 入試合格者の辞退者が多いことが気になる。海外へ流れている？追跡調査が必要→今後の課題

問８．　その他，本日のシンポジウムに関してご意見・ご感想等，自由にご記入ください。

・詳しく知ることができました。ありがとうございました。

・パネリストに岡大 IB の学生が（当事者として）出席し、生の声が聞ける設定をするとより議論が深まるのでは。

・IB 入試を利用しようとする高校と大学の間に共通理解はあっても利害に大きな差があることを感じた。

・IB 校から見た大学選択行動で、私は学生なので英語がほぼ聞き取れなかったです…。
自分の能力不足ですが、和訳をもう少し増やしていただけると嬉しいかぎりです。

・大変参考になりました。質の高い教育を与える努力をいたします！

・大変参考になりました。ありがとうございました。

・イギリスの IB 受け入れ方式をまずは岡大、鹿大でやってしまうのはいかがでしょうか。岡山理大も入りたいです。

・たいへん勉強になりました。今後も IB 教育に関する知識、考えを深めるための機会を提供していただけることを期待しています。

・大変参考になりました。どうもありがとうございました。

・IB そのものより、岡山大学での採択の過程と現状を知れたのがよかった。
鹿児島大をはじめ、いろんな大学に普及してほしい。

・AP 事業のまとめとしてよくわかりました。

・肯定的な質問が多く、前向きな気持ちになれました。

・特になし

・非常に参考になりました。ありがとうございました。

広報活動 （2019年4月～2020年3月）

	Gunma Kokusai Academy Global Fair 2019	Kansai Regional College Fair 2019	Kanto Plain College Fair 2019	Yokohama College Fair 2019
日時:	2019年6月5日(水)	2019年9月12日	2019年9月13日	2019年11月13日
場所:	浜町勤労会館 群馬県 太田市	Senri and Osaka International Schools, 大阪	Hiroo Gakuen Junior & Senior High School, 東京	Saint Maurインターナショナルスクール, 横浜
訪問者:	Mahmood Sabina 准教授 GDP Ushida Eiko 准教授	Mahmood Sabina 准教授 GDP Ushida Eiko 准教授	Mahmood Sabina 准教授 GDP Haeng-ja Chung 准教授	Mahmood Sabina 准教授
岡山大学ブース訪問者	21人（学生：20人先生：1人）	40人(IB: 20人；GDP: 20人)	44人(IB: 24人；GDP: 20人)	40人（学生：35人;GDP11人；先生：5人）
希望の学部:	**10年生**：9名（女子：5名・男子：4名） 理：3名；医歯薬：1名 農：1名；法：1名；経済：1名 まだ分からない：2名 **11年生**：6名（女子：3名・男子：3名） 医歯薬：2名・法：1名；経済：1名； GDP:1名 まだ分からない：1名 岡山大学第二希望：4人 （医歯薬：2名；経済：1名；GDP:1名） **12年生**：5名（女子：4名・男子：1名） 医歯薬：4名・工：1名 岡山大学第一希望：1名(医歯薬) 岡山大学第二希望：2名(医歯薬)	医：15人；工：1人；経済：1人；文：1人 岡山大学第一希望者：4人；第二希望者：2人 (医歯薬)	医：13人；工：2人； 理：1人; 経済：1人；文：1人； まだ分からない；4人 岡山大学第一希望者：5人；第二希望者：4人 (医歯薬)	医歯薬：6；工：5；経済：4；教育：3；法：1； GDP：1；まだ分からない；4
参加しIB校, その他	Gunma Kokusai Academy	1. Ritsumeikan Ujii High School：**7人** 2. Senri International HS: **3人** 3. Osaka International School：**3人** 4. Doshisha International School：**2人** 5. Canadian Academy：**2人** 6. Nagoya International School: **1人** 7.先生：2人(SOIS)	1. Kato Gakuen Gyoshu High School：**7人** 2. Hiroo Gakuen: **5人** 3. St. Mary' s International School：**4人** 4. Tsukuba International School：**3人** 5. Gunma Kokusai Academy：**2人** 6. Yokohama International School：**1人** 7.先生：**2人**	1. St. Maur International School: **10人** 2. Horizon Japan International School: **8人** 3.Seisen International School: **2人** 4. St. Marys：**1人** 5. Christian Academy: 1人 6. Kaichi Nihon Bashi Gakuen: 1人 7.Sacred Heart: 1人

参加してないその他のカレッジフェア
K-International カレッジフェア（東京）

中止になったカレッジフェア
沖縄カレッジフェア（沖縄）

IB Booth at Shikata, Open Campus 2019

日時：2019 年 8 月 10 日(土)・11(日)　　午前９時～午後１２時・ 午後１３時～１６時

参加者：高大接続学生支援センター准教授　Mahmood Sabina

医学部医学科２年生(IB)：Ms. Hashimoto Chinatsu (8/10)

医学部保健学科 4 年生(IB)： Ms. Kurata Yuka (8/11)

場所：　基礎医学講義実棟 1 階、チュートリアル室１・２

訪問者：2019 年 8 月 10 日(土)

学生：**１４名**（10 年生：4 名；11 年生：3 名；12 年生：５名；13 年生：２名）

保護者：１０名；**先生**：２名

出身校：

1. 立命館宇治：**2 名**(男子;内一人岡山大学医学部第一希望)
2. St. Mary' s:　**2 名**　(男子;内二人とも岡山大学医学部第一希望)
3. 大安寺: **2 名**（女子);(内一人岡山大学医学部第一希望)
4. 群馬国際アカデミ：**1 名**　(女子);(岡山大学医学部第一希望)
5. 横浜国際：**1 名**(女子)
6. 沖縄尚学：**1 名**(男子)
7. 法政大学付属: **1 名**(女子)
8. International School of Amsterdam: **1 名**(女子);(岡山大学医学部第一希望)
9. I-International School, Taiwan: **1 名**(女子);(岡山大学医学部第二希望)
10. Kristin School, Auckland, New Zealand: **1 名**(女子)
11. American School of Brazilia: **1 名**(女子)

訪問者：2019 年 8 月 11 日(日)

学生：**5 名**（11 年生：3 名；12 年生：2 名）

保護者：5 名；**先生**：２名

出身校：

1. Hiroshima International School: **1 名**（女子; 岡山大学保健学科第一希望）
2. 立命館宇治：**3 名**(女子; 内一人岡山大学保健学科第一希望)
3. AICJ: **1 名**（女子）

● 高校訪問

国際バカロレア生の高校訪問（報告）

1　概要及び成果

国際バカロレア修了生が，母校での大学説明会に参加した。

高校生，保護者に進学体験を語ることにより，岡山大学の国際バカアロレア修了生受け入れについての状況等を伝え，理解を促進した。

2　日時及び訪問高校

令和元年 6 月 8 日（土）　英数学館高等学校（福山市）

13:00～16:00　大学個別相談会（ブース形式での個別相談）

16:00～16:30　大学個別説明会（講義形式での説明）

3　参加者

医学部保健学科 1 年生 1 名（英数学館高等学校 IB クラス卒業）が，全学教育・学生支援機構石井一郎 UAA とともに参加した。

（参考）大学説明会参加大学

北海道大学　国際教養大学　上智大学　筑波大学　国際基督教大学　早稲田大学

関西学院大学　岡山大学　広島大学　鹿児島大学　岡山理科大学

4　説明内容等

ブース形式の個別相談では，高校生，保護者の質問に丁寧に応答していた。

講義形式の説明では，高校で国際バカロレアクラスを選択した理由や，そこでの学習経験，岡山大学を目指した理由，岡山大学での学びについて，生徒，保護者にプレゼンテーションを行った。

説明がとても分かりやすく，高校生や保護者に好感を持って聞いてもらえた。

本学のことを知ってもらう上で，学生の参加がとても大きな効果をもたらした。

5　その他

母校訪問ということで，学生は，理事長，校長をはじめとする先生方と親しく会話を交わしていた。その様子から，高校時代の充実した学びをうかがい知ることができた。

● 地域貢献活動

Earth8ight Academy

国際バカロレア（IB International Baccalaureate）コース

国際バカロレア座談会！ Part3

～岡山大学准教授サビナ先生を囲んで～

日時：4 月 22 日（月） 4F / 17:00～18:00（全保護者向け・自由参加）

参加費：無料

☆お弁当や軽食をご持参いただきましたら、6 階で食べてから受講頂くことが可能です。

今回で第三回目となる「国際バカロレアについて学ぼう」の会。前回も多くの方にご参加頂きありがとうございました。前回、前々回はワークショップ形式での授業体験を梶川さんが行ってくれました。今回は、ご参加頂きました皆さんからの「もっとバカロレアについての情報や具体的な質問などにも答えてもらいたい！」というご要望にお応えし、**「座談会」**スイタルで開催致します。特別ゲストには岡山大学准教授で国際バカロレアの担当をされているサビナ先生にお越し頂きます！

① 岡山大学の視点から見た国際バカロレア

② 子育てをしている母親として

③ グローバルに生きる一人の女性として

サビナ先生の人生豊かな経験談を踏まえ様々な視点からお話しいただき、皆さんからのご質問にもお答えいただきます。これからの未来の子育てについて様々な情報があふれる中、何が良い情報なのか、どうやって判断すればよいのか、情報が多すぎて何をしたらいいのかわからない、という声をとてもよく耳にします。今回の座談会を通じて、よりリアルに、より身近なものとして未来の子育てを実感していくことができれば幸いです。ぜひお楽しみにご参加下さい。

＜講師紹介＞

サビナ・マハムド

出身：ダッカー、バングラデシュ

永住者職業：医者・医学博士（岡山大学医学部）

所属：岡山大学　高大接続学生支援センター学生支援部門准教授

全学 IB 生アドバイザー・留学生アドバイザー

☺参加表 ☺

参加ご希望の方は点線を切り取ってご提出ください。

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

■ IB生懇談会

岡山大学 高大接続・学生支援センター アドミッション部門
CENTER FOR ENROLLMENT MANAGEMENT DEPARTMENT OF ADMISSIONS OKAYAMA UNIVERSITY

大学トップ　全学教育・学生支援情報　サイトマップ　交通アクセス　お問い合わせ

日本語　English　文字サイズ　大きく　標準　検索

アドミッション部門紹介 | ミッション | 主な活動 | イベント | IB教育研究 | 学内限定ページ

新着情報

ホーム > 新着情報 > IB生懇談会

LINE@
入試情報を配信中！

IB生懇談会

本学は平成24年度に国立大学としては初めて国際バカロレア（IB）入試を導入し，この本学の取組は平成26年度からは文部科学省「大学教育再生加速プログラム（AP）事業」として採択されています。導入から8年，募集人員の定員化も進んでおりIB入試が定着してきました。現在，複数の学部にIB校出身学生が在籍している中，IB生に日本の教育制度に対する思いや，自身の大学生活などについて率直な思いを語ってもらうため，本学は5月14日，IB校出身学生と理事との懇談会を開催しました。

懇談会には2～5年生のIB校出身学生10人と佐野寛理事（教学担当）・総括副学長，門田充司高大接続・学生支援センター長（入試改革担当副学長）らが出席し，高大接続・学生支援センター学生支援部門のマハムド・サビナ准教授がファシリテーターを務め，活発な意見交換が行われました。

活発な意見交換をするIB校出身学生ら

学生からは「IB教育は知識を蓄えた後，その知識を使って理論立てて自らの答えを導いていく事に重きが置かれていて，レポート課題も多かったため，積極的に質問することや，議論を重ねることが自然に身についていった」といった教育制度の特長や，「自分の経験を話したことで，友人から留学するきっかけになったと感謝されて嬉しかった」，「センター入試を利用しない入試制度なので，他の学生から驚かれた」といった入学後の経験談のほか，「IB教育では普通のことであった積極的に物事に取り組む姿勢が目立ってしまい，環境に馴染むのに少し時間がかかってしまった」といった学生生活の悩みも語られました。

また，「プレゼンテーションや活発な議論が行われる機会が少なく感じる」，「英語で開講されている授業が少なく英語に触れる機会も減ったので，英語力が低下することへの不安がある」など，大学のカリキュラムについての忌憚のない意見も出され，理事とIB校出身学生双方がお互いへの理解を深める有意義な懇談会となりました。

本学ではこれまでIB入試により44人が入学し，2019年3月までに4人のIB校出身学生が本学を巣立っています。日本の教育の枠組みとは異なる学修方法を修得しているIB校出身学生には，それぞれが個性ある能力を伸ばしていくことで，日本の教育制度の中で育ってきた学生達との相互作用によるお互いの能力の向上を期待しています。

本学は今後もIB入試をはじめとした国際化に向けた大学改革に積極的に取り組み，グローバルに活躍できる人材を育成していきます。

今回の懇談会に参加した学生10名とマハムド准教授（後列左から3人目），
佐野理事（後列中央），門田センター長（後列右から3人目）

【本件問合せ先】
学務部入試課
TEL：086-251-7284

https://www.iess.ccsv.okayama-u.ac.jp/admissions/news/2019/06/1345/

■　他大学との意見交換

国際バカロレアに関する大学訪問

1　目　的

（1）本学が培ってきた入試方法や調査研究成果について他大学との共有を図る。

（2）他大学との意見交換を通して、今後の IB 入試の戦略の構築に資する。

2　訪問日時及び大学

- 2 月 27 日（木）　広島大学
- 2 月 28 日（金）　筑波大学
- 3 月 2 日（月）　横浜市立大学
- 3 月 5 日（木）　鹿児島大学
- 3 月 6 日（金）　西南学院大学
- 3 月 9 日（月）　大阪市立大学
- 3 月 16 日（月）　九州工業大学
- 3 月 16 日（月）　関西学院大学
- 3 月 19 日（木）　東京医科歯科大学

3　意見交換の主な内容

（1）国際バカロレア入試導入の主たる目的

（2）国際バカロレアの成績以外の入学者選抜資料

（3）国内一条校（日本語 DP）からの出願者の増加に対する工夫

（4）国際バカロレア入試の周知及び出願者増加に向けた取組

（5）合格後の入学率増加（辞退者の減少）に向けた取組

（6）国際バカロレアについての学内周知の体制や方法

（7）国際バカロレア修了生の入学による効果

（8）国際バカロレア修了生の大学での特徴的な活動

（9）国際バカロレア修了生に課しているミッション

（10）その他（今後の大学間連携の在り方など）